

The background of the entire page is a photograph of a modern university building with a light-colored facade and many windows. In the foreground, there are several cherry blossom trees with white and light pink flowers in bloom. The image has a soft, slightly faded green tint. A white rounded rectangle is overlaid on the top half of the image, containing the title text.

2019年度 人間環境学部 履修の手引き

法政大学

A decorative horizontal bar at the bottom of the page, featuring a close-up view of cherry blossom branches and flowers, matching the background theme.

目次

人間環境学部項目

※対象欄について

全	: 人間環境学部生全員
RSP	: リフレッシュ・ステージ・プログラム
SSI	: スポーツ・サイエンス・インスティテュート

番号	項目	ページ	対象(※)
1 はじめに			
1.1	人間環境学部の理念・目的および教育目標	学部 - (2)	全
1.2	学部の窓口取扱い時間ほか	学部 - (5)	
1.3	授業に関する通知	学部 - (6)	
2 学習計画			
2.1	2019年度予定表	学部 - (7)	全
2.2	単位制と履修登録	学部 - (8)	
2.3	セメスター制	学部 - (8)	
2.4	履修計画	学部 - (8)	
2.5	履修科目の登録	学部 - (9)	
2.6	クラス指定、抽選等の選抜がある科目	学部 - (10)	
2.7	Web履修登録	学部 - (11)	
2.8	履修登録の確認	学部 - (11)	
2.9	履修登録の訂正	学部 - (11)	
2.10	履修登録の取消	学部 - (11)	
3 履修規程			
3.1	2017年度以降入学者の履修規程	学部 - (12)	RSP, SSI 以外 全
3.2	2016年度入学者の履修規程	学部 - (19)	
3.3	2014・2015年度入学者の履修規程	学部 - (24)	
3.4	2012・2013年度入学者の履修規程	学部 - (29)	
3.5	リフレッシュ・ステージ・プログラム (RSP) の履修規程	学部 - (34)	RSP
3.6	早期卒業	学部 - (39)	全
3.7	修業年限	学部 - (39)	
3.8	教職課程・資格課程科目を履修する場合	学部 - (40)	
3.9	留級した場合に履修登録できる単位数	学部 - (40)	
4 ILAC(アイラック)科目、市ヶ谷基礎科目の履修			
【2017年度以降入学者】			
4.1	履修上の注意 ILAC科目0群～3群の履修	学部 - (41)	2017年度以降 入学者 RSP, SSI 以外 全
4.2	履修上の注意 ILAC科目4群(外国語)の履修	学部 - (41)	
4.3	履修上の注意 ILAC科目5群(体育)の履修	学部 - (47)	

番号	項目	ページ	対象(※)
4.4	目的と内容 ILAC科目 100番台～300番台/0群～5群の履修について	学部 - (49)	2017年度以降 入学者 RSP, SS1 以外 <input type="checkbox"/> 全
4.5	ILAC科目一覧	学部 - (54)	
4.6	ILAC科目/市ヶ谷基礎科目 新旧科目対応表	学部 - (56)	
【 2016年度以前入学者 】			
4.1	履修上の注意 市ヶ谷基礎科目 0群～3群の履修	学部 - (58)	2016年度以前 入学者 RSP, SS1 以外 <input type="checkbox"/> 全
4.2	履修上の注意 市ヶ谷基礎科目 4群(外国語)の履修	学部 - (59)	
4.3	履修上の注意 市ヶ谷基礎科目 5群(体育)の履修	学部 - (66)	
4.4	目的と内容 市ヶ谷基礎科目 0群～5群について	学部 - (68)	
4.5	市ヶ谷基礎科目 0・1・2・3群科目一覧表	学部 - (71)	
4.6	ILAC科目/市ヶ谷基礎科目 新旧科目対応表	学部 - (72)	
【 リフレッシュ・ステージ・プログラム (RSP) 】			
4.1	ILAC科目の履修上の注意 ILAC科目 0群～3群の履修	学部 - (74)	<input type="checkbox"/> RSP
4.2	ILAC科目の履修上の注意 ILAC科目 4群(外国語)の履修	学部 - (74)	
4.3	ILAC科目の履修上の注意 ILAC(アイラック)科目 5群(体育)の履修	学部 - (78)	
4.4	ILAC科目の目的と内容 ILAC科目 100番台～300番台/0群～5群の履修について	学部 - (80)	
4.5	ILAC(アイラック)科目一覧	学部 - (85)	
5 専門科目の履修			
5.1	新設・履修上の注意・休講・廃止科目等について	学部 - (87)	<input type="checkbox"/> 全
5.2	専門科目の種類と履修上の注意	学部 - (89)	
6 SAプログラム			
6.1	目的	学部 - (98)	<input type="checkbox"/> 全
6.2	対象年次	学部 - (98)	
6.3	派遣先大学および期間	学部 - (98)	
6.4	選考方法	学部 - (98)	
6.5	単位認定	学部 - (98)	
6.6	派遣事前・事後授業	学部 - (98)	
6.7	留学費用	学部 - (98)	
6.8	奨学金	学部 - (99)	
6.9	履修登録上の注意	学部 - (99)	
7 コース制			
<small>RSPはコース制を設けていませんが、科目選択の際に参考にしてください。</small>			
7.1	コース概要	学部 - (100)	RSP 以外 <input type="checkbox"/> 全
7.2	カリキュラムツリー・マップおよびナンバリング	学部 - (103)	
7.3	専門科目およびコース関連科目表	学部 - (104)	

番号	項目	ページ	対象 ^(※)
8 定期試験・補講・成績発表・その他			
8.1	定期試験	学部 - (109)	全
8.2	未受験申請	学部 - (113)	
8.3	補講	学部 - (114)	
8.4	成績および進級・卒業発表	学部 - (114)	
8.5	再試験	学部 - (115)	

市ヶ谷共通項目

I	学籍	共通 - (1)	全
II	履修	共通 - (11)	
III	キャンパス・サポート	共通 - (27)	
IV	緊急時対応	共通 - (31)	
V	その他	共通 - (35)	

参考資料

I	学則	資料 - (1)	全
II	法政大学憲章	資料 - (24)	
III	法政大学ダイバーシティ宣言	資料 - (25)	
IV	校舎案内図・施設一覧	資料 - (26)	

人間環境学部項目

1.1 人間環境学部の理念・目的および教育目標

人間環境学部の理念・目的および教育目標と、それに基づくカリキュラム・ポリシーは以下のとおりです。

理念・目的
<p>人間環境学部は、〈人間〉と「環境」が調和・共存する持続可能な社会への貢献を教育理念として1999年に誕生した。本学部は、文系の総合政策学部であり、また現代教養学部として、社会科学・自然科学・人文科学を融合させた学際的なカリキュラムによる教育を展開し、2017年3月には卒業生が5,000人を超えた。このような学部の歴史をふまえ、2030年を視野に入れた長期構想「人間環境学部2030 ～ For Our Sustainable Future～」を2016年度に策定し、学部の3つの事業（教育・研究・社会貢献）に共通する核心的ミッションを以下のように定義した。</p> <p>「人間環境学部は、〈モラルサイエンスへの自覚〉とともに、〈人間と環境の共存〉を基底的な価値としながら、〈人間と人間の共生〉にかかわる諸価値を含む統合的な持続可能性を、学際的かつ総合的な見地から、教育・研究・社会貢献の各事業を通して探究することにより、学部の社会的責任（Faculty Social Responsibility）を果たす。」</p> <p>核心的ミッションに基づく本学部の教育上のミッションは、学際的かつ総合的なESD（Education for Sustainable Development：持続可能な発展のための教育）により、まず第1に、〈サステナブル・シチズンシップ〉（持続可能性にかかわる権利と責任を自覚し、あるべき社会の担い手にふさわしい人間性）を涵養することである。第2に、幅広い視野と、知性と感性が結びついた教養とともに、1つの専門性を有するT字型人材、あるいはメインとサブの複数の専門性を有するU字型人材を育成することである。そして第3に、ESDを基盤とする本学部独自のキャリア教育により、持続可能な社会への〈実践知〉を有するチェンジメーカーの素養を身につけた多様な人材を輩出することである。</p> <p>本学部は、このような教育上のミッションを実現するために、〈人間と文明・文化に関する問題領域〉、〈科学・科学技術と社会に関する問題領域〉、〈市場経済に関する問題領域〉、〈グローバルなレベルにおける諸問題を包括的にとらえた領域〉、〈ローカルなレベルにおける諸問題を包括的にとらえた領域〉の5つとそれらの複合領域を、本学部の特性を活かした教育上の戦略的なフィールドとして、コース制に基づくカリキュラム体系に反映し、持続可能性に関する21世紀の多様な課題について学生が主体的に学ぶ教育環境を整備していく。その際、学部の黎明期からの伝統であるフィールド教育や社会と連携した教育を重視するとともに、法政大学のグローバル化戦略を体現した教育に取り組んでいく。さらに、一般学生に加え留学生や社会人学生など多様な属性の学生が集う学部のダイバーシティ化と、多層かつ多様なコミュニティの生成を促すことにより、〈開かれた学部〉づくりを推進していく。</p> <p>本学部は、以上のような教育理念・目的に基づく実践を通して、「『持続可能な地球社会の構築』に貢献する」という法政大学のミッションの実現に向けたフロントランナーの役割を担っていく。</p>

教育目標

人間環境学部人間環境学科は、法政大学の3つのミッションの1つである「激動する21世紀の多様な課題を解決し、『持続可能な地球社会の構築』に貢献する」役割を、教育面において中心的に担うことが可能な教育課程の編制により、豊かな人間性と現代人にもとめられる教養を涵養しながら、学際的な専門性と実践課題に対する政策能力の獲得によって、以下に示すようなT字型さらにU字型の人材を育成する。

1. 「人間と環境の共存」、「人間と人間の共生」という理念を、持続可能な社会における中心的な価値規範として理解し、人類の軌跡や現代社会の諸課題についての幅広い知識・思考能力と豊かな感性をもとにして、持続可能な未来を展望できる教養を有する人材。
2. グローバルかつローカルに、政治・経済・社会・文化・サイエンス（科学及び科学技術）に関わる諸課題に対して、持続可能性の観点から考察し、適切な解決手段を構想し実行できる政策能力を有する人材。
3. 持続可能な社会の担い手としてのシチズンシップを身につけ、多様な価値観を尊重しながら、社会に貢献する協働のネットワークの形成に必要なコミュニケーション能力を有する人材。

カリキュラム・ポリシー

■初年次教育の仕組み

初年次教育については、春学期開講の「人間環境学への招待」により、学部教育の全体像を理解し、人間環境セミナー、フィールドスタディにより、社会から実践的に学ぶ経験を経て、秋学期には基礎演習によってリテラシー能力を高めながら、自らの専門的な学習の方向性を模索し、2年次からのコース選択・登録と研究会履修に接続するサイクルを形成する。

さらに、学部教育と並行して、初年次から4年次まで市ヶ谷基礎（ILAC）科目により、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。

■教育課程の編制と特色

持続可能性を包括的に捉えた上で、「人間と環境の共存」、「人間と人間の共生」について専門的に学習することを目的とする「展開科目」では、社会科学・人文科学・自然科学の科目群を学際的に組み合わせ、講義科目を体系的に編成する。

本学部の教育課程の編制は、5つのテーマ領域から成るコース制を中心とする。学生が中心的に学ぶコースを自主的に選択し、学際的かつ総合的な教養と専門性を基盤としながら特定のテーマ領域を探究するカリキュラムにより、T字型さらにU字型の人材を育成することがコース制の目的である。

■学部・学科カリキュラムの構造

初年次教育を経て、2年次より、5つのコース（サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース、グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース、環境サイエンスコース）から1つのコースを選択・登録し、コースコア科目を履修することで各コースの専門性を深めつつ、コース共通科目およびコース連環科目により、学際的かつ総合的な教養と専門性を獲得する。

また、コース制と連動した研究会を設置し、少人数で集中的な学習を積み重ねてゆく。さらに研究会修了論文とコース修了論文は、卒業に向けて各学生が主体的に研究テーマを探究していく機会とする。

本学部の特色を反映したフィールドスタディおよび人間環境セミナーは、社会との交流・連携を通じた最新かつ実践的な知識や、他者に対して共感する力を獲得しながら、自らのキャリア形成のための意識づけの機会となるキャリア教育科目としても位置づける。

さらに、グローバル・サステイナビリティコースのコースコア科目、フィールドスタディの海外コース、SA、グローバルオープン科目、英語学位プログラム（SCOPE）との相互乗り入れ科目等の編制により、グローバルな人材への体系的な教育機会とする。

ディプロマ・ポリシー

■所定の単位の修得により、以下の水準に達した学生に対して「学士（人間環境学）」を授与する。

1. 実践的な語学や情報処理の基礎的な能力、文献購読・文章作成・コミュニケーションの基礎的な能力を身につけている。
2. 持続可能な社会に関する幅広い教養を身につけている。
3. 持続可能な社会に関する学際的かつ総合的な専門性を身につけている。
4. 持続可能性に関して具体的な課題について考察した上で、適切な判断を導き、それらを文章や対話を通じて表現することができる。
5. 社会の多様な人びとに対して共感する力と、現場（フィールド）から主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

1.2 学部の窓口取扱い時間ほか

(1) 学部事務窓口取扱い時間・場所等

1) 窓口取扱い時間

曜日	授業期間、定期試験期間の取り扱い時間
月～金曜日	9:00～11:30、12:30～17:00
土曜日	9:00～12:00

授業期間、定期試験期間以外についてはその都度、学部掲示板、学部ウェブサイト等で確認してください。最新情報は学部の掲示板になります。

2) 場所等

項目	内容
場所	大内山校舎1階学部学部事務課内
電話	03-3264-9327
E-mail	jkankyo@hosei.ac.jp
学部ホームページアドレス	http://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/
学部公式twitterアカウント	hosei_jinkan

(2) 教授室・研究室・学部資料室・教員掲示板・質問箱の場所

項目	場所
教授室（3箇所）*	大内山校舎3階、富士見坂校舎1階、富士見ゲート2階
教員控室*	ボアソナード・タワー5階
研究室*	ボアソナード・タワー、一口坂校舎
学部資料室*	ボアソナード・タワー24階
教員掲示板	ボアソナード・タワー24階
質問箱・記入用紙	ボアソナード・タワー24階

(注) *：立ち入りには許可が必要です。

(3) 教員への連絡

教員の住所・電話番号等は非公開です。また、事務窓口では教員との連絡依頼は受け付けていません。人間環境学部専任教員のみ、研究室番号、皆さんの勉強上の相談を受けるための「オフィスアワー」の時間帯等を公開していますので、学部ウェブサイトを参照して各自で連絡をとってください。兼任教員については、授業終了後に教室で質問したり、教員から指示がある場合はE-mailなどで連絡してください。

(4) 質問箱

人間環境学部では、大学や学部について学生からの質問・要望・意見を受け付けています。カリキュラム・時間割・授業・その他本学部での勉強や学生生活にかかわる様々な事柄について、質問を寄せてください。場所は上記(2)参照。

質問の受付は基本的に授業期間内とします。回答は、いくつかの質問が集まった段階で、随時掲示板に掲示します。人間環境学部は、学生の質問に真剣に耳を傾け、よりよい勉強環境を整備していきたいと考えています。積極的に利用してください。

1.3 授業に関する通知

(1) 掲示板

- 1) 休講情報や試験等、その他種々の通知はWeb掲示板で行いますので、学外からでも確認することができます。※2019年度より、原則として市ヶ谷キャンパス内に設置された掲示板は使用しません（緊急時等に使用する場合があります）。
- 2) 人間環境学部主催の専門科目に関する連絡は人間環境学部のWeb掲示板で行います。なお、「研究会」、「フィールドスタディ」、「キャリアチャレンジ」についての掲示は、ボアソナード・タワー24階人間環境学部資料室前の教員ごとあるいは項目ごとに設けてある専用掲示板でも行います。また、一部の専門科目は他学部、SSIが開設しているため、それぞれの学部、SSIのWeb掲示板を確認してください。



- 3) 「ILAC科目」（2017年度以降入学者）／「市ヶ谷基礎科目」（2016年度以前入学者）についての連絡は「ILAC科目」「市ヶ谷基礎科目」Web掲示板で行います。
- 4) 教職・資格課程科目についての連絡は、キャリアデザイン学部掲示板および教職・資格課程のWeb掲示板で行います。
- 5) 他学部公開科目についての連絡は、授業を開設する学部のWeb掲示板で行います。

(2) 休講

- 1) 授業は担当教員の病気や行事等のために休講となることがありますので、Web掲示板もしくは、情報システムによる全学休講情報照会機能、休講情報配信（メール）を利用のうえ確認してください。全学休講情報照会機能及び休講情報配信の利用期間は以下の通りです。

- ・全学休講情報照会： 授業期間中
<https://www.hosei.ac.jp/kyuko/index.html>



- ・休講情報配信：春学期は5月中旬頃、秋学期は10月中旬頃の稼働（いずれも予定）
なお、不可抗力により教員が大学へ連絡できないこともありますので、授業開始時間から30分を経過しても担当教員が出講しない場合は、休講とします。
- 2) 交通機関のストライキ、自然災害の際の休校措置については、共通-(33)「IV緊急時対応」ページの「3. 交通機関のストライキによる休講措置について」「4. 台風など自然災害の際の休講措置について」も参照してください。

(3) その他

情報ポータルサイト、授業支援システム、Webシラバスの利用については、大学ウェブサイトもしくは学習支援ハンドブックを参照してください。

2 学習計画

2.1 2019年度予定表

2019年4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

4月下旬 WEB履修登録
春学期授業開始

2019年5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	*18
19	20	21	22	23	24	*25
26	27	28	29	30	31	

5月中旬 履修取消
*5/18・25(土) 5時限目以降補講

2019年6月

日	月	火	水	木	金	土
						*1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	*29
30						

*6/1・29(土) 5時限目以降補講

2019年7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	*6
7	8	9	10	11	12	*13
14	15	16	17	18	19	20
試21	試22	試23	試24	試25	試26	試27
試28	試29	試30	試31			

*7/6・13(土) 5時限目以降補講

2019年8月

日	月	火	水	木	金	土
				サ1	サ2	サ3
サ4	サ5	サ6	サ7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2019年9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	オ13	オ14
オ15	オ16	オ17	オ18	オ19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

9月上旬 春学期成績発表
9月下旬 WEB履修登録
9/14(土) 9月卒業学位交付式/秋学期入学式

2019年10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	*19
20	21	22	23	24	25	*26
27	28	29	30	31		

10月上旬 履修取消
*10/19・26(土) 5時限目以降補講
*10/31(木) 3時限目以降大学寮準備のため休講、1・2時限目は授業実施予定

2019年11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	*9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

11/1(金)~11/4(月) 大学寮実施予定
*11/9(土) 5時限目以降補講

2019年12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	補24	25	26	27	28
29	30	31				

2020年1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	補15	補16	補17	18
19	20	試21	試22	試23	試24	試25
試26	試27	試28	試29	試30	試31	

2020年2月

日	月	火	水	木	金	土
					試1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2020年3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	ス9	ス10	ス11	ス12	ス13	ス14
ス15	ス16	ス17	ス18	ス19	ス20	ス21
ス22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

3月上旬 秋学期成績/進級卒業発表

- 授業日
- * 授業日 (5時限目以降補講)
- 補 補講日
- 試 定期試験日
- サ サマーセッション
- オ オータムセッション
- ス スプリングセッション

授業回数	月	火	水	木	金	土
春学期	14	14	14	14	14	14
秋学期	14	14	14	14 (13)	14	14

() 内は3時限目以降の授業回数

2.2 単位制と履修登録

卒業するためには、4カ年以上（最高8カ年）在学し、科目分野ごとに決められた単位を修得しなければなりません。各授業科目の単位数は次の基準で定められています。

基準
1単位は、毎週3時間（教室授業時間と自主学習時間の合計）、1 Semesterの学習活動が基準です。

定められた期間に履修登録を行った科目について、試験・レポートなどで評価を行い、合格すると単位が付与されます。

2.3 セメスター制

人間環境学部では、設立以来セメスター（semester）制（学期制）をとっています。セメスター制とは、1年を半期（6ヶ月）ずつに分け、半期をひとつの学期として授業を行う方式です。1年は春セメスター（春学期：4月から9月中旬）と秋セメスター（秋学期：9月中旬から3月）に分けられ、研究会・講義科目の一部を除き、科目履修（授業と成績評価）はセメスターごとに行われます。

2.4 履修計画

人間環境学部の授業科目は、「ILAC科目」（2017年度以降入学者）もしくは「市ヶ谷基礎科目」（2016年度以前入学者）および「専門科目」からなります。

人間環境学士の学位を得るためには、所定の授業科目の単位（卒業所要単位）を修得しなければなりません。

学位修得に必要な単位数およびその内容に関する規程は、入学年度毎に定められた「3.履修規程」をそれぞれ参照してください。

履修登録にあたっては、セメスター・年次別に定められた「履修可能単位数」があり、無制限に単位修得ができるわけではありません。1年次から4年次の在学期間中に無理なく卒業所要単位を修得できるよう履修計画を立ててください。

また、「専門科目」には「基幹科目」と「政策科目」があります。「基幹科目」は専門分野における基礎知識を学べる科目であり、科目によっては同じ分野の「政策科目」を履修する前に修得しておくことが望ましい場合があります。履修計画を立てる際は、単位数をそろえるだけでなく、シラバスや、学部-(105)の「コース制」を読んで、各々がより効果的な順序を考慮することが求められています。

2.5 履修科目の登録

(1) 「履修登録」制度

単位を修得するためには、指定の期間内に「履修登録」を行わなければなりません。期間内に履修登録しない場合、その科目の受講資格が認められず、留年となるばかりか、新入生は除籍となることもあります。

(2) 履修登録時期

履修登録は春学期および秋学期開始時の年2回行います。

春学期科目と年間科目は春学期に、秋学期科目は秋学期に履修登録します。年間科目を春学期・秋学期に分割して履修登録することはできません。また春学期に年間科目の履修登録を忘れた場合、秋学期に履修登録をすることはできません。年間科目である研究会の履修登録は春学期、研究会修了論文（研究会A受講者で希望者のみ）・コース修了論文（研究会A受講者以外の希望者のみ）・プログラム修了論文（RSPのみ）の履修登録は秋学期に行います。

また、「フィールドスタディ」「キャリアチャレンジ」は、実習を完了した次のセメスターに履修登録を行います。

(3) 履修登録単位制限と重複登録

履修登録できる単位数には、セメスター・年次ごとに上限があります。この制限を超えての履修登録はできません。また、下記のような履修登録はできません。

履修登録が認められないパターン

- ・ 同じ曜日時限に2つ以上の科目を履修登録
- ・ 同一セメスターで同名科目を複数履修登録
- ・ 既に単位修得済の科目を履修登録

ただし、「人間環境セミナー」「研究会」「フィールドスタディ」「キャリアチャレンジ」「SCOPE Seminar」「Field Workshop」は複数回の履修ができます。

「人間環境特論」は同一教員かつ同一サブタイトルの科目でなければ、複数回の履修ができます。

「テーマ別英語」は、担当教員が異なる場合およびテーマが異なる場合のみ重複履修ができます。

2016年度以降入学者の「研究会」修得上限は20単位です。

(4) 留学生の留意点

留学ビザ取得の関係上、留学生の方は1～5時限の授業を登録してください。

2.6 クラス指定、抽選等の選抜がある科目

履修できるクラスが指定されている科目、また受講者数に定員が設けられている科目、あらかじめ選抜等を受けて受講の許可を得ることが履修の条件となっている科目があります。受講の許可を受けずに履修登録した場合は、履修登録は無効となり、単位修得はできません。

(1) クラス指定のある科目

以下の科目は受講できるクラスを指定します。自分のクラスの指定された授業を受講してください。クラス指定は時間割表またはWeb掲示板でお知らせします。

ILAC科目／市ヶ谷基礎科目	専門科目
4群必修外国語 ・「英語」 ・「諸外国語」 5群必修保健体育 ・「スポーツ総合演習」（必修科目） ※RSPは5群の中から1科目（2単位）必修	リテラシー科目 ・「人間環境学への招待」

(2) 事前の選抜（抽選等）、振り分け等のある科目

以下の科目では、授業開始前に選抜（抽選等）、振り分け等を行います。申込の日時・方法等はガイダンスまたはWeb掲示板でお知らせします。

ILAC科目／市ヶ谷基礎科目	専門科目
5群必修保健体育 ・〈2017年度以降入学者〉 「スポーツ総合演習S」（選択科目、集中授業） ※RSPは5群の中から1科目（2単位）必修 〈2016年度以前入学者〉 「スポーツ総合演習」（選択科目、集中授業） ・「（補講）スポーツ種目」（再履修クラス）	リテラシー科目 ・「基礎演習」 ・「情報処理基礎」 ・「ネットワークとマルチメディア」 ・「統計とデータ分析」 展開科目 ・「研究会」 ・「フィールドスタディ」

(3) 初回授業時に選抜等を行う科目

以下の科目では、初回授業時に選抜等を行います。受講希望者は必ずWeb掲示板、シラバスを確認し、初回授業に出席してください。

ILAC科目／市ヶ谷基礎科目	専門科目
3群 ・「サイエンス・ラボA/B」 4群 ・選択外国語	リテラシー科目 ・「アクティブ語学」 ・「テーマ別英語」 展開科目 ・「フィールド調査論」 ・「比較演劇論Ⅰ・Ⅱ」 ・「ファシリテーション論」 ・「環境モデル論Ⅱ」 等 ※RSPのみ「ファシリテーション論」はリテラシー科目

2.7 Web履修登録

(1) Web履修登録

- 1) 「Web履修登録」におけるパソコンの操作については「Web履修登録マニュアル」を参照してください。マニュアルは学部ホームページからダウンロードできます。
- 2) IDに関して不明な点がある場合には市ヶ谷情報センター（BT4F）にお問い合わせください。
- 3) パスワードを忘れた場合は、情報カフェテリア（富士見坂校舎2F）で再発行を受けてください。

(2) 期間

- 1) 履修登録は所定期間のみ登録可能となっています。
- 2) 病気などのやむを得ない理由により期限までに履修登録できないときは、必ず事前に学部窓口ご連絡してください。連絡なく期限に遅れた場合、履修登録は受け付けられません。

(3) 科目の登録

履修登録期間内であれば、何度でも科目を削除・追加・変更することが可能です。履修登録期間の終了後に新たに科目を追加することはできません。

(4) 各セメスターで1科目も履修登録しない場合（0科目申請）

窓口にて所定の申請を必ず行ってください。

2.8 履修登録の確認

履修登録科目確認通知書は、原則として配付を行いません。各自Web履修登録の申請完了後に申請画面からプリントアウトしてください。

履修登録期間内にも出力は可能ですので、登録ミスや登録漏れを防ぐためにも、一度入力が終わったら出力して内容を確認しておくことを推奨します。

2.9 履修登録の訂正

Web履修登録（履修申請）時に「エラー表示」が出た場合は必ず訂正しなければなりません。ただし、「下限エラー」の場合は、訂正不要の場合もありますので、不明な場合は学部窓口で確認してください。

履修登録エラーが出ているにもかかわらず訂正を行わずに放置すると、履修登録が正常に完了しません。

エラーが発生する主な原因

- ・ 履修年次などの履修条件に違反している場合
- ・ 履修単位制限数を超過して登録した場合（各セメスター、年間制限単位数超過）
- ・ 同一科目を同一セメスターで重複登録した場合

2.10 履修登録の取消

履修意思がなくなったために登録を取りやめる場合、指定された期間内に限り、取り消しができません。学部窓口で手続きをしてください。

2017年度以降入学者用

(学生証番号の先頭2桁が「17」「18」「19」の学生用)

人間環境学部 2017年度以降入学者 履修規程

重要! 卒業要件や履修科目は、入学年度によって異なります。
必ず自分が該当するページを見てください。

3.1 2017年度以降入学者の履修規程

3.1.1 卒業所要単位

2017年度以降入学者用カリキュラム（一般学生用）

区分・系列			単位要件					
I L A C (アイラック)科目	100番台	基盤科目	0群		選択		14 単位 以上	22 単位 以上
			1群		選択必修	4単位以上		
			2群		選択必修	4単位以上		
			3群		選択必修	4単位以上		
			5群		必修	2単位 (スポーツ総合演習)		
	200番台	リベラルアーツ 科目	0群		選択		6 単位 以上	
			1群		選択必修	2単位以上		
			2群		選択必修	2単位以上		
			3群		選択必修	2単位以上		
			4群		選択			
外国語 科目	4群	英語	必修	4単位	8 単位			
		諸外国語	必修	4単位				
外国語 科目	4群	諸外国語	必修	2単位	2 単位 以上			
		英語 諸外国語共通	選択					
リテラシー 科目	フレッシュマン科目		「人間環境学への招待」	必修 2単位	6 単位 以上			
	スキルアップ科目		「基礎演習」	必修 2単位				
専 門 科 目 展 開 科 目	情報処理		情報処理	選択必修 2単位以上	90 単位 以上			
	アクティブ語学 テーマ別英語		アクティブ語学 テーマ別英語					
	法律・政治関連科目群		コース共通科目から 10単位以上 かつ、 コースコア科目から 20単位以上 学部-(104)	基幹・政策科目ごとおよび科目群ごとの履修制限はありません				
	経済・経営関連科目群							
	社会・地域関連科目群							
	人文科学関連科目群							
	自然科学関連科目群							
	環境総合科目		選択必修 6単位以上	修得上限なし				
	「人間環境セミナー」			修得上限 8単位				
	「フィールドスタディ」			修得上限 6単位				
	「キャリアチャレンジ」		選択(修得上限 20単位)					
	「卒業論文」	「研究会修了論文」	選択(修得上限 2単位)					
		「コース修了論文」						
	「人間環境特論」		選択(修得上限なし)					
	「インターンシップ」※注1		選択(修得上限 4単位)					
	「スタディ・アブロード」		選択(修得上限 16単位)					
「SCOPE科目」		選択(修得上限 12単位)						
「自由科目」※注2		選択(修得上限 20単位)						
卒業所要単位			130単位以上					

※注1 「インターンシップ」は、2018年度末で廃止になりました。

※注2 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「ESOP科目」、「ERP科目」、「グローバルオープン科目」、「短期語学研修」、「国際インターンシップ」、「国際ボランティア」が該当します。

3.1.2 カリキュラム構成図

ILAC科目(40単位以上)

0群	1群	2群	3群	4群	5群	
キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 大学を知ろう<法政学 >への招待 法政学の探究LA・LB	[基礎] [リベラル] 学部-(54)科目 一覧表参照	[基礎] [リベラル] 学部-(54)科目 一覧表参照	[基礎] [リベラル] 学部-(54)科目 一覧表参照	[必修] 英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 スペイン語 朝鮮語	[選択] 選択英語 4群外国語選択 科目(諸外国語)	スポーツ総合演習 スポーツ総合演習S 健康の科学LA/LB

学部専門科目(90単位以上)

●リテラシー科目(6単位以上)

フレッシュマン科目(4単位)	スキルアップ科目(2単位以上)		
人間環境学への招待 基礎演習	<情報処理> 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析	<アクティブ語学> 英語Ⅰ(初級会話) 英語Ⅱ(中級会話) 英語Ⅲ(上級会話) 英語Ⅳ(ビジネス会話)	<テーマ別英語> テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4

●展開科目(コース共通科目から10単位以上かつコースコア科目から20単以上を含む84単位以上)

科目群	展開科目	政策科目	自由科目
法律・政治関連	基幹科目 憲法の基礎 刑法の基礎 行政法Ⅰ 行政法Ⅱ アメリカ法の基礎 民法Ⅰ 民法Ⅱ 国際法Ⅰ 国際法Ⅱ 市民社会と政治 行政学 地方自治論 国際関係論 平和学 政策科目 環境法Ⅰ 環境法Ⅱ 環境法Ⅲ 環境法Ⅳ 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論Ⅰ 自治体環境政策論Ⅱ 地球環境政 治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障	政策科目	
経済・経営関連	基幹科目 ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 公共経済学 現代企業論 ビジネスヒストリー 経営学入門 環境経営と会計 簿記入門Ⅰ、簿記入門Ⅱ 政策科目 環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ 環境経営論Ⅰ 環境経営論Ⅱ CSR論Ⅰ CSR論Ⅱ 環境ビジネス論 国際環境政策Ⅰ 国際環境政策Ⅱ 途上国経済論Ⅰ 途上国経済論Ⅱ 国際経済協力論Ⅰ 国際経済協力論Ⅱ		
社会・地域関連	基幹科目 現代社会論Ⅰ 現代社会論Ⅱ 現代社会論Ⅲ NP0・ボランティア論 社会統計論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローバル・コミュニケーション 政策科目 地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論Ⅰ 都市環境論Ⅱ 都市デザイン論 環境社会論Ⅰ 環境社会論Ⅱ 環境社会論Ⅲ 労働環境論Ⅰ 労働環境論Ⅱ NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学		
人文科学関連	基幹科目 環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判の思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論 日本詩歌の伝統 日本環境史論Ⅰ ヨーロッパ環境史論Ⅰ 比較演劇論Ⅰ 環境表象論Ⅰ 環境人類学Ⅰ 現代思想と人間Ⅰ 政策科目 環境哲学基礎論 日本環境史論Ⅱ ヨーロッパ環境史論Ⅱ 比較演劇論Ⅱ 環境表象論Ⅱ 環境人類学Ⅱ 環境人類学Ⅲ 現代思想と人間Ⅱ		
自然科学関連	基幹科目 サイエンスカフェⅠ サイエンスカフェⅡ サイエンスカフェⅢ サイエンスカフェⅣ 自然環境論Ⅰ 自然環境論Ⅱ 自然環境論Ⅲ 自然災害論 地球科学史Ⅰ 地球科学史Ⅱ 気候変動論Ⅰ 気候変動論Ⅱ 環境健康論Ⅰ 環境健康論Ⅱ エネルギー論Ⅰ 環境モデル論Ⅰ 環境モデル論Ⅱ 政策科目 環境科学Ⅰ 環境科学Ⅱ 環境科学Ⅲ 自然環境論Ⅳ 自然環境政策論Ⅰ 自然環境政策論Ⅱ エネルギー論Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅰ 衛生・公衆衛生学Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅲ 大気と社会Ⅰ 大気と社会Ⅱ		
環境総合科目	政策科目 食と農の環境学Ⅰ 食と農の環境学Ⅱ 食と農の環境学Ⅲ 公害防止管理論Ⅰ 公害防止管理論Ⅱ 廃棄物・リサイクル論 環境教育論 キャリア入門 グローバルスタディーズⅠ グローバルスタディーズⅡ ローカルスタディーズⅠ ローカルスタディーズⅡ スポーツビジネス論Ⅰ スポーツビジネス論Ⅱ 環境マネジメントスタディーズⅠ 環境マネジメントスタディーズⅡ		

2018年度以降開講していない科目については、掲載していません。

3.1.3 卒業所要単位

留學生用 2017年度以降入学者用カリキュラム

区分・系列			単位要件					
I L A C (アイラック)科目	100番台	基盤科目	0群		選択		14 単位 以上	20 単位 以上
			1群		選択必修	4単位以上		
			2群		選択必修	4単位以上		
			3群		選択必修	4単位以上		
			5群		必修	2単位 (スポーツ総合演習)		
	200番台	リベラルアーツ科目	0群		選択		6 単位 以上	
			1群		選択必修	2単位以上		
			2群		選択必修	2単位以上		
			3群		選択必修	2単位以上		
			4群		選択			
外国語科目	4群	日本語	必修	4単位	4 単位 以上			
		英語または 諸外国語	必修	2単位				
専 門 科 目	リテラシー科目	フレッシュマン科目		「人間環境学への招待」	必修 2単位	6 単位 以上		
				「基礎演習」	必修 2単位			
	スキルアップ科目		情報処理	選択必修 2単位以上	90 単位 以上			
			アクティブ語学 テーマ別英語					
	法律・政治関連科目群		コース共通科目から 10単位以上 かつ、 コースコア科目から 20単位以上 学部-(104)	基幹・政策科目ごとおよび科目群ごとの履修制限はありません	84 単位 以上			
	経済・経営関連科目群							
	社会・地域関連科目群							
	人文科学関連科目群							
	自然科学関連科目群							
	環境総合科目		選択必修 6単位以上	修得上限なし				
「人間環境セミナー」		修得上限 8単位						
「フィールドスタディ」		修得上限 6単位						
「キャリアチャレンジ」		選択(修得上限 20単位)						
展開科目	「卒業論文」	「研究会修了論文」	選択(修得上限 2単位)	90 単位 以上				
		「コース修了論文」						
	「人間環境特論」		選択(修得上限なし)					
	「インターンシップ」※注1		選択(修得上限 4単位)					
	「スタディ・アブロード」		選択(修得上限 16単位)					
	「SCOPE 科目」		選択(修得上限 12単位)					
	「自由科目」※注2		選択(修得上限 20単位)					
	卒業所要単位				130単位以上			

※注1 「インターンシップ」は、2018年度末で廃止になりました。

※注2 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「ESOP科目」、「ERP科目」、「グローバルオープン科目」、「短期語学研修」、「国際インターンシップ」、「国際ボランティア」が該当します。

3.1.4 カリキュラム構成図

ILAC科目(40単位以上)

0群	1群	2群	3群	4群	5群	
キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 大学を知ろう<法政学 >への招待 法政学の探究LA・LB	[基礎] [リベラル] 学部(54)科目 一覧表参照	[基礎] [リベラル] 学部(54)科目 一覧表参照	[基礎] [リベラル] 学部(54)科目 一覧表参照	[必修] 英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 スペイン語 朝鮮語 日本語	[選択] 選択英語 4群外国語選択 科目(諸外国語)	スポーツ総合演習 スポーツ総合演習S 健康の科学LA/LB

学部専門科目(90単位以上)

●リテラシー科目(6単位以上)

フレッシュマン科目(4単位)	スキルアップ科目(2単位以上)						
人間環境学への招待 基礎演習	<table border="1"> <tr> <th>＜情報処理＞</th> <th>＜アクティブ語学＞</th> <th>＜テーマ別英語＞</th> </tr> <tr> <td>情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析</td> <td>英語Ⅰ(初級会話) 英語Ⅱ(中級会話) 英語Ⅲ(上級会話) 英語Ⅳ(ビジネス会話)</td> <td>テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4</td> </tr> </table>	＜情報処理＞	＜アクティブ語学＞	＜テーマ別英語＞	情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析	英語Ⅰ(初級会話) 英語Ⅱ(中級会話) 英語Ⅲ(上級会話) 英語Ⅳ(ビジネス会話)	テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4
＜情報処理＞	＜アクティブ語学＞	＜テーマ別英語＞					
情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析	英語Ⅰ(初級会話) 英語Ⅱ(中級会話) 英語Ⅲ(上級会話) 英語Ⅳ(ビジネス会話)	テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4					

●展開科目(コース共通科目から10単位以上かつコースコア科目から20単以上を含む84単位以上)

科目群	展開科目	政策科目	研究会(ゼミナール)	研究会修了論文/コース修了論文	人間環境特論	人間環境セミナー	フィリッドスタディ	キャリアアチャレンジ	スタディ・アプロード	SCOPE科目	自由科目
法律・政治関連	基幹科目 憲法の基礎 刑法の基礎 行政法Ⅰ 行政法Ⅱ アメリカ法の基礎 民法Ⅰ 民法Ⅱ 国際法Ⅰ 国際法Ⅱ 市民社会と政治 行政学 地方自治論 国際関係論 平和学 政策科目 環境法Ⅰ 環境法Ⅱ 環境法Ⅲ 環境法Ⅳ 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論Ⅰ 自治体環境政策論Ⅱ 地球環境政治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障										
経済・経営関連	基幹科目 ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 公共経済学 現代企業論 ビジネスヒストリー 経営学入門 環境経営と会計 簿記入門Ⅰ、簿記入門Ⅱ 政策科目 環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ 環境経営論Ⅰ 環境経営論Ⅱ CSR論Ⅰ CSR論Ⅱ 環境ビジネス論 国際環境政策Ⅰ 国際環境政策Ⅱ 途上国経済論Ⅰ 途上国経済論Ⅱ 国際経済協力論Ⅰ 国際経済協力論Ⅱ										
社会・地域関連	基幹科目 現代社会論Ⅰ 現代社会論Ⅱ 現代社会論Ⅲ NPO・ボランティア論 社会統計論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローバル・コミュニケーション 政策科目 地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論Ⅰ 都市環境論Ⅱ 都市デザイン論 環境社会論Ⅰ 環境社会論Ⅱ 環境社会論Ⅲ 労働環境論Ⅰ 労働環境論Ⅱ NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学										
人文科学関連	基幹科目 環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判の思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論 日本詩歌の伝統 日本環境史論Ⅰ ヨーロッパ環境史論Ⅰ 比較演劇論Ⅰ 環境表象論Ⅰ 環境人類学Ⅰ 現代思想と人間Ⅰ 政策科目 環境哲学基礎論 日本環境史論Ⅱ ヨーロッパ環境史論Ⅱ 比較演劇論Ⅱ 環境表象論Ⅱ 環境人類学Ⅱ 環境人類学Ⅲ 現代思想と人間Ⅱ										
自然科学関連	基幹科目 サイエンスカフェⅠ サイエンスカフェⅡ サイエンスカフェⅢ サイエンスカフェⅣ 自然環境論Ⅰ 自然環境論Ⅱ 自然環境論Ⅲ 自然災害論 地球科学史Ⅰ 地球科学史Ⅱ 気候変動論Ⅰ 気候変動論Ⅱ 環境健康論Ⅰ 環境健康論Ⅱ エネルギー論Ⅰ 環境モデル論Ⅰ 環境モデル論Ⅱ 政策科目 環境科学Ⅰ 環境科学Ⅱ 環境科学Ⅲ 自然環境論Ⅳ 自然環境政策論Ⅰ 自然環境政策論Ⅱ エネルギー論Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅰ 衛生・公衆衛生学Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅲ 大気と社会Ⅰ 大気と社会Ⅱ										
環境総合科目	政策科目 食と農の環境学Ⅰ 食と農の環境学Ⅱ 食と農の環境学Ⅲ 公害防止管理論Ⅰ 公害防止管理論Ⅱ 廃棄物・リサイクル論 環境教育論 キャリア入門 グローバルスタディーズⅠ グローバルスタディーズⅡ ローカルスタディーズⅠ ローカルスタディーズⅡ スポーツビジネス論Ⅰ スポーツビジネス論Ⅱ 環境マネジメントスタディーズⅠ 環境マネジメントスタディーズⅡ										

2018年度以降開講していない科目については、掲載していません。

3.1.5 進級するためには

進級するためには、各年次2 Semester 在学し、各年次に下記の単位要件を満たさなければなりません。1単位でも不足や間違いがあると、進級・卒業できないので注意してください。

進級に関する規程（人間環境学部）

第1条 第1年次より第2年次へ進級する者は、8単位以上を修得しなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次に4単位以上を修得しなければならない。
ただし、人間環境学への招待及び基礎演習は修得していなければならない。

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。
(1) 市ヶ谷基礎科目※のうち4群（必修）、5群及びスキルアップ科目の卒業所要単位
(2) 前号の単位を含め81単位以上

第4条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。

第5条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

※上記単位数には教職および資格課程科目は含みません。

※2017年度以降入学者は、「ILAC科目」として履修します。

※上記規程のほか、在学年数も進級・卒業に影響します。詳細は共通- (3)を確認してください。

3.1.6 履修可能単位数

(1) セメスター・年間の履修登録上限単位

人間環境学部では、各セメスターおよび年間での履修登録単位数に上限を設けています。各自、(3)履修登録上限単位数計算式により計算してください。

上限単位数には「教職科目」「資格科目」の単位数は含みません。

上限単位数を超えて登録した場合、登録エラーとなり正常に履修登録ができません。

(2) 通年科目について

通年科目を履修する場合、必ず春学期に登録してください。その場合、単位計算上は春学期の履修登録単位数に加算されます。成績発表は秋学期終了時になります。

秋学期履修登録時に、春学期に登録した通年科目は削除できません。

(3) 履修登録上限単位数計算式

春学期＝上限30単位まで登録可

秋学期＝49単位－春学期履修登録単位数（★）※上限30単位

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
ILAC科目 + 専門科目	当該セメスター 履修登録上限単位数	30	49-★	30	49-★	30	49-★	30	49-★
	各セメスター 履修登録上限単位数	30	30	30	30	30	30	30	30
	年間 履修登録可能単位数	49		49		49		49	
教職科目	年間 履修登録可能単位数	16		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	
資格科目	年間 履修登録可能単位数	登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	

★：春学期履修登録単位数

2016年度入学者用

(学生証番号の先頭2桁が「16」の学生用)

人間環境学部 2016年度入学者 履修規程

重要！ 卒業要件や履修科目は、入学年度によって異なります。
必ず自分が該当するページを見てください。

3.2 2016年度入学者の履修規程

3.2.1 卒業所要単位

2016年度入学者用カリキュラム

区分・系列		単位要件		
市ヶ谷基礎科目	0群(導入)	選択		40単位以上
	1群(人文科学)	選択必修 4単位以上	選択必修 24単位以上	
	2群(社会科学)	選択必修 4単位以上		
	3群(自然科学)	選択必修 4単位以上		
	4群(外国語)	必修 10単位以上		
		必修以外(修得上限なし)		
5群(保健体育)	必修	2単位以上		
	選択(修得上限2単位)			
リテラシー科目	フレッシュマン科目	「人間環境学への招待」	必修 2単位	6単位以上
		「基礎演習」	必修 2単位	
	スキルアップ科目	情報処理	選択必修 2単位以上	
		アクティブ語学 テーマ別英語		
専門科目 展開科目	法律・政治関連科目群		コース共通科目から 10単位以上 かつ、 コースコア科目から 20単位以上 学部-(104)	基幹・政策科目 ごとおよび科目 群ごとの履修制 限はありません
	経済・経営関連科目群			
	社会・地域関連科目群			
	人文科学関連科目群			
	自然科学関連科目群			
	環境総合科目			
	「人間環境セミナー」		選択必修	修得上限なし
	「フィールドスタディ」		6単位以上	修得上限8単位
	「キャリアチャレンジ」			修得上限6単位
	「研究会」		選択(修得上限20単位)	
	「卒業論文」	「研究会修了論文」	選択(修得上限2単位)	
		「コース修了論文」		
	「人間環境特論」		選択(修得上限なし)	
	「インターンシップ」		選択(修得上限4単位)	
	「スタディ・アブロード」		選択(修得上限16単位)	
	「SCOPE科目」		選択(修得上限12単位)	
「自由科目」※注1		選択(修得上限20単位)		
卒業所要単位			130単位以上	
			90単位以上	

※注1 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「ESOP科目」、「ERP科目」、「グローバルオープン科目」、「短期語学研修」、「国際インターンシップ」、「国際ボランティア」が該当します。

3.2.2 カリキュラム構成図

市ヶ谷基礎科目(40単位以上)

(※1、2、3群合計24単位以上)

0群	1群(4単位以上)	2群(4単位以上)	3群(4単位以上)	4群(必修外国語10単位)	5群(必修2単位)
キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 大学を知ろうく法政学 への招待 法政学の探究A・B	文学I・II 哲学I・II 倫理学I・II 論理学I・II 東洋史I・II 西洋史I・II 日本史I・II 宗教論I・II 文章論I・II 芸術I・II	法学I・II 法学(日本国憲法) 経済学I・II 心理学I・II 地理学I・II 政治学I・II 社会学I・II 文化人類学I・II 社会思想I・II	教養数学A・B 基礎数学I・II 発展数学I・II 原子から宇宙まで I・II 生命科学I・II 物質と環境I・II サイエンス・ラボ A・B 天文学I・II 科学史I・II	[必修] 英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 スペイン語 朝鮮語 日本語(留学生のみ)	[選択] 選択英語 4群外国語選択 科目(諸外国語) スポーツ総合演習 (必修、選択)

学部専門科目(90単位以上)

●リテラシー科目(6単位以上)

フレッシュマン科目(4単位)	スキルアップ科目(2単位以上)			
人間環境学への招待 基礎演習	<table border="1"> <tr> <td><情報処理> 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析</td> <td><アクティブ語学> 英語I(初級会話) 英語II(中級会話) 英語III(上級会話) 英語IV(ビジネス会話)</td> <td><テーマ別英語> テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4</td> </tr> </table>	<情報処理> 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析	<アクティブ語学> 英語I(初級会話) 英語II(中級会話) 英語III(上級会話) 英語IV(ビジネス会話)	<テーマ別英語> テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4
<情報処理> 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析	<アクティブ語学> 英語I(初級会話) 英語II(中級会話) 英語III(上級会話) 英語IV(ビジネス会話)	<テーマ別英語> テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4		

●展開科目(コース共通科目から10単位以上かつコースコア科目から20単以上を含む84単位以上)

科目群	展開科目	政策科目												
法律・政治関連	<table border="1"> <tr> <td>基幹科目</td> <td>憲法の基礎 刑法の基礎 行政法I 行政法II アメリカ法の基礎 民事法I 民事法II 国際法I 国際法II 市民社会と政治 行政学 地方自治論 国際関係論 平和学</td> </tr> <tr> <td>政策科目</td> <td>環境法I 環境法II 環境法III 環境法IV 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論I 自治体環境政策論II 地球環境政治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障</td> </tr> </table>	基幹科目	憲法の基礎 刑法の基礎 行政法I 行政法II アメリカ法の基礎 民事法I 民事法II 国際法I 国際法II 市民社会と政治 行政学 地方自治論 国際関係論 平和学	政策科目	環境法I 環境法II 環境法III 環境法IV 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論I 自治体環境政策論II 地球環境政治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障	<table border="1"> <tr> <td>自由科目</td> <td>SCOP E科目</td> <td>スタディ・アプロード</td> <td>キャリアアチャレンジ</td> <td>ワールドスタディ</td> <td>人間環境セミナー</td> <td>人間環境特論</td> <td>研究会修了論文/コース修了論文</td> </tr> </table>	自由科目	SCOP E科目	スタディ・アプロード	キャリアアチャレンジ	ワールドスタディ	人間環境セミナー	人間環境特論	研究会修了論文/コース修了論文
基幹科目	憲法の基礎 刑法の基礎 行政法I 行政法II アメリカ法の基礎 民事法I 民事法II 国際法I 国際法II 市民社会と政治 行政学 地方自治論 国際関係論 平和学													
政策科目	環境法I 環境法II 環境法III 環境法IV 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論I 自治体環境政策論II 地球環境政治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障													
自由科目	SCOP E科目	スタディ・アプロード	キャリアアチャレンジ	ワールドスタディ	人間環境セミナー	人間環境特論	研究会修了論文/コース修了論文							
経済・経営関連	<table border="1"> <tr> <td>基幹科目</td> <td>ミクロ経済学I ミクロ経済学II マクロ経済学I マクロ経済学II 公共経済学 現代企業論 ビジネスヒストリー 経営学入門 環境経営と会計 簿記入門I、簿記入門II</td> </tr> <tr> <td>政策科目</td> <td>環境経済論I 環境経済論II 環境経営論I 環境経営論II CSR論I CSR論II 環境ビジネス論 国際環境政策I 国際環境政策II 途上国経済論I 途上国経済論II 国際経済協力論I 国際経済協力論II</td> </tr> </table>	基幹科目	ミクロ経済学I ミクロ経済学II マクロ経済学I マクロ経済学II 公共経済学 現代企業論 ビジネスヒストリー 経営学入門 環境経営と会計 簿記入門I、簿記入門II	政策科目	環境経済論I 環境経済論II 環境経営論I 環境経営論II CSR論I CSR論II 環境ビジネス論 国際環境政策I 国際環境政策II 途上国経済論I 途上国経済論II 国際経済協力論I 国際経済協力論II									
基幹科目	ミクロ経済学I ミクロ経済学II マクロ経済学I マクロ経済学II 公共経済学 現代企業論 ビジネスヒストリー 経営学入門 環境経営と会計 簿記入門I、簿記入門II													
政策科目	環境経済論I 環境経済論II 環境経営論I 環境経営論II CSR論I CSR論II 環境ビジネス論 国際環境政策I 国際環境政策II 途上国経済論I 途上国経済論II 国際経済協力論I 国際経済協力論II													
社会・地域関連	<table border="1"> <tr> <td>基幹科目</td> <td>現代社会論I 現代社会論II 現代社会論III NPO・ボランティア論 社会統計論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローバル・コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>政策科目</td> <td>地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論I 都市環境論II 都市デザイン論 環境社会論I 環境社会論II 環境社会論III 労働環境論I 労働環境論II NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学</td> </tr> </table>	基幹科目	現代社会論I 現代社会論II 現代社会論III NPO・ボランティア論 社会統計論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローバル・コミュニケーション	政策科目	地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論I 都市環境論II 都市デザイン論 環境社会論I 環境社会論II 環境社会論III 労働環境論I 労働環境論II NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学									
基幹科目	現代社会論I 現代社会論II 現代社会論III NPO・ボランティア論 社会統計論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローバル・コミュニケーション													
政策科目	地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論I 都市環境論II 都市デザイン論 環境社会論I 環境社会論II 環境社会論III 労働環境論I 労働環境論II NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学													
人文科学関連	<table border="1"> <tr> <td>基幹科目</td> <td>環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判的思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論 日本詩歌の伝統 日本環境史論I ヨーロッパ環境史論I 比較演劇論I 環境表象論I 環境人類学I 現代思想と人間I</td> </tr> <tr> <td>政策科目</td> <td>環境哲学基礎論 日本環境史論II ヨーロッパ環境史論II 比較演劇論II 環境表象論II 環境人類学II 環境人類学III 現代思想と人間II</td> </tr> </table>	基幹科目	環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判的思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論 日本詩歌の伝統 日本環境史論I ヨーロッパ環境史論I 比較演劇論I 環境表象論I 環境人類学I 現代思想と人間I	政策科目	環境哲学基礎論 日本環境史論II ヨーロッパ環境史論II 比較演劇論II 環境表象論II 環境人類学II 環境人類学III 現代思想と人間II									
基幹科目	環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判的思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論 日本詩歌の伝統 日本環境史論I ヨーロッパ環境史論I 比較演劇論I 環境表象論I 環境人類学I 現代思想と人間I													
政策科目	環境哲学基礎論 日本環境史論II ヨーロッパ環境史論II 比較演劇論II 環境表象論II 環境人類学II 環境人類学III 現代思想と人間II													
自然科学関連	<table border="1"> <tr> <td>基幹科目</td> <td>サイエンスカフェI サイエンスカフェII サイエンスカフェIII サイエンスカフェIV 自然環境論I 自然環境論II 自然環境論III 自然災害論 地球科学史I 地球科学史II 気候変動論I 気候変動論II 環境健康論I 環境健康論II エネルギー論I 環境モデル論I 環境モデル論II</td> </tr> <tr> <td>政策科目</td> <td>環境科学I 環境科学II 環境科学III 自然環境論IV 自然環境政策論I 自然環境政策論II エネルギー論II 衛生・公衆衛生学I 衛生・公衆衛生学II 衛生・公衆衛生学III 大気と社会I 大気と社会II</td> </tr> </table>	基幹科目	サイエンスカフェI サイエンスカフェII サイエンスカフェIII サイエンスカフェIV 自然環境論I 自然環境論II 自然環境論III 自然災害論 地球科学史I 地球科学史II 気候変動論I 気候変動論II 環境健康論I 環境健康論II エネルギー論I 環境モデル論I 環境モデル論II	政策科目	環境科学I 環境科学II 環境科学III 自然環境論IV 自然環境政策論I 自然環境政策論II エネルギー論II 衛生・公衆衛生学I 衛生・公衆衛生学II 衛生・公衆衛生学III 大気と社会I 大気と社会II									
基幹科目	サイエンスカフェI サイエンスカフェII サイエンスカフェIII サイエンスカフェIV 自然環境論I 自然環境論II 自然環境論III 自然災害論 地球科学史I 地球科学史II 気候変動論I 気候変動論II 環境健康論I 環境健康論II エネルギー論I 環境モデル論I 環境モデル論II													
政策科目	環境科学I 環境科学II 環境科学III 自然環境論IV 自然環境政策論I 自然環境政策論II エネルギー論II 衛生・公衆衛生学I 衛生・公衆衛生学II 衛生・公衆衛生学III 大気と社会I 大気と社会II													
環境総合科目	<table border="1"> <tr> <td>政策科目</td> <td>食と農の環境学I 食と農の環境学II 食と農の環境学III 公害防止管理論I 公害防止管理論II 廃棄物・リサイクル論 環境教育論 キャリア入門 グローバルスタディーズI グローバルスタディーズII ローカルスタディーズI ローカルスタディーズII スポーツビジネス論I スポーツビジネス論II 環境マネジメントスタディーズI 環境マネジメントスタディーズII</td> </tr> </table>	政策科目	食と農の環境学I 食と農の環境学II 食と農の環境学III 公害防止管理論I 公害防止管理論II 廃棄物・リサイクル論 環境教育論 キャリア入門 グローバルスタディーズI グローバルスタディーズII ローカルスタディーズI ローカルスタディーズII スポーツビジネス論I スポーツビジネス論II 環境マネジメントスタディーズI 環境マネジメントスタディーズII											
政策科目	食と農の環境学I 食と農の環境学II 食と農の環境学III 公害防止管理論I 公害防止管理論II 廃棄物・リサイクル論 環境教育論 キャリア入門 グローバルスタディーズI グローバルスタディーズII ローカルスタディーズI ローカルスタディーズII スポーツビジネス論I スポーツビジネス論II 環境マネジメントスタディーズI 環境マネジメントスタディーズII													

2018年度以降開講していない科目については、掲載していません。

3.2.3 進級するためには

進級するためには、各年次2 Semester 在学し、各年次に下記の単位要件を満たさなければなりません。1単位でも不足や間違いがあると、進級・卒業できないので注意してください。

進級に関する規程（人間環境学部）

第1条 第1年次より第2年次へ進級する者は、8単位以上を修得しなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次に4単位以上を修得しなければならない。ただし、人間環境学への招待及び基礎演習は修得していなければならない。

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

- (1) 市ヶ谷基礎科目のうち4群（必修）、5群及びスキルアップ科目の卒業所要単位
- (2) 前号の単位を含め81単位以上

第4条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。

第5条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

※上記単位数には教職および資格課程科目は含みません。

※上記規程のほか、在学年数も進級・卒業に影響します。詳細は共通-(3)を確認してください。

3.2.4 履修可能単位数

(1) セメスター・年間の履修登録上限単位数

人間環境学部では、各セメスターおよび年間での履修登録単位数に上限を設けています。各自、(3)履修登録上限単位数計算式により計算してください。

上限単位数には「教職科目」「資格科目」の単位数は含みません。

上限単位数を超えて登録した場合、登録エラーとなり正常に履修登録できません。

(2) 通年科目について

通年科目を履修する場合、必ず春学期に登録してください。その場合、単位計算上は春学期の履修登録単位数に加算されます。成績発表は秋学期終了時になります。

秋学期履修登録時に、春学期に登録した通年科目は削除できません。

(3) 履修登録上限単位数計算式

春学期＝上限30単位まで登録可

秋学期＝49単位-春学期履修登録単位数（★）※上限30単位

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
基礎科目 + 専門科目	当該セメスター 履修登録上限単位数	30	49-★	30	49-★	30	49-★	30	49-★
	各セメスター 履修登録上限単位数	30	30	30	30	30	30	30	30
	年間 履修登録可能単位数	49		49		49		49	
教職科目	年間 履修登録可能単位数	16		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	
資格科目	年間 履修登録可能単位数	登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	

★：春学期履修登録単位数

2014・2015年度入学者用

(学生証番号の先頭2桁が「14」「15」の学生用)

人間環境学部 2014・2015年度入学者 履修規程

重要! 卒業要件や履修科目は、入学年度によって異なります。
必ず自分が該当するページを見てください。

3.3 2014・2015年度入学者の履修規程

3.3.1 卒業所要単位

2014・2015年度入学者用カリキュラム

区分・系列		単位要件			
市ヶ谷基礎科目	0 群(導入)	選択			
	1 群(人文科学)	選択必修 4 単位以上	選択必修 24 単位以上		
	2 群(社会科学)	選択必修 4 単位以上			
	3 群(自然科学)	選択必修 4 単位以上			
	4 群(外国語)	必修 10 単位以上 必修以外(修得上限なし)			
	5 群(保健体育)	必修	2 単位以上		
		選択(修得上限 2 単位)			
専門科目 展開科目	リテラシー科目	フレッシュマン科目	「人間環境学への招待」	必修 2 単位	6 単位以上
			「基礎演習」	必修 2 単位	
	スキルアップ科目	情報処理			
		アクティブ語学 テーマ別英語	選択必修 2 単位以上		
		法律・政治関連科目群	選択		90 単位以上
		経済・経営関連科目群	(基幹・政策科目ごとおよび 科目群ごとの修得制限なし)		
		社会・地域関連科目群			
		人文科学関連科目群			
		自然科学関連科目群			
		環境総合科目			
		「人間環境セミナー」	選択必修	修得上限なし	
		「フィールドスタディ」	6 単位以上	修得上限 8 単位	
		「キャリアチャレンジ」		修得上限 6 単位	
		「研究会」	選択(修得上限なし)		
		「研究会修了論文」	選択(修得上限 2 単位)		
	「コース修了論文」	選択(修得上限 2 単位)			
	「人間環境特論」	選択(修得上限なし)			
	「インターンシップ」	選択(修得上限 4 単位)			
	「スタディ・アブロード」	選択(修得上限 16 単位)			
	「SCOPE 科目」	選択(修得上限 12 単位)			
	「自由科目」※注 1	選択(修得上限 20 単位)			
卒業所要単位		130 単位以上			

※注1 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「ESOP科目」、「ERP科目」、「グローバルオープン科目」、「短期語学研修」、「国際インターンシップ」、「国際ボランティア」が該当します。

3.3.2 カリキュラム構成図

市ヶ谷基礎科目(40単位以上)

(※1、2、3群合計24単位以上)

0群	1群(4単位以上)	2群(4単位以上)	3群(4単位以上)	4群(必修外国語10単位)	5群(必修2単位)
キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 大学を知らうく法政学 への招待 法政学の探究A・B	文学I・II 哲学I・II 倫理学I・II 論理学I・II 東洋史I・II 西洋史I・II 日本史I・II 宗教学I・II 文章論I・II 芸術I・II	法学I・II 法学(日本国憲法) 経済学I・II 心理学I・II 地理学I・II 政治学I・II 社会学I・II 文化人類学I・II 社会思想I・II	教養数学A・B 基礎数学I・II 発展数学I・II 原子から宇宙まで I・II 生命科学I・II 物質と環境I・II サイエンス・ラボA・B 天文学I・II 科学史I・II	[必修] 英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 スペイン語 朝鮮語 日本語(留学生のみ)	[選択] 選択英語 4群外国語選択 科目(諸外国語)
					スポーツ総合演習 (必修、選択)

学部専門科目 (90単位以上)

●リテラシー科目(6単位以上)

フレッシュマン科目(4単位)	スキルアップ科目(2単位以上)			
人間環境学への招待 基礎演習	<table border="1"> <tr> <td> <情報処理> 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析 </td> <td> <アクティブ語学> 英語I(初級会話) 英語II(中級会話) 英語III(上級会話) 英語IV(ビジネス会話) </td> <td> <テーマ別英語> テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4 </td> </tr> </table>	<情報処理> 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析	<アクティブ語学> 英語I(初級会話) 英語II(中級会話) 英語III(上級会話) 英語IV(ビジネス会話)	<テーマ別英語> テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4
<情報処理> 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析	<アクティブ語学> 英語I(初級会話) 英語II(中級会話) 英語III(上級会話) 英語IV(ビジネス会話)	<テーマ別英語> テーマ別英語1 テーマ別英語2 テーマ別英語3 テーマ別英語4		

●展開科目(84単位以上)

科目群	展開科目	政策科目
法律・政治関連	基幹科目 憲法の基礎 刑法の基礎 行政法I 行政法II アメリカ法の基礎 民法I 民法II 国際法I 国際法II 市民社会と政治 行政学 地方自治論 国際関係論 平和学	政策科目
経済・経営関連	基幹科目 ミクロ経済学I ミクロ経済学II マクロ経済学I マクロ経済学II 公共経済学 現代企業論 ビジネスヒストリー 経営学入門 環境経営と会計 簿記入門I・II 政策科目 環境経済論I 環境経済論II 環境経営論I 環境経営論II CSR論I CSR論II 環境ビジネス論 国際環境政策I 国際環境政策II 途上国経済論I 途上国経済論II 国際経済協力論I 国際経済協力論II	
社会・地域関連	基幹科目 現代社会論I 現代社会論II 現代社会論III NPO・ボランティア論 社会統計論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローバル・コミュニケーション 政策科目 地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論I 都市環境論II 都市デザイン論 環境社会学I 環境社会学II 環境社会学III 労働環境論I 労働環境論II NGO活動論 災害政策論 科学技術社会学 社会開発論 文化経営論 開発教育 アーティストと社会貢献 国際社会学	
人文科学関連	基幹科目 環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判の思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論 日本詩歌の伝統 比較演劇論I 比較演劇論II 環境人類学I 現代思想と人間I 政策科目 環境哲学基礎論 日本環境史論I 日本環境史論II ヨーロッパ環境史論I ヨーロッパ環境史論II 環境表象論I 環境表象論II 環境人類学II 環境人類学III 現代思想と人間II	
自然科学関連	基幹科目 サイエンスカフェI サイエンスカフェII サイエンスカフェIII サイエンスカフェIV 自然環境論I 自然環境論II 自然環境論III 自然災害論 地球科学史I 地球科学史II 気候変動論I 気候変動論II 環境健康論I 環境健康論II エネルギー論I 環境モデル論I 環境モデル論II 政策科目 環境科学I 環境科学II 環境科学III 自然環境論IV 自然環境政策論I 自然環境政策論II エネルギー論II 衛生・公衆衛生学I 衛生・公衆衛生学II 衛生・公衆衛生学III 大気と社会I 大気と社会II	
環境総合科目	政策科目 食と農の環境学I 食と農の環境学II 食と農の環境学III 公害防止管理論I 公害防止管理論II 廃棄物・リサイクル論 環境教育論 キャリア入門 スポーツビジネス論I スポーツビジネス論II グローバルスタディーズI グローバルスタディーズII ローカルスタディーズI ローカルスタディーズII 環境マネジメントスタディーズI 環境マネジメントスタディーズII	

2018年度以降開講していない科目については、掲載していません。

3.3.3 進級するためには

進級するためには、各年次2 Semester 在学し、各年次に下記の単位要件を満たさなければなりません。1単位でも不足や間違いがあると、進級・卒業できないので注意してください。

進級に関する規程（人間環境学部）

第1条 第1年次より第2年次へ進級する者は、8単位以上を修得しなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次に4単位以上を修得しなければならない。ただし、人間環境学への招待及び基礎演習は修得していなければならない。

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

- (1) 市ヶ谷基礎科目のうち4群（必修），5群及びスキルアップ科目の卒業所要単位
- (2) 前号の単位を含め81単位以上

第4条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。

第5条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

※上記単位数には教職および資格課程科目は含みません。

※上記規程のほか、在学年数も進級・卒業に影響します。詳細は共通- (3) を確認してください。

3.3.4 履修可能単位数

(1) セメスター・年間の履修登録上限単位数

人間環境学部では、各セメスターおよび年間での履修登録単位数に上限を設けています。各自、(3)履修登録上限単位数計算式により計算してください。

上限単位数には「教職科目」「資格科目」の単位数は含みません。

上限単位数を超えて登録した場合、登録エラーとなり正常に履修登録ができません。

(2) 通年科目について

通年科目を履修する場合、必ず春学期に登録してください。その場合、単位計算上は春学期の履修登録単位数に加算されます。成績発表は秋学期終了時になります。

秋学期履修登録時に、春学期に登録した通年科目は削除できません。

(3) 履修登録上限単位数計算式

春学期＝上限30単位まで登録可

秋学期＝49単位－春学期履修登録単位数（★）※上限30単位

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
基礎科目 ＋ 専門科目	当該セメスター 履修登録上限単位数	30	49-★	30	49-★	30	49-★	30	49-★
	各セメスター 履修登録上限単位数	30	30	30	30	30	30	30	30
	年間 履修登録可能単位数	49		49		49		49	
教職科目	年間 履修登録可能単位数	16		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	
資格科目	年間 履修登録可能単位数	登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	

★：春学期履修登録単位数

2012・2013年度入学者用

(学生証番号の先頭2桁が「12」「13」の学生用)

人間環境学部 2012・2013年度入学者 履修規程

重要！ 卒業要件や履修科目は、入学年度によって異なります。
必ず自分が該当するページを見てください。

3.4 2012・2013年度入学者の履修規程

3.4.1 卒業所要単位

2012・2013年度入学者用カリキュラム

区分・系列		単位要件		
市ヶ谷基礎科目	0群(導入)	選択		
	1群(人文科学)	選択必修 4単位以上	選択必修 24単位以上	
	2群(社会科学)	選択必修 4単位以上		
	3群(自然科学)	選択必修 4単位以上		
	4群(外国語)	必修 10単位以上		
		必修以外(修得上限なし)		
5群(保健体育)	必修	2単位	40単位以上	
	選択 (修得上限2単位)			
リテラシー科目	フレッシュマン科目	「人間環境学への招待」	必修 2単位	6単位以上
		「基礎演習」	必修 2単位	
スキルアップ科目	情報処理			
	アクティブ語学 テーマ別英語	選択必修 2単位以上		
専門科目 展開科目	法律・政治関連科目群	選択 (基幹・政策科目ごとおよび 科目群ごとの修得制限なし)		90単位以上
	経済・経営関連科目群			
	社会・地域関連科目群			
	人文科学関連科目群			
	自然科学関連科目群			
	環境総合科目			
	「研究会」	選択(修得上限なし)	84単位以上	
	「研究会修了論文」	選択(修得上限2単位)		
	「コース修了論文」	選択(修得上限2単位)		
	「人間環境特論」	選択(修得上限なし)		
	「人間環境セミナー」	選択(修得上限なし)		
	「フィールドスタディ」	選択(修得上限8単位)		
	「キャリアチャレンジ」	選択(修得上限6単位)		
	「インターンシップ」	選択(修得上限4単位)		
	「スタディ・アブロード」	選択(修得上限16単位)		
「SCOPE科目」	選択(修得上限12単位)			
「自由科目」※注1	選択(修得上限20単位)			
卒業所要単位		130単位以上		

※注1 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「ESOP科目」、「ERP科目」、「グローバルオープン科目」、「短期語学研修」、「国際インターンシップ」、「国際ボランティア」が該当します。

3.4.2 カリキュラム構成図

市ヶ谷基礎科目 (40 単位以上)

(※1、2、3 群合計 24 単位以上)

0 群	1 群 (4 単位以上)	2 群 (4 単位以上)	3 群 (4 単位以上)	4 群 (必修外国語 10 単位)	5 群 (必修 2 単位)
キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 大学を知ろうく法政学 への招待 法政学の探究 A・B	文学 I・II 哲学 I・II 倫理学 I・II 論理学 I・II 東洋史 I・II 西洋史 I・II 日本史 I・II 宗教論 I・II 文章論 I・II 芸術 I・II	法学 I・II 法学(日本国憲法) 経済学 I・II 心理学 I・II 地理学 I・II 政治学 I・II 社会学 I・II 文化人類学 I・II 社会思想 I・II	基礎数学 A・B 基礎数学 I・II 発展数学 I・II 原子から宇宙まで I・II 生命科学 I・II 物質と環境 I・II サイエンス・ラボ A・B 天文学 I・II 科学史 I・II	〔必修〕 英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 スペイン語 朝鮮語 日本語(留学生のみ)	〔選択〕 選択英語 4 群外国語選択 科目(諸外国語) スポーツ総合演習 (必修 選択)

学部専門科目 (90 単位以上)

●リテラシー科目 (6 単位以上)

フレッシュマン科目 (4 単位)	スキルアップ科目 (2 単位以上)
人間環境学への招待 基礎演習	<p><情報処理> 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析</p> <p><アクティブ語学> 英語 I (初級会話) 英語 II (中級会話) 英語 III (上級会話) 英語 IV (ビジネス会話)</p> <p><テーマ別英語> テーマ別英語 1 テーマ別英語 2 テーマ別英語 3 テーマ別英語 4</p>

●展開科目 (84 単位以上)

科目群	展開科目	政策科目
法律・政治関連	<p>基幹科目 憲法の基礎 刑法の基礎 行政法 I 行政法 II アメリカ法の基礎 民法 I 民法 II 国際法 I 国際法 II 市民社会と政治 行政学 地方自治論 国際関係論 平和学</p> <p>政策科目 環境法 I 環境法 II 環境法 III 環境法 IV 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論 I 自治体環境政策論 II 地球環境政治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障</p>	政策科目
経済・経営関連	<p>基幹科目 ミクロ経済学 I ミクロ経済学 II マクロ経済学 I マクロ経済学 II 公共経済学 現代企業論 ビジネスヒストリー 経営学入門 環境経営と会計 簿記入門 I・II</p> <p>政策科目 環境経済論 I 環境経済論 II 環境経営論 I 環境経営論 II CSR 論 I CSR 論 II 環境ビジネス論 国際環境政策 I 国際環境政策 II 途上国経済論 I 途上国経済論 II 国際経済協力論 I 国際 経済協力論 II</p>	
社会・地域関連	<p>基幹科目 現代社会論 I 現代社会論 II 現代社会論 III NPO・ボランティア論 社会統計論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローバル・コミュニケーション</p> <p>政策科目 地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論 I 都 市環境論 II 都市デザイン論 環境社会論 I 環境社会論 II 環境社会論 III 労働環境論 I 労働環境論 II NGO 活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 文化経営論 開発教育 アーティストと社会貢献 国際社会学</p>	研究会ゼミナール 研究会修了論文/コース修了論文 人間環境特論 人間環境セミナー フィールドスタディ キャリアアチャレンジ スタディ・アプロード SCOPE 科目 自由科目
人文科学関連	<p>基幹科目 環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判の思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論 日本詩歌の伝統 比較演劇論 I 比較演劇論 II 環境人類学 I 現代思想と人間 I</p> <p>政策科目 環境哲学基礎論 日本環境史論 I 日本環境史論 II ヨーロッパ環境史論 I ヨーロッパ環境史論 II 環境表象論 I 環境表象論 II 環境人類学 II 環境人類学 III 現代思想と人間 II</p>	
自然科学関連	<p>基幹科目 サイエンスカフェ I サイエンスカフェ II サイエンスカフェ III サイエンスカフェ IV 自然環境論 I 自然環境論 II 自然環境論 III 自然災害論 地球科学史 I 地球科学史 II 気候変動論 I 気候変動論 II 環境健康論 I 環境健康論 II エネルギー論 I 環境モデル論 I 環境モデル論 II</p> <p>政策科目 環境科学 I 環境科学 II 環境科学 III 自然環境論 IV 自然環境政策論 I 自然環境政策論 II エネルギー論 II 衛生・公衆衛生学 I 衛生・公衆衛生学 II 衛生・公衆衛生学 III 大気と社会 I 大気と社会 II</p>	
環境総合科目	<p>政策科目 食と農の環境学 I 食と農の環境学 II 食と農の環境学 III 公害防止管理論 I 公害防止管理論 II 廃棄物・リサイクル論 環境教育論 キャリア入門 スポーツビジネス論 I スポーツビジネス論 II グローバルスタディーズ I グローバルスタディーズ II ローカルスタディーズ I ローカルスタディーズ II 環境マネジメントスタディーズ I 環境マネジメントスタディーズ II</p>	

2018年度以降開講していない科目については、掲載していません。

3.4.3 進級するためには

進級するためには、各年次2 Semester在学し、各年次に下記の単位要件を満たさなければなりません。1単位でも不足や間違いがあると、進級・卒業できないので注意してください。

進級に関する規程（人間環境学部）

第1条 第1年次より第2年次へ進級する者は、8単位以上を修得しなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次に4単位以上を修得しなければならない。ただし、人間環境学への招待及び基礎演習は修得していなければならない。

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得しなければならない。

- (1) 市ヶ谷基礎科目のうち4群（必修）、5群及びスキルアップ科目の卒業所要単位
- (2) 前号の単位を含め81単位以上

第4条 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。

第5条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

※上記単位数には教職および資格課程科目は含みません。

※上記規程のほか、在学年数も進級・卒業に影響します。詳細は共通- (3) を確認してください。

3.4.4 履修可能単位数

(1) セメスター・年間の履修登録上限単位数

人間環境学部では、各セメスターおよび年間での履修登録単位数に上限を設けています。各自、(3)履修登録上限単位数計算式により計算してください。

上限単位数には「教職科目」「資格科目」の単位数は含みません。

上限単位数を超えて登録した場合、登録エラーとなり正常に履修登録できません。

(2) 通年科目について

通年科目を履修する場合、必ず春学期に登録してください。その場合、単位計算上は春学期の履修登録単位数に加算されます。成績発表は秋学期終了時になります。

秋学期履修登録時に、春学期に登録した通年科目は削除できません。

(3) 履修登録上限単位数計算式

春学期＝上限30単位まで登録可

秋学期＝49単位－春学期履修登録単位数（★）※上限30単位

		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
基礎科目 ＋ 専門科目	当該セメスター 履修登録上限単位数	30	49-★	30	49-★	30	49-★	30	49-★
	各セメスター 履修登録上限単位数	30	30	30	30	30	30	30	30
	年間 履修登録可能単位数	49		49		49		49	
教職科目	年間 履修登録可能単位数	16		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	
資格科目	年間 履修登録可能単位数	登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	

★：春学期履修登録単位数

人間環境学部

リフレッシュ・ステージ・プログラム (RSP)

履修規程

3.5 リフレッシュ・ステージ・プログラム入試（RSP）の履修規程

3.5.1 卒業所要単位

カリキュラム（RSP用）

区分・系列		単位要件					
I L A C (アイラック)科目	100番台	基盤科目	0群		選択	36 単位 以上	
			1群 ☆1	選択必修	☆1から4単位以上		☆1から ☆3のう ち12単位 以上
			2群 ☆2	選択必修	☆2から4単位以上		
			3群 ☆3	選択必修	☆3から4単位以上		
			5群 ☆4		必修		☆4から2単位以上
	科目	外国語	4群	英語 ☆5	必修	☆5からいずれか1言語 6単位以上	
				諸外国語 ☆5			
	200番台	リベラル アーツ 科目	0群		選択	36 単位 以上	
			1群 ☆1	選択必修	☆1から4単位以上		☆1から ☆3のう ち12単位 以上
			2群 ☆2	選択必修	☆2から4単位以上		
3群 ☆3			選択必修	☆3から4単位以上			
5群 ☆4			必修	☆4から2単位以上			
科目	外国語科	4群	諸外国語 ☆5	必修	☆5からいずれか1言語 6単位以上		
			英語 諸外国語共通 ☆5				
専 門 科 目	リテラシー科目	「人間環境学への招待」		必修 2単位以上	88 単位 以上		
		「基礎演習」					
		情報処理					
		「NPO・ボランティア論」					
		「ファシリテーション論」					
		アクティブ語学 テーマ別英語				選択	
	展開科目	社会連携 探求科目	「人間環境セミナー」			必修 2単位以上	
			「フィールドスタディ」				
			「キャリアチャレンジ」				
		法律・政治関連科目群		基幹・政策科目ごとおよび科目群ごとの履修制限 はありません			
		経済・経営関連科目群					
		社会・地域関連科目群					
		人文科学関連科目群					
		自然科学関連科目群					
		環境総合科目		選択(修得上限 20単位)			
		「研究会」					
		「卒業論文」	「研究会修了論文」			選択(修得上限 2単位)	
			「プログラム修了論文」				
		「人間環境特論」		選択(修得上限なし)			
		「スタディ・アブロード」		選択(修得上限 16単位)			
「SCOPE科目」		選択(修得上限 12単位)					
「自由科目」※注1		選択(修得上限 30単位)					
卒業所要単位				124単位以上			

※注1 展開科目の「自由科目」には「他学部公開科目」、「ESOP科目」、「ERP科目」、「グローバルオープン科目」、「短期語学研修」、「国際インターンシップ」、「国際ボランティア」が該当します。

3.1.2 カリキュラム構成図

ILAC 科目 (36 単位以上)

0 群	1 群	2 群	3 群	4 群	5 群
キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 大学を知らうく法政学 への招待 法政学の探究IA・IB	[基礎] [リベラル] 学部-(54)科目 一覧表参照	[基礎] [リベラル] 学部-(54)科目 一覧表参照	[基礎] [リベラル] 学部-(54)科目 一覧表参照	[必修] 英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 スペイン語 朝鮮語 [選択] 選択英語 4群外国語選択 科目(諸外国)	スポーツ総合演習 スポーツ総合演習S 健康の科学IA/LB

学部専門科目 (88 単位以上)

●リテラシー科目

リテラシー科目 (2 単位以上)	リテラシー科目 (選択)
人間環境学への招待 基礎演習 ＜情報処理＞ 情報処理基礎 ネットワークとマルチメディア 統計とデータ分析 NPO・ボランティア論 ファシリテーション論	＜アクティブ語学＞ 英語Ⅰ (初級会話) 英語Ⅱ (中級会話) 英語Ⅲ (上級会話) 英語Ⅳ (ビジ初会話) ＜テーマ別英語＞ テーマ別英語 1 テーマ別英語 2 テーマ別英語 3 テーマ別英語 4

●展開科目 (社会連携探求科目から2単位以上を含む86単位以上)

科目群	社会連携探求科目				人間環境セミナー フィールドスタディ キャリアチャレンジ					
法律・政治関連	基幹科目	憲法の基礎 刑法の基礎 行政法Ⅰ 行政法Ⅱ アメリカ法の基礎 民事法Ⅰ 民事法Ⅱ 国際法Ⅰ 国際法Ⅱ 市民社会と政治 行政学 地方自治論 国際関係論 平和学	政策科目	環境法Ⅰ 環境法Ⅱ 環境法Ⅲ 環境法Ⅳ 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論Ⅰ 自治体環境政策論Ⅱ 地球環境政 治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障	政策科目	環境法Ⅰ 環境法Ⅱ 環境法Ⅲ 環境法Ⅳ 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論Ⅰ 自治体環境政策論Ⅱ 地球環境政 治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障	政策科目	環境法Ⅰ 環境法Ⅱ 環境法Ⅲ 環境法Ⅳ 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論Ⅰ 自治体環境政策論Ⅱ 地球環境政 治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障	政策科目	環境法Ⅰ 環境法Ⅱ 環境法Ⅲ 環境法Ⅳ 労働環境法 国際環境法 アメリカ環境法 自治体環境政策論Ⅰ 自治体環境政策論Ⅱ 地球環境政 治論 地域協力・統合 エネルギー政策論 人間の安全保障
経済・経営関連	基幹科目	ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 公共経済学 現代企業論 ビジネスヒストリー 経営学入門 環境経営と会計 簿記入門Ⅰ、簿記入門Ⅱ	政策科目	環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ 環境経営論Ⅰ 環境経営論Ⅱ CSR論Ⅰ CSR論Ⅱ 環境ビジネス論 国際環境政策Ⅰ 国際環境政策Ⅱ 途上国経済論Ⅰ 途上国経済論Ⅱ 国際経済協力論Ⅰ 国際経済協力論Ⅱ	政策科目	環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ 環境経営論Ⅰ 環境経営論Ⅱ CSR論Ⅰ CSR論Ⅱ 環境ビジネス論 国際環境政策Ⅰ 国際環境政策Ⅱ 途上国経済論Ⅰ 途上国経済論Ⅱ 国際経済協力論Ⅰ 国際経済協力論Ⅱ	政策科目	環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ 環境経営論Ⅰ 環境経営論Ⅱ CSR論Ⅰ CSR論Ⅱ 環境ビジネス論 国際環境政策Ⅰ 国際環境政策Ⅱ 途上国経済論Ⅰ 途上国経済論Ⅱ 国際経済協力論Ⅰ 国際経済協力論Ⅱ	政策科目	環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ 環境経営論Ⅰ 環境経営論Ⅱ CSR論Ⅰ CSR論Ⅱ 環境ビジネス論 国際環境政策Ⅰ 国際環境政策Ⅱ 途上国経済論Ⅰ 途上国経済論Ⅱ 国際経済協力論Ⅰ 国際経済協力論Ⅱ
社会・地域関連	基幹科目	現代社会論Ⅰ 現代社会論Ⅱ 現代社会論Ⅲ 社会統計論 フィールド調査論 グローバル・コミュニケーション	政策科目	地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論Ⅰ 都市環境論Ⅱ 都市デザイン論 環境社会論Ⅰ 環境社会論Ⅱ 環境社会論Ⅲ 労働環境論Ⅰ 労働環境論Ⅱ NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学	政策科目	地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論Ⅰ 都市環境論Ⅱ 都市デザイン論 環境社会論Ⅰ 環境社会論Ⅱ 環境社会論Ⅲ 労働環境論Ⅰ 労働環境論Ⅱ NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学	政策科目	地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論Ⅰ 都市環境論Ⅱ 都市デザイン論 環境社会論Ⅰ 環境社会論Ⅱ 環境社会論Ⅲ 労働環境論Ⅰ 労働環境論Ⅱ NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学	政策科目	地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論Ⅰ 都市環境論Ⅱ 都市デザイン論 環境社会論Ⅰ 環境社会論Ⅱ 環境社会論Ⅲ 労働環境論Ⅰ 労働環境論Ⅱ NGO活動論 災害政策論 科学技術社会論 社会開発論 開発教育 文化経営論 アーティストと社会貢献 国際社会学
人文科学関連	基幹科目	環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判の思想 仏教思想 日本美術史論 西洋美術史論 日本詩歌の伝統 日本環境史論Ⅰ ヨーロッパ環境史論Ⅰ 比較演劇論Ⅰ 環境表象論Ⅰ 環境人類学Ⅰ 現代思想と人間Ⅰ	政策科目	環境哲学基礎論 日本環境史論Ⅱ ヨーロッパ環境史論Ⅱ 比較演劇論Ⅱ 環境表象論Ⅱ 環境人類学Ⅱ 環境人類学Ⅲ 現代思想と人間Ⅱ	政策科目	環境哲学基礎論 日本環境史論Ⅱ ヨーロッパ環境史論Ⅱ 比較演劇論Ⅱ 環境表象論Ⅱ 環境人類学Ⅱ 環境人類学Ⅲ 現代思想と人間Ⅱ	政策科目	環境哲学基礎論 日本環境史論Ⅱ ヨーロッパ環境史論Ⅱ 比較演劇論Ⅱ 環境表象論Ⅱ 環境人類学Ⅱ 環境人類学Ⅲ 現代思想と人間Ⅱ	政策科目	環境哲学基礎論 日本環境史論Ⅱ ヨーロッパ環境史論Ⅱ 比較演劇論Ⅱ 環境表象論Ⅱ 環境人類学Ⅱ 環境人類学Ⅲ 現代思想と人間Ⅱ
自然科学関連	基幹科目	サイエンスカフェⅠ サイエンスカフェⅡ サイエンスカフェⅢ サイエンスカフェⅣ 自然環境論Ⅰ 自然環境論Ⅱ 自然環境論Ⅲ 自然災害論 地球科学史Ⅰ 地球科学史Ⅱ 気候変動論Ⅰ 気候変動論Ⅱ 環境健康論Ⅰ 環境健康論Ⅱ エネルギー論Ⅰ 環境モデル論Ⅰ 環境モデル論Ⅱ	政策科目	環境科学Ⅰ 環境科学Ⅱ 環境科学Ⅲ 自然環境論Ⅳ 自然環境政策論Ⅰ 自然環境政策論Ⅱ エネルギー論Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅰ 衛生・公衆衛生学Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅲ 大気と社会Ⅰ 大気と社会Ⅱ	政策科目	環境科学Ⅰ 環境科学Ⅱ 環境科学Ⅲ 自然環境論Ⅳ 自然環境政策論Ⅰ 自然環境政策論Ⅱ エネルギー論Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅰ 衛生・公衆衛生学Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅲ 大気と社会Ⅰ 大気と社会Ⅱ	政策科目	環境科学Ⅰ 環境科学Ⅱ 環境科学Ⅲ 自然環境論Ⅳ 自然環境政策論Ⅰ 自然環境政策論Ⅱ エネルギー論Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅰ 衛生・公衆衛生学Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅲ 大気と社会Ⅰ 大気と社会Ⅱ	政策科目	環境科学Ⅰ 環境科学Ⅱ 環境科学Ⅲ 自然環境論Ⅳ 自然環境政策論Ⅰ 自然環境政策論Ⅱ エネルギー論Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅰ 衛生・公衆衛生学Ⅱ 衛生・公衆衛生学Ⅲ 大気と社会Ⅰ 大気と社会Ⅱ
環境総合科目	政策科目	食と農の環境学Ⅰ 食と農の環境学Ⅱ 食と農の環境学Ⅲ 公害防止管理論Ⅰ 公害防止管理論Ⅱ 廃棄物・リサイクル論 環境教育 論 キャリア入門 グローバルスタディーズⅠ グローバルスタディーズ Ⅱ ローカルスタディーズⅠ ローカルスタディーズⅡ スポーツビジネス論Ⅰ スポーツビジネス論Ⅱ 環境マネジメントスタディーズⅠ 環境マネジメントスタディーズⅡ	政策科目	食と農の環境学Ⅰ 食と農の環境学Ⅱ 食と農の環境学Ⅲ 公害防止管理論Ⅰ 公害防止管理論Ⅱ 廃棄物・リサイクル論 環境教育 論 キャリア入門 グローバルスタディーズⅠ グローバルスタディーズ Ⅱ ローカルスタディーズⅠ ローカルスタディーズⅡ スポーツビジネス論Ⅰ スポーツビジネス論Ⅱ 環境マネジメントスタディーズⅠ 環境マネジメントスタディーズⅡ	政策科目	食と農の環境学Ⅰ 食と農の環境学Ⅱ 食と農の環境学Ⅲ 公害防止管理論Ⅰ 公害防止管理論Ⅱ 廃棄物・リサイクル論 環境教育 論 キャリア入門 グローバルスタディーズⅠ グローバルスタディーズ Ⅱ ローカルスタディーズⅠ ローカルスタディーズⅡ スポーツビジネス論Ⅰ スポーツビジネス論Ⅱ 環境マネジメントスタディーズⅠ 環境マネジメントスタディーズⅡ	政策科目	食と農の環境学Ⅰ 食と農の環境学Ⅱ 食と農の環境学Ⅲ 公害防止管理論Ⅰ 公害防止管理論Ⅱ 廃棄物・リサイクル論 環境教育 論 キャリア入門 グローバルスタディーズⅠ グローバルスタディーズ Ⅱ ローカルスタディーズⅠ ローカルスタディーズⅡ スポーツビジネス論Ⅰ スポーツビジネス論Ⅱ 環境マネジメントスタディーズⅠ 環境マネジメントスタディーズⅡ	政策科目	食と農の環境学Ⅰ 食と農の環境学Ⅱ 食と農の環境学Ⅲ 公害防止管理論Ⅰ 公害防止管理論Ⅱ 廃棄物・リサイクル論 環境教育 論 キャリア入門 グローバルスタディーズⅠ グローバルスタディーズ Ⅱ ローカルスタディーズⅠ ローカルスタディーズⅡ スポーツビジネス論Ⅰ スポーツビジネス論Ⅱ 環境マネジメントスタディーズⅠ 環境マネジメントスタディーズⅡ

3.5.3 進級するためには

進級するためには、各年次2 Semester 在学し、各年次に下記の単位要件を満たさなければなりません。1単位でも不足や間違いがあると、進級・卒業できないので注意してください。

進級に関する規程（人間環境学部）

- 第1条** 第1年次より第2年次へ進級する者は、第1年次において8単位以上を修得しなければならない。
- 第2条** 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次において8単位以上を修得しなければならない。
- 第3条** 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに認定単位を含む75単位以上を修得しなければならない。
- 第4条** 第4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。
- 第5条** 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

※上記単位数には教職および資格課程科目は含みません。

※上記規程のほか、在学年数も進級・卒業に影響します。詳細は共通-(3)を確認してください。

3.5.4 履修可能単位数

(1) セメスター・年間の履修登録上限単位数

人間環境学部では、各セメスターおよび年間での履修登録単位数に上限を設けています。各自、(3)履修登録上限単位数計算式により計算してください。

上限単位数には「教職科目」「資格科目」の単位数は含みません。

上限単位数を超えて登録した場合、登録エラーとなり正常に履修登録ができません。

(2) 通年科目について

通年科目を履修する場合、必ず春学期に登録してください。その場合、単位計算上は春学期の履修登録単位数に加算されます。成績発表は秋学期終了時になります。

秋学期履修登録時に、春学期に登録した通年科目は削除できません。

(3) 履修登録上限単位数計算式

春学期＝上限30単位まで登録可

秋学期＝49単位－春学期履修登録単位数（★）※上限30単位

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
基礎科目 ＋ 専門科目	当該セメスター 履修登録上限単位数	30	49-★	30	49-★	30	49-★	30	49-★
	各セメスター 履修登録上限単位数	30	30	30	30	30	30	30	30
	年間 履修登録可能単位数	49		49		49		49	
教職科目	年間 履修登録可能単位数	16		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	
資格科目	年間 履修登録可能単位数	登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし		登録上限なし	

★：春学期履修登録単位数

3.6 早期卒業 2019年度より規定が一部変更されました

人間環境学部では、一定の要件を満たした成績優秀な学生に対し、3年次末で卒業を認める早期卒業制度を持っています。本制度を利用すれば、より早期につきのキャリアを始められる、4年次の授業料負担がなくなるなどのメリットがあります。一方、現状では就職や進学に関するさまざまな仕組みが4年次末の卒業を前提にしていることが多く、3年次末で卒業する場合は、それによって不利益が生じることのないよう自分のキャリアをしっかりと見定めておくことも必要となります。

以下に、早期卒業に必要な要件や手続きを説明します。また、希望する学生は、事前に（可能であれば2年次3セメスター中には）事務窓口で相談するよう勧めます。

(1) 事前申請

早期卒業が認められるのは、本学人間環境学部に3年以上在学し、卒業の要件として人間環境学部が定める単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者です。ただし、再入学（復学・復籍）、転・編入学及び転籍した学生は、早期卒業の対象とはなりません。

早期卒業を希望する学生は、まず、入学後5セメスター目（3年次春学期）の下記期間に、人間環境学部長宛に所定の申請書（事務窓口で入手できます）を提出する必要があります。事前申請の期間は、6月1日～6月20日（土日の場合は翌月曜日）です。また、申請書の提出は学部窓口への直接持参（または簡易書留による送付）とします。

人間環境学部教授会は早期卒業審査委員会を立ち上げ、同委員会が申請書の提出者に対して面談を行うとともに、5セメスター終了までの成績を踏まえて委員会として当該申請者の適格性について審査を行います。9月の教授会で、「早期卒業（成績優秀）の適格認定」を行うか否かを決定します。

(2) 早期卒業時の要件

上記1の事前申請において「早期卒業（成績優秀）の適格認定」を受けた者のうち、3年次末の時点で以下の要件をすべて満たしている場合、早期卒業審査委員会での審査、人間環境学部教授会の審議を経て早期卒業者を決定します。

- ①卒業所要単位を修得していること。
- ②卒業所要単位のうち、9割以上がA-評価以上であること。
- ③入学時から3年次終了までの通算したGPA（累積GPA）が3.0以上であること。
- ④3年次までに研究会の単位を修得し、研究会修了論文又はコース修了論文（RSPはプログラム修了論文）に相当する論文を作成し、高い評価を得ていること。

注1： 卒業所要単位のうち9割以上とは117単位以上（RSPは112単位以上）。上の②の「A-評価以上」には「RR評価」、「RS評価」及び「P評価」は含まれません。また、①～③の「卒業所要単位」やGPAの算出には教職・資格科目など卒業所要単位外で履修する科目は含まれません。

3.7 修業年限

第13条 本大学の修業年限は、4ヵ年とする。但し、学生は休学期間を除き、本大学に8ヵ年を超えて在学することはできない。

2 春学期在学し、秋学期に休学、退学及び除籍になった場合、あるいは秋学期に復学及び復籍した場合、また、春学期に休学し、秋学期に在学した場合、当該年度の在学期間は0.5年として計算する。

3 第31条及び第32条によって入学した者は、該当修業年限の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

（第31条：転・編入学、第32条：転籍）

3.8 教職課程・資格課程科目を履修する場合

教職・資格課程については、必ずそれぞれのガイダンスに出席してください。詳しくはキャリアデザイン学部および教職・資格のWeb掲示板や「教職課程履修要綱」・「資格関係科目履修要綱」を確認してください。

(1) 教職課程

教職科目には下記の通り学年毎に履修登録単位数に上限があります。これは教職課程科目のみ適用されるものです。卒業要件、進級要件にこの教職科目の単位数は含まれません。

3年次から履修開始の場合、卒業と同時の取得が難しい場合もあるので、教職・資格窓口で確認してください。

- 1年次 = 年間16単位以内
- 2年次 = 上限なし
- 3年次 = 上限なし
- 4年次 = 上限なし

※教員免許状取得のためには、ILAC科目4群必修(2017年度以降入学者)／市ヶ谷基礎科目4群必修(2016年度以前入学者) またはスキルアップ科目のアクティブ語学で、「英語」の単位を修得する必要があります。従って、2016年度以前入学者のパターン3を選択した方は、アクティブ語学で「英語」の単位を修得することになります。

(2) 資格課程

資格課程には以下の種類があります。詳しくは、教職・資格掲示板や「資格関係科目履修要綱」を確認してください。

- 1) 図書館司書
- 2) 学校図書館司書教諭
- 3) 博物館学芸員
- 4) 社会教育主事

3.9 留級した場合に履修登録できる単位数

留級した年次の上限単位を適用します。入学年次ごとのページに記載されている履修可能単位数を参照してください。

4 ILAC(アイラック)科目 市ヶ谷基礎科目の履修

ILAC 科目の履修上の注意 (2017 年度以降入学者)

留級した学生および進級した学生が未修得の科目を再履修する場合は、
市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB掲示板の案内を確認してください。

URL: <https://hosei.study.jp/>

※上記トップページから、市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)をクリック



4.1 ILAC 科目 0 群～3 群の履修

★0 群★

- a.「キャリアデザイン入門」は、1 年次のみ履修可能です。
b.「キャリアデザイン応用」は、2017 年度までに「就業基礎力養成 I」の単位を修得した方は履修できません。

	2017 年度までに 就業基礎力養成 I の 単位を修得済み	2017 年度までに 就業基礎力養成 II の 単位を修得済み	2017 年度までに キャリアデザイン演習の 単位を修得済み
キャリアデザイン応用	×履修できません	○履修できます	○履修できます

- c.「大学を知ろう <法政学>への招待」は、2018 年度までに「法政学への招待」の単位を修得した方は履修できません。

★1 群～3 群★

- a. 1 年次生が ILAC 科目 1 群～3 群の科目を履修する場合は、学部・学科・クラス等の指定があります。2～4 年次生が履修する場合は学部・学科・クラスの指定はありません。ILAC 科目時間割を確認し、選択してください。
b.「教養数学 A・B」は 1 年次生以上が履修可能です。「基礎数学 I・II」は 2 年次生以上が履修可能です。
c.「サイエンス・ラボ A」と「サイエンス・ラボ B」は実験授業のため定員制です。そのため、履修登録前に仮登録が必要です。仮登録の詳細については、市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB 掲示板等を参照してください。

4.2 ILAC 科目 4 群 (外国語) の履修

外国語については、以下のとおり履修します。なお、入学時に選択した諸外国語は、途中から他の外国語に変更することはできません。

外国語(4群)には、(1)必修外国語と、(2)4 群選択科目があります。

(1) - 1 必修外国語

	1 年	2 年	合計
英語	4 単位	0 単位	4 単位
諸外国語	4 単位	2 単位	6 単位
合計	8 単位	2 単位	10 単位

4.ILAC(アイラック)科目の履修(2017年度以降入学者)

履修するクラスは以下の通りです。

1年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
英語	English1-I/II	月曜 1時限	英語 1～6組 英語上級クラス	春学期・秋学期
		月曜 2時限	英語 7～12組 英語上級クラス	春学期・秋学期
	English2-I/II	木曜 1時限	英語 7～12組 英語上級クラス	春学期・秋学期
		木曜 2時限	英語 1～6組 英語上級クラス	春学期・秋学期
諸外国語	〇〇語 1-I/II	月曜 1時限	G～L組	春学期・秋学期
		月曜 2時限	A～F組	春学期・秋学期
	〇〇語 2-I/II	木曜 1時限	A～F組	春学期・秋学期
		木曜 2時限	G～L組	春学期・秋学期

※英語のクラスは、後日 WEB 掲示板にて発表します。詳細は、新入生ガイダンス時に説明します。

2年

英語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。			
諸外国語	〇〇語 3-I/II	時間割表で確認	全クラス	春学期・秋学期

※朝鮮語選択の学生は、「朝鮮語 3-I」と「朝鮮語 3-II」または、「朝鮮語 3C-I」と「朝鮮語 3C-II」を履修してください。

※フランス語選択の学生は、通常クラスの「フランス語 3-I」、「フランス語 3-II」の代わりに、より高度な運用能力を身につける、意欲のある学生向けの重点クラス「フランス語 3-I/(インテンシブ)」、「フランス語 3-II (インテンシブ)」を履修することができます。

上記いずれを履修しても、成績証明書には「フランス語 3-I」または「フランス語 3-II」と記載されます。

(1) - 2 留学生の必修外国語

留学生入試で入学した留学生は、以下のパターンになります。入学時に選択した諸外国語および履修パターンを変更することはできません。

	留学生非英語圏パターン			留学生英語圏パターン		
	1年	2年	合計	1年	2年	合計
日本語	4単位	4単位	8単位	4単位	4単位	8単位
英語	2単位	0単位	2単位	0単位	0単位	0単位
諸外国語	0単位	0単位	0単位	2単位	0単位	2単位
合計	6単位	4単位	10単位	6単位	4単位	10単位

※英語を母語とする国からの留学生は、「留学生英語圏パターン」で履修。

<留学生非英語圏パターン>

1年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
日本語	日本語 1-I・II	水曜 3 時限	全クラス	春学期・秋学期
	日本語 2-I・II	金曜 3 時限	全クラス	春学期・秋学期
英語	English1-I	月曜 1 時限 または月曜 2 時限	全クラス	春学期のみ
	English2-I	木曜 1 時限 または木曜 2 時限	全クラス	春学期のみ
諸外国語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます（一部科目を除き、2年次以上）。			

2年

日本語	日本語 3-I・II	水曜 1 時限	全クラス	春学期・秋学期
	日本語 4-I・II	木曜 4 時限	全クラス	春学期・秋学期
英語・諸外国語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。			

※英語のクラスは、後日 WEB 掲示板にて発表します。詳細は、新入生ガイダンス時に説明いたします。

<留学生英語圏パターン>

1年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
日本語	日本語 1-I・II	水曜 3 時限	全クラス	春学期・秋学期
	日本語 2-I・II	金曜 3 時限	全クラス	春学期・秋学期
英語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます（2年次以上）。			
諸外国語	〇〇語 1-I	月曜 1 時限 または月曜 2 時限	全クラス	春学期のみ
	〇〇語 2-I	木曜 1 時限 または木曜 2 時限	全クラス	春学期のみ

2年

日本語	日本語 3-I・II	水曜 1 時限	全クラス	春学期・秋学期
	日本語 4-I・II	木曜 4 時限	全クラス	春学期・秋学期
英語・諸外国語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。			

4.ILAC(アイラック)科目の履修(2017年度以降入学者)

(2) - 1 4群「選択英語」について

2年次以降で、より特化した内容で英語を勉強したい学生のために、次の「選択英語」の各科目が設けられています。

- ①「選択英語」は、履修登録時に指定すれば、必修英語科目の単位に代替することができます。
(必修英語科目の再履修の場合のみ)
- ②履修希望者は、最初の授業に出席し、担当教員より履修の許可を受けてください。
- ③テキストは、担当教員より履修の許可を得てから購入してください。

科目	種目	単位	履修年次	開講数	開講セメスター	連続	重複
選択英語	Oral Communication I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	Oral Communication II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	English through Movies and Drama I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	English through Movies and Drama II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	TOEIC(R) I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	TOEIC(R) II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	英検準備 I (2018年度をもって閉講)	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	英検準備 II (2018年度をもって閉講)	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	英語検定試験対策 I (2019年度新規開講) ※1	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	英語検定試験対策 II (2019年度新規開講) ※1	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	Business Communication I	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	Business Communication II	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	Computer Assisted English Learning I (2018年度をもって閉講)	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	Computer Assisted English Learning II (2018年度をもって閉講)	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	ニュース英語 I (2019年度新規開講)	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
ニュース英語 II (2019年度新規開講)	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×	

<用語説明>

【連続】：前年度までに履修して、単位を修得した科目をもう一度履修すること。

【重複】：同じ年度内に、同じ名前の科目を複数履修すること。

※1 2018年度までに「英検準備 I」または「英検準備 II」の単位を修得した方は、「英語検定試験対策 I」「英語検定試験対策 II」のどちらも履修できません。

	2019年度以降 「英語検定試験対策 I」を	2019年度以降 「英語検定試験対策 II」を
2018年度までに 「英検準備 I」の単位修得済み	×	×
2018年度までに 「英検準備 II」の単位修得済み	×	×

(2) - 2 4群「諸外国語」選択科目

必修の授業以外に I L A C 科目 4 群の中から以下の外国語選択科目が履修可能です。

＜注意：諸外国語共通＞

春学期、秋学期を合わせて通年で履修(同一科目の I と II を連続して履修)することが原則となります。各科目(秋学期科目含む)とも、4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員から受講許可を得てください。選抜を行う場合もあります。受講が許可された場合のみ履修登録が可能です。

II(秋学期)のみを履修する授業であっても、そのIIに対応するIの科目の4月の春学期1回目の授業に出席し、受講許可を得て、9月に履修登録を行ってください。

受講許可を得る時には、必ず同一科目を I・II(春学期+秋学期)とも履修するのか、それとも I(春学期)あるいは II(秋学期)のみ履修するのかを、4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員に申し出てください。

	科目名	単位	定員	履修年次	備考
ドイツ語	ドイツ語コミュニケーション I/II	各1	20	2~4	
	ドイツ語表現法 I/II	各1	20	2~4	
	ドイツ語視聴覚 I/II	各1	30	2~4	
	時事ドイツ語 I/II	各1	30	2~4	
	検定ドイツ語 I/II	各1	30	2~4	
	入門ドイツ語(SSI)I/II	各1	30	1~4	※SSI所属学生のみ履修可
フランス語	フランス語コミュニケーション(初級)I/II	各1	30	1~4	
	フランス語視聴覚(入門)I/II	各1	30	1~4	
	フランス語視聴覚(初・中級)I/II	各1	30	2~4	
	時事フランス語 I/II	各1	30	1~4	
	検定フランス語(初級)I/II	各1	30	1~4	
	情報フランス語 I/II ※2019年度休講	各1	30	1~4	
中国語	中国語作文初級 I/II	各1	15	2~4	
	中国語視聴覚初級 I/II	各1	35	2~4	
	中国語コミュニケーション基礎 I/II	各1	20	1~4	
	中国語コミュニケーション初級 I/II	各1	20	2~4	
	資格中国語初級 I/II	各1	40	2~4	
スペイン語	スペイン語コミュニケーション I/II	各1	30	2~4	
	時事スペイン語 I/II	各1	30	2~4	
朝鮮語	朝鮮語 4B- I / II (視聴覚)	各1	30	2~4	
	朝鮮語 5A- I / II (講読)	各1	30	3~4	
	朝鮮語 5B- I / II (表現法)	各1	30	3~4	

4.ILAC(アイラック)科目の履修(2017 年度以降入学者)

留級した学生および進級した学生が未修得の外国語を再履修する場合は、
市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB掲示板の案内を確認してください。

URL: <https://hosei.study.jp/>

※上記トップページから、市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)をクリック



4.ILAC(アイラック)科目の履修(2017 年度以降入学者)

4.3 ILAC科目 5群(体育)の履修

a. 科目名・履修年次・単位

科目名(系列)	履修年次	単位	
(必修科目) スポーツ総合演習	原則として 1年次に履修	2単位	3年次修了までに必ず修得する必要があります。
(選択科目) <2017年度以降入学生> スポーツ総合演習S <2016年度以前入学生> スポーツ総合演習	1~4年次	2単位	必修ではありません。2単位まで履修できます。 修得した単位はILAC科目/基礎科目の単位として 卒業所要単位に計上されます。

b. 内容

体育についての演習(講義および実技)

c. 授業形態・実施場所・期間

通常授業か集中授業のいずれかで受講します。

授業形態	授業期間	種目	場所
通常授業	春学期または秋学期	複数の種目の複合	①市ヶ谷総合体育館 ②富士見坂校舎体育館
集中授業	夏季休業期間中の4日間	複数の種目の複合	①市ヶ谷総合体育館 ②富士見坂校舎体育館

d. 保健体育ガイダンス(保健体育時間割の説明・受講授業の決定・仮登録)

対象	内容	日時	場所
2019年度入学生	学部ガイダンスで説明 (日時・場所は入学時配布の「新入生連絡事項」を参照)		
2018年度以前 入学生	必修科目の再履修ガイダンス ★必修単位未修得者は必ず参加する ★再履修で集中授業を希望する者もここに 参加する	3月28日(木)10時~	富士見ゲート G403
全入学年度 共通	選択科目のガイダンス ★希望者のみ参加する	4月5日(金)17時30分~	富士見ゲート G403
	集中授業のガイダンス ★希望者のみ参加する(再履修で集中授 業を希望する者は対象としない)	4月6日(土)9時30分~	富士見ゲート G403

e. 履修登録(日時等詳細は学部ガイダンスで説明)

①新入生の必修科目

Webの申請画面に事前登録されるので各自でWeb履修登録を完了してください。

②選択科目希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出し、受講許可を得てから各自でWeb履修登録を完了してください。

③集中授業希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出してください。事務処理が済み次第、Webの申請画面に事前登録されるので、各自でWeb履修登録を完了してください。

f. 健康診断等

大学実施の健康診断を必ず受けてください。

g. 体育会入部者

授業の受講に代えて、体育会の活動により、5群科目の単位を修得することができます。

体育会活動による単位の修得は体育会での1年間の活動で2単位です。

在学中に体育会活動によって修得できる単位の上限は2単位です。

この制度を実施していない学部もあるので注意してください。

春学期履修登録期間内（部員本人の所属学部の指示する日）に申請手続きが必要となりますので、学部窓口を用意してある所定用紙に記入の上、提出してください。

h. 連絡

体育科目に関わる連絡は、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB掲示板、市ヶ谷総合体育館1F 掲示板で行います。

i. 心身の状態についての相談

体育の授業を履修するにあたり、心身の状態について心配があり、相談したいという場合は、保健体育センターにお問い合わせください。

※問い合わせ先

保健体育センター市ヶ谷体育課：電話03-3264-9498

ILAC 科目の目的と内容（2017年度以降入学者）

※ 履修上の注意は 学部一（41）を参照してください。

4.4 ILAC 科目 100 番台～300 番台／0 群～5 群の履修について

ILAC(アイラック)科目は半期(春学期・秋学期)ごとに授業を完結する Semester 制を採用しており、科目名の後に「I/II」、「A/B/C/D・・・」と表記します。成績評価は半期ごとに出され、単位を修得していきます。科目名称によって、以下のような特徴があります。履修計画の参考としてください。

- ①「I/II」とは、連続履修することで、より理解が深まるとされる科目を示しています。IIについてはIを履修していることが前提となっている科目もあるので、履修登録前に、必ずWEBシラバスで確認してください。特に外国語科目(必修および選択科目)は、原則としてI/IIを連続履修することが前提とされていますので、注意が必要です。
- ②「A/B/C/D・・・」とは、「I/II」のように履修の順次性を問わない科目を示しています。例えば、「〇〇学A」と「〇〇学B」では、「〇〇学B」は必ずしも「〇〇学A」の履修を前提としていません。「〇〇学A」と「〇〇学B」とで、異なる分野の学習を通じて、相互の理解を深めることができます。
- ③ リベラルアーツ科目は、科目名の後に「L」が付きます(例：□□学 L I /L II、△△論 LA/LB/LC/LD・・・)。これは、基盤科目との違いを明示するものです。リベラルアーツ科目には、基盤科目を履修していることが前提になっている科目もあります(例：倫理学 L I は、倫理学Iの内容をさらに発展させて学ぶ)。履修登録前に、WEB シラバスで必ず確認し、計画的な学習を心掛けてください。

WEBシラバスでは、授業内容詳細を全て確認できます。履修前にWEBシラバスを確認しましょう。

単位を修得した同名科目を再度履修することはできません。

ただし、IとII、AとB、AとLA等は異なる科目です。例えば、〇〇学Aと〇〇学LAであれば、どちらも履修することができます。科目名称のルールを理解し、計画的に履修してください。

なお、以降の説明では、特別な場合を除き「I」「II」(または「III」「IV」)等の記述を省きます。

(1)ILAC 科目修得により目指すもの

ILAC 科目は、人文科学・社会科学・自然科学・情報科学・外国語・保健体育・キャリアデザインなどの各分野をバランスよく学び、社会や世界で活躍するために必要な、幅広い知識や柔軟な思考法、問題を発見しそれを解決する力や文章作成能力、他者との円滑なコミュニケーション能力など、真の意味での「教養」を身につけるために開設されています。これらの基礎となる基盤科目から、応用・発展的なリベラルアーツ科目、専門性の高い総合科目(※)など、段階に応じて多様な学修が可能となります。

(2)ILAC 科目のカリキュラムについて

各科目には次のような番号(ナンバリング)が付されています。これは「学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するための仕組み」です。

100 番台には、基盤科目・外国語科目・選択基盤科目が設置されています。大学生としての基本的な学問への臨み方、および各分野の知識・考え方を身につけ、大学4年間の学習の土台づくりを行うことを目的としています。

200 番台には、リベラルアーツ科目と外国語科目が設置されています。リベラルアーツ科目では、基盤科目の内容をさらに発展、または専門的にした授業が開講されており、皆さんの興味に応じて、教養を深め、視野を広げることができます。また、外国語科目では、1年次に履修した語学のスキルや教養としての外国語をさらに向上させます。

4.ILAC(アイラック)科目の履修(2017年度以降入学者)

300番台には、総合科目・教養ゼミ(※)が設置されています。100番台・200番台の科目の学びをさらに発展させ、真のリベラルアーツの修得を目的としています。少人数で開講される教養ゼミでは、教員や受講生との議論・学び合いを行うことができます。

移り変わりの激しい時代を生きる私たちには、学問の壁を越えて、柔軟な発想で知識・考え方を取り入れ、直面する問題を打開し、自由な世界を切り開いていく必要があります。リベラルアーツとは単に教養科目を意味するものではなく、自由な世界を切り開く知識・考え方、それを修得する力を示します。真のリベラルアーツを、ILAC科目で修得していきましょう。

科目名称	基盤科目	外国語科目	選択基盤科目	リベラルアーツ科目	外国語科目	総合科目・教養ゼミ
分野	1・2・3・5群の科目	4群(英語、諸外国語)の必修科目	0群の科目	0～5群の科目	4群・選択外国語	1～5群の科目
科目	日本古典文学A/B 社会学I/II 入門生物学A/B等	English1 I/II English2 I/II ○○語1 I/II ○○語2 I/II	基礎ゼミ、情報処理演習 I キャリアデザイン入門 法政学への招待等	日本史I/II 地理学LA/LB フランスの文化と社会 IA/LB 健康の科学LA/LB等	English3 I/II ビジネス・イングリッシュ I/II ○○語3 I/II ○○語4 I/II 中国語コミュニケーション 基礎 I/II	美術論A/B 人間行動学A/B 集合論A/B 教養ゼミ(各教養ゼミごとにテーマあり)など
概要	教養(リベラルアーツ)・専門学部の学びの基盤となる。人文科学・社会科学・自然科学のそれぞれの学問分野における基礎的な知識と基本的な考え方、および保健体育科目をバランス良く学びます。	大学の初年次生として必要な基礎的な語学力を養うと同時に、異文化や世界の情勢への理解を深めるため、英語をはじめ諸外国語(ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語)をバランス良く学びます。	既存の学問分野にとらわれない汎用性のある知識や技能を身に付けるため、基礎ゼミや情報処理、就業力育成など、初年次に修得するべき科目を学びます。法政学では法政大学の歴史や現状について学ぶことができます。	基盤科目で修得した基礎的な知識の上に、さらに深い教養を身につけます。各学問分野をより高度に、バランス良く修得するとともに、専門科目の枠組みに縛られない体系的・学際的な学びを可能にします。	学生の選択に基づき、より高度な語学力や異文化理解力の向上を目指し、現代のグローバル社会に通用する国際感覚を養います。英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語の全てが開講されています。	リベラルアーツ科目と連動した発展的な学びから、単独で完結する学びまで、多様な科目を配置し、真のリベラルアーツの修得を目指します。教養ゼミではゼミナール形式で、学部専門科目とは異なる高度な学びを実現します。
年次	100番台 ※1 (1年生以上)			200番台 ※2 (1・2年生以上)		300番台 ※3 (2年生以上)

- ※1 100番台・・・主として基礎的な内容の科目を意味しています。
- ※2 200番台・・・主として応用的な内容の科目を意味しています。
- ※3 300番台・・・主として発展的な内容の科目を意味しています。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーを作成しています。以下から確認することができますので、履修の際には、本冊子、WEB シラバスとあわせて、ぜひ参考にしてください。

URL : http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/oshirase/liberal/NEWS/curriculum_map_tree.html

カリキュラム・マップ	ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目(※)と学習到達目標の相関関係を表で示したもの	
カリキュラム・ツリー	学習目標を達成するために、ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目(※)がどの分野、年次に配当されているかなどを図で示したもの	

(3) 各分野の概要について

ILAC 科目0群

ILAC 科目0群を開設する目的は、ILAC 科目の1群から5群までの科目の履修を容易にするため、それらの導入部を学び、基本的な知識を備えるためです。

- ・「大学を知ろう <法政学>への招待」(2018年度まで「法政学への招待」)、「法政学の探究」は法政大学の歴史と現状を知ること、本学で学ぶことの意義を考え、より深い理解を得るための科目です。
- ・「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン応用」は、「大学生が『就業力』を身につけるために、授業で何をどのように学ぶべきか」を目的に編成された科目です。卒業後に働くことを考えたとき何を大学時代に学んでおけばいいのか、深く考える仕組みを授業に取り入れています。

ILAC 科目1群(人文科学分野)

1群の科目は、文化全般をその研究対象とし、さらに、文化を創り出す人間とは何か、という研究課題をもっています。そのため、研究対象と講義内容は、多岐にわたります。

基本となるのは、「文学」「歴史」「哲学」の3分野といえます。文学では、日本の古典・近現代文学を始め、中国古典文学や西欧文学の講義を開講しています。哲学や歴史についても同様に、日本・東洋・西洋それぞれの専門の教員による講義が設置されており、さらに論理学・倫理学・言語学・文章論・宗教学・芸術なども含むさまざまな分野の教員による講座を開講しています。

以上の科目は「人文科学」と呼ばれ、古来教養の根幹をなす学問分野です。これらの科目を受講することを通して、幅広い知見を身につけるとともに、過去を学ぶことによって現在を考察し、さらには未来を展望する能力をつけることが狙いとなります。

ILAC 科目2群(社会科学分野)

2群の開講科目は、「法学」「政治学」「経済学」「社会学」「心理学」「地理学」「文化人類学」「社会思想」の8分野です。

これらの科目は、いずれも、人間社会のさまざまな側面を、それぞれ独自の視角や方法によって分析・検討するものです。各科目では、それぞれの分野の基本的な知識や視点を学ぶことで、人間社会のさまざまな現象を理解するための基礎的な教養と知見を身につけます。それと同時に、特にリベラルアーツ科目を通じてそれぞれの分野が築き上げてきた理論や手法を学ぶことで、専門的・発展的な問いを考えていくための思考力・洞察力を養います。

学生のみなさんには、それぞれの科目を通じて、自分がそのなかの一員である社会について理解を深めて、人間社会のさまざまな現象や問題について考える基礎としてほしいと思います。

ILAC 科目3群(自然科学分野)

3群は、さまざまな自然科学の授業によって構成されています。

基盤科目では、自然科学の学習に必要な基礎的知識を習得します。リベラルアーツ科目では、さまざまなテーマを発展的に学習します。さらに、専門科目である総合科目(※)や教養ゼミ(※)を通して、それらのテーマをより深く探求できるようなカリキュラム構成となっています。

基盤科目は、「教養数学」「基礎数学」「入門物理学」「入門化学」「入門生物学」「天文学」「科学史」および「サイエンス・ラボ」からなる選択必修科目です。いずれも、文科系の初学者にもわかりやすく学ぶことができるよう工夫されています。

リベラルアーツ科目は、「数学特講」「発展数学」「教養物理学」「教養化学」および「教養生物学」からなる選択必修科目です。各自の興味に合わせて発展的な学習を行ってください。

なお、基礎数学および発展数学は順次性のある科目です。Ⅰ→Ⅱの順に履修することが望まれます。

3群の履修を通して、学生の皆さんが自然科学そのものに興味を持つだけでなく、自然科学を通じたものの見方を習得し、各自の専門分野における学習・研究に役立てることが期待されています。

4.ILAC(アイラック)科目の履修(2017年度以降入学者)

ILAC 科目4群(外国語科目)

4群には英語と諸外国語〔ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語(留学生のみ)〕があります。

- ★受講定員のある科目:春学期1回目の授業に出席し、担当教員の受講許可を得てください。選抜を行う場合、方法は教員が指示します。許可された学生のみ履修登録できます。
- ★春学期のみ、秋学期のみ履修を希望する場合も、必ず春学期の1回目の授業で教員にその旨を申し出て、受講の許可を受けてください。
選抜結果は市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB 掲示板で発表します。

<英語>

ILAC 科目の「英語」では、高校までに身につけた運用能力をさらに伸ばすとともに、世界の多様な文化に対する理解を深め、批判的思考能力を涵養します。

<諸外国語>

「諸外国語」は、それぞれの言語を学びながら、その言語が用いられている地域の歴史・文化・生活に接し、理解を深めることを目的に開講されています。

外国語科目は、必修諸外国語(1・2年次)、選択外国語(2年次以上)、さらにリベラルアーツ科目と総合科目(※)から構成されています。

必修諸外国語では、大学で新しく出会う外国語の基礎を1年次に学び、その基礎力を用いて2年次にさらなる学習を続けます。また、学び始めた外国語の能力をより高めたい場合には、選択外国語科目として各言語それぞれに「〇〇語コミュニケーション」「〇〇語視聴覚」「時事〇〇語」などバラエティ豊かな科目が設置され、さまざまなアプローチから外国語に接し、語学力の修得とともに生きた外国語の世界に触れながら4年次まで学習を続けることができます。

リベラルアーツ科目には、1年次から履修できる「〇〇語の世界 L」という入門のための科目があります。2年次から履修できる「〇〇の文化と社会 L」では、その言語が話される地域の文化や生活を広く深く学ぶことができます。

総合科目(※)では、それまでに学習した外国語の能力を十分に生かしつつ、より高度で専門的な内容を学んでいきます。また、英語と諸外国語を一つ学んだのちに、さらにもう一つの外国語の世界に触れてみたいと思うグローバルな関心を抱く学生のために「第三外国語としての〇〇語」という科目があります。

このように、法政大学では、とても多彩な外国語の世界がみなさんを待っています。

なお、選択外国語科目のテキストは、担当教員より受講が許可されてから購入してください。

ILAC 科目5群(保健体育分野)

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週1回半期型、②自由に選択履修できる集中型、③自由に選択履修できる週1回半期型の3つの形式で開講されています。①と③は週1回、半期にわたって開講されますが、②は夏季休暇期間中に4日間の集中授業として市ヶ谷キャンパスで開講されます。

①は必修科目で、原則学部・学科・所属クラスを単位として履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。②は必修科目(①を履修した場合は選択科目としても履修可能)、③は選択科目で、いずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。卒業のためには、上記の①、②のいずれかの形式で2単位を取得することが必須となりますが、5群の単位としては①、②、③のうちの2つの授業を各1回、計4単位を上限として履修・取得することが認められています。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、学部ガイダンスの際に説明します。また、2年次以降にも選択科目の内容を深めた5群科目も用意されています。

(4) 公開科目(市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目)について

授業内容は、WEB シラバスを確認してください。公開科目のうち、人間環境学部生のみ履修な科目もあります。積極的に履修してください。

(※) 総合科目・・・人間環境学部生は、2年次以上で他学部公開科目として履修します。

4.5 IIAC科目一覧 ★2017年度以降入学者用★

群	科目配置	必修選択	授 業 科 目	単 位	年 次	備 考		
0群	基盤	選択	キャリアデザイン入門	2	1			
			キャリアデザイン応用	2	1~4	(注1)参照		
	リベラル	選択	大学を知ろう <法政学>への招待	2	1~4	(注2)参照		
1群	基盤	選択必修	法政学の探究LA	2	1~4			
			法政学の探究LB	2	1~4			
			日本古典文学A/B	各2	1~4			
			日本近・現代文学A/B	各2	1~4			
			日本文学A/B	各2	1~4			
			外国文学A/B	各2	1~4			
			文章論	2	1~4	定員制		
			言語学A/B	各2	1~4	定員制		
			哲学 I / II	各2	1~4			
			倫理学 I / II	各2	1~4			
			論理学 I / II	各2	1~4			
			東洋史 I / II	各2	1~4			
			西洋史 I / II	各2	1~4			
	日本史 I / II	各2	1~4					
	宗教論 I / II	各2	1~4					
	芸術A/B	各2	1~4					
	リベラル	選択必修	日本文学と文化LA/LB	各2	1~4			
			日本文学と文化LC/LD	各2	1~4			
			日本文学と文化LE/LF	各2	1~4			
			日本文学と文化LG/LH	各2	1~4			
			外国文学と文化LA/LB	各2	1~4			
			外国文学と文化LC/LD	各2	1~4			
			外国文学と文化LE/LF	各2	1~4			
			文学と社会LA/LB	各2	1~4	2019年度休講		
			文学と社会LC/LD	各2	1~4			
			文学と社会LE/LF	各2	1~4			
			音声学L	2	1~4	定員制		
			哲学L I / L II	各2	1~4			
			倫理学L I / L II	各2	1~4			
			論理学L I / L II	各2	1~4			
			東洋史L I / L II	各2	1~4			
			西洋史LA/LB	各2	1~4			
			日本史L I / L II	各2	1~4			
宗教論L I / L II			各2	1~4				
2群			基盤	選択必修	法学 I / II	各2	1~4	
					法学(日本国憲法)	2	1~4	
	経済学 I / II	各2			1~4			
	心理学 I / II	各2			1~4			
	地理学 I / II	各2			1~4			
	政治学 I / II	各2			1~4			
	社会学 I / II	各2			1~4			
	リベラル	選択必修	文化人類学	2	1~4			
			社会思想 I / II	各2	1~4			
			経済学LA/LB	各2	1~4			
			心理学LA/LB	各2	1~4			
			地理学LA/LB	各2	1~4			
			地理学LC/LD	各2	1~4			
			政治学LA/LB	各2	1~4			
3群	基盤	選択必修	社会学LA/LB	各2	2~4			
			社会学LC/LD	各2	1~4			
			文化人類学L	2	1~4			
			社会思想LA/LB	各2	1~4			
			教養数学A/B	各2	1~4			
	リベラル	選択必修	基礎数学 I / II	各2	2~4			
			入門物理学A/B	各2	1~4			
			入門生物学A/B	各2	1~4			
			入門化学A/B	各2	1~4			
			サイエンス・ラボA/B	各2	1~4	定員:25名		
5群	基盤	必修	スポーツ総合演習	2	1			
		選択	スポーツ総合演習S	2	1~4			
	リベラル	選択	天文学A/B	各2	1~4			
			科学史A/B	各2	1~4			
			数学特講LA/LB	各2	1~4	2019年度休講		
			発展数学L I / L II	各2	2~4			
			教養物理学LA/LB	各2	2~4			
3群	リベラル	選択必修	教養生物学LA/LB	各2	1~4			
			教養生物学LC/LD	各2	1~4			
			教養生物学LE/LF	各2	1~4	2019年度休講		
			教養化学LA	2	1~4			
			教養化学LB	2	1~4			
5群	リベラル	選択	健康の科学LA/LB	各2	1~4	定員制		

群	科目配置	必修選択	授 業 科 目	単 位	年 次	備 考
4群	リベラル	選択	ドイツの文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員:30名
			ドイツ語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名
			フランスの文化と社会LA/LB	各2	1~4	定員:30名
			フランス語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:40名
			フランス生活文化論LA/LB	各2	1~4	定員:40名
			ロシアの文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員制
			ロシア語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名
			中国の文化と社会LA、LC/LB、LD	各2	2~4	定員:60名
			中国語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名
			スペイン語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:40名
外国語科目	英語	必修	English1- I / II	各1	1	
			English2- I / II	各1	1	
		選択	入門英語(SS1) I / II	各1	1~4	SSI生のみ履修可、定員:48名
			Oral Communication I / II	各1	2~4	
			English through Movies and Drama I / II	各1	2~4	
			TOEIC(R) I / II	各1	2~4	
			英検準備 I / II	各1	2~4	2018年度をもって閉講
			英語検定試験対策 I / II	各1	2~4	2019年度新規開講科目
			Business Communication I / II	各1	2~4	
			Computer Assisted English Learning I / II	各1	2~4	2018年度をもって閉講
ニュース英語 I / II	各1	2~4	2019年度新規開講科目			
外国語科目	ドイツ語	必修	ドイツ語1- I / II	各1	1	
			ドイツ語2- I / II	各1	1	
			ドイツ語3- I / II	各1	2	
	選択	ドイツ語表現法 I / II	各1	2~4	定員:20名	
		入門ドイツ語(SS1) I / II	各1	1~4	SSI生のみ履修可、定員:30名	
		検定ドイツ語 I / II	各1	2~4	定員:30名	
		ドイツ語コミュニケーション I / II	各1	2~4	定員:20名	
		ドイツ語視聴覚 I / II	各1	2~4	定員:30名	
	時事ドイツ語 I / II	各1	2~4	定員:30名		
	フランス語	必修	フランス語1- I / II	各1	1	
フランス語2- I / II			各1	1		
フランス語3- I / II			各1	2		
選択		フランス語視聴覚(入門) I / II	各1	1~4	定員:30名	
		フランス語視聴覚(初・中級) I / II	各1	2~4	定員:30名	
		フランス語コミュニケーション(初級) I / II	各1	1~4	定員:30名	
ロシア語	必修	ロシア語1- I / II	各1	1		
		ロシア語2- I / II	各1	1		
中国語	必修	中国語1- I / II	各1	1		
		中国語2- I / II	各1	1		
		中国語3- I / II	各1	2		
	選択	中国語視聴覚初級 I / II	各1	2~4	定員:35名	
		中国語作文初級 I / II	各1	2~4	定員:15名	
		中国語コミュニケーション基礎 I / II	各1	1~4	定員:20名	
		中国語コミュニケーション初級 I / II	各1	2~4	定員:20名	
	資格中国語初級 I / II	各1	2~4	定員:40名		
	スペイン語	必修	スペイン語1- I / II	各1	1	
			スペイン語2- I / II	各1	1	
スペイン語3- I / II			各1	2		
選択		時事スペイン語 I / II	各1	2~4	定員:30名	
スペイン語コミュニケーション I / II	各1	2~4	定員:30名			
朝鮮語	必修	朝鮮語1- I / II	各1	1		
		朝鮮語2- I / II	各1	1		
		朝鮮語3- I / II	各1	2		
	選択必修	朝鮮語3C- I / II (コミュニケーション)	各1	2~4	定員:30名	
		朝鮮語4B- I / II (視聴覚)	各1	2~4	定員:30名	
選択	朝鮮語5A- I / II (講読)	各1	3~4	定員:30名		
	朝鮮語5B- I / II (表現法)	各1	3~4	定員:30名		
日本語	必修	日本語1- I / II	各1	1		
		日本語2- I / II	各1	1		
		日本語3- I / II	各1	2		
		日本語4- I / II	各1	2	留学生のみ履修可	

科目配置の「基盤」は基盤科目を、「リベラル」はリベラルアーツ科目を指します。

2017年度をもって、「キャリアデザイン演習」、「就業基礎力養成 I / II」は閉講しました。

(注1)2017年度以前に「就業基礎力養成 I」を修得済みの場合は、「キャリアデザイン応用」を履修できません。

(注2)2019年度より「法政学への招待」は、「大学を知ろう <法政学>への招待」へ科目名称が変更となりました。

2018年度以前に「法政大学への招待」を修得済みの場合は、「大学を知ろう <法政学>への招待」を履修できません。

(注3)2018年度以前に「英検準備 I」または「同 II」の単位を修得済みの場合は、「英語試験検定対策 I / II」のどちらも履修できません。

4.6 ILAC科目/市ヶ谷基礎科目 新旧科目対応表

※単位数や履修年次は、科目一覧で確認して下さい。

2017年度以降入学生				2016年度以前入学生		
群	科目配置	必修選択	授業科目	群	授業科目	備考
0群	基盤	選択	キャリアデザイン入門	0群	キャリアデザイン入門	
			キャリアデザイン応用		キャリアデザイン応用	
			キャリアデザイン演習		キャリアデザイン演習	2017年度で閉講
			就業基礎力養成Ⅰ/Ⅱ		就業基礎力養成Ⅰ/Ⅱ	2017年度で閉講
			大学を知らう <法政学>への招待		大学を知らう <法政学>への招待	2019年度より「法政学への招待」から名称変更
	リベラル	選択	法政学の探究LA ◇		法政学の探究A	
			法政学の探究LB ◇		法政学の探究B	
1群	基盤	選択必修	日本古典文学A ◇	1群	文学Ⅰ	
			日本古典文学B ◇		文学Ⅱ	
			日本近・現代文学A ◇		文学Ⅰ	
			日本近・現代文学B ◇		文学Ⅱ	
			日本文学A ◇		文学Ⅰ	
			日本文学B ◇		文学Ⅱ	
			外国文学A ◇		文学Ⅰ	
			外国文学B ◇		文学Ⅱ	
			文章論 ◇		文章論Ⅰ	
			言語学A ◇			
			言語学B ◇			
			哲学Ⅰ/Ⅱ			
			倫理学Ⅰ/Ⅱ			
			論理学Ⅰ/Ⅱ			
			東洋史Ⅰ/Ⅱ			
			西洋史Ⅰ/Ⅱ			
			日本史Ⅰ/Ⅱ			
			宗教論Ⅰ/Ⅱ			
			芸術A			
			芸術B			
						※1
			哲学Ⅰ/Ⅱ			
			倫理学Ⅰ/Ⅱ			
			論理学Ⅰ/Ⅱ			
			東洋史Ⅰ/Ⅱ			
			西洋史Ⅰ/Ⅱ			
			日本史Ⅰ/Ⅱ			
			宗教論Ⅰ/Ⅱ			
			芸術Ⅰ			
			芸術Ⅱ			
			文学Ⅰ			
			文学Ⅱ			
			文学Ⅰ			
			文学Ⅱ			
			文学Ⅰ			
			文学Ⅱ			
			文学Ⅰ			
			文学Ⅱ			
						※1
			哲学Ⅰ/Ⅱ			
			倫理学Ⅰ/Ⅱ			
			論理学Ⅰ/Ⅱ			
			東洋史Ⅰ/Ⅱ			
			西洋史Ⅰ			
			西洋史Ⅱ			
			日本史Ⅰ/Ⅱ			
			宗教論Ⅰ/Ⅱ			
2群	基盤	選択必修	法学Ⅰ/Ⅱ	2群	法学Ⅰ/Ⅱ	
			法学(日本国憲法)		法学(日本国憲法)	
			経済学Ⅰ/Ⅱ		経済学Ⅰ/Ⅱ	
			心理学Ⅰ/Ⅱ		心理学Ⅰ/Ⅱ	
			地理学Ⅰ/Ⅱ		地理学Ⅰ/Ⅱ	
			政治学Ⅰ/Ⅱ		政治学Ⅰ/Ⅱ	
			社会学Ⅰ/Ⅱ		社会学Ⅰ/Ⅱ	
			文化人類学 ◇		文化人類学Ⅰ	
			社会思想Ⅰ/Ⅱ		社会思想Ⅰ/Ⅱ	
			経済学LA ◇		経済学Ⅰ	
			経済学LB ◇		経済学Ⅱ	
			心理学LA ◇		心理学Ⅰ	
			心理学LB ◇		心理学Ⅱ	
			地理学LA/LC ◇		地理学Ⅰ	
			地理学LB/LD ◇		地理学Ⅱ	
			政治学LA ◇		政治学Ⅰ	
			政治学LB ◇		政治学Ⅱ	
			社会学LA/LC ◇		社会学Ⅰ	
			社会学LB/LD ◇		社会学Ⅱ	
			文化人類学L ◇		文化人類学Ⅱ	
社会思想LA ◇	社会思想Ⅰ					
社会思想LB ◇	社会思想Ⅱ					
3群	基盤	選択必修	教養数学A	3群	教養数学A	
			教養数学B		教養数学B	
			基礎数学Ⅰ/Ⅱ		基礎数学Ⅰ/Ⅱ	
			入門物理学A ◇		原子から宇宙までⅠ	
			入門物理学B ◇		原子から宇宙までⅡ	
			入門生物学A ◇		生命科学Ⅰ/Ⅱ	
			入門生物学B ◇		生命科学Ⅰ/Ⅱ	
			入門化学A ◇		物質と環境Ⅰ	
			入門化学B ◇		物質と環境Ⅱ	
			サイエンス・ラボA		サイエンス・ラボA	
			サイエンス・ラボB		サイエンス・ラボB	
			天文学A		天文学Ⅰ	
			天文学B		天文学Ⅱ	
			科学史A		科学史Ⅰ	
			科学史B		科学史Ⅱ	
			数学特講LA ◇		教養数学A	
			数学特講LB ◇		教養数学B	
			発展数学Ⅰ/Ⅱ ◇		発展数学Ⅰ/Ⅱ	
			教養物理学LA ◇		原子から宇宙までⅠ	
			教養物理学LB ◇		原子から宇宙までⅡ	
教養生物学LB/LD/LF ◇	生命科学Ⅰ					
教養生物学LA/LC/LE ◇	生命科学Ⅱ					
教養化学LA ◇	物質と環境Ⅰ					
教養化学LB ◇	物質と環境Ⅱ					
5群	基盤	必修	スポーツ総合演習	5群	スポーツ総合演習	
		選択	スポーツ総合演習S ◇			
	リベラル	選択	健康の科学LA ◇	0群		
			健康の科学LB ◇			※1

2017年度以降入学生				2016年度以前入学生			
群	科目配置	必修選択	授業科目	群	授業科目	備考	
4群	リベラル	選択	ドイツの文化と社会LA ◇	総合科目	ドイツの文化と社会 I	※4	
			ドイツの文化と社会LB ◇		ドイツの文化と社会 II		
			ドイツ語の世界LA ◇			※1	
			ドイツ語の世界LB ◇				
			フランスの文化と社会LA ◇		フランスの文化と社会I	※4	
			フランスの文化と社会LB ◇		フランスの文化と社会 II		
			フランス語の世界LA ◇			※1	
			フランス語の世界LB ◇				
			フランス生活文化論LA			※1	
			フランス生活文化論LB		ロシアの文化と社会I	※4	
			ロシアの文化と社会LA ◇		ロシアの文化と社会 II		
			ロシアの文化と社会LB ◇			※1	
			ロシア語の世界LA ◇		中国の文化と社会I	※4	
			ロシア語の世界LB ◇		中国の文化と社会 II		
			中国の文化と社会LA/LC ◇			※1	
			中国の文化と社会LB/LD ◇				
			中国語の世界LA ◇			※1	
			中国語の世界LB ◇				
			スペイン語の世界LA ◇			※1	
			スペイン語の世界LB ◇				
	朝鮮の文化と社会LA ◇	朝鮮の文化と社会I	※4				
	朝鮮の文化と社会LB ◇	朝鮮の文化と社会 II					
	日本の文化と社会LA ◇	日本の文化と社会I	※4				
	日本の文化と社会LB ◇	日本の文化と社会 II					
	日本語の世界LA ◇		※1				
	日本語の世界LB ◇						
	外国語科目	英語	必修	English1- I / II	4群	English1- I / II	
				English2- I / II		English2- I / II	
				入門英語(SSD) I / II		入門英語(SSD) I / II	
			選択	Oral Communication I / II		Oral Communication I / II	
				English through Movies and Drama I / II		English through Movies and Drama I / II	
				TOEIC(R) I / II		TOEIC(R) I / II	
英検準備 I / II		英検準備 I / II		2018年度で閉講			
英語検定試験対策 I / II		英語検定試験対策 I / II		2019年度新規開講			
Business Communication I / II		Business Communication I / II					
Computer Assisted English Learning I / II		Computer Assisted English Learning I / II	2018年度で閉講				
ニュース英語 I / II		ニュース英語 I / II	2019年度新規開講				
ドイツ語		必修	ドイツ語1- I / II	ドイツ語1- I / II			
	ドイツ語2- I / II		ドイツ語2- I / II				
	ドイツ語3- I / II		ドイツ語3- I / II				
	選択	ドイツ語表現法 I / II	ドイツ語表現法 I / II				
		入門ドイツ語(SSD) I / II ◇	スポーツ・ドイツ語I/II				
		検定ドイツ語 I / II	検定ドイツ語 I / II				
フランス語	必修	ドイツ語コミュニケーション I / II	ドイツ語コミュニケーション I / II				
		ドイツ語視聴覚 I / II	ドイツ語視聴覚 I / II				
		時事ドイツ語 I / II	時事ドイツ語 I / II				
	選択	フランス語1- I / II	フランス語1- I / II				
		フランス語2- I / II	フランス語2- I / II				
		フランス語3- I / II	フランス語3- I / II				
フランス語視聴覚(入門) I / II ◇	フランス語視聴覚I/II						
フランス語視聴覚(初・中級) I / II ◇	フランス語視聴覚Ⅲ/Ⅳ						
フランス語コミュニケーション(初級) I / II ◇	スポーツ・フランス語I/II	2017年度で閉講					
時事フランス語 I / II	観光フランス語I/II	2017年度で閉講					
検定フランス語(初級) I / II ◇	フランス語コミュニケーションI/II						
情報フランス語 I / II	時事フランス語I/II						
ロシア語	必修	ロシア語1- I / II	ロシア語1- I / II				
		ロシア語2- I / II	ロシア語2- I / II				
		ロシア語3- I / II	ロシア語3- I / II				
中国語	必修	中国語1- I / II	中国語1- I / II				
		中国語2- I / II	中国語2- I / II				
		中国語3- I / II	中国語3- I / II				
	選択	中国語視聴覚初級 I / II ◇	中国語視聴覚I/II				
		中国語作文初級 I / II ◇	中国語表現法I/II				
		中国語コミュニケーション基礎 I / II ◇	中国語コミュニケーションI/II				
中国語コミュニケーション初級 I / II ◇	中国語コミュニケーションI/II						
資格中国語初級 I / II ◇	検定中国語I/II						
スペイン語	必修	スペイン語1- I / II	スペイン語1- I / II				
		スペイン語2- I / II	スペイン語2- I / II				
		スペイン語3- I / II	スペイン語3- I / II				
選択	時事スペイン語 I / II	時事スペイン語 I / II					
	スペイン語コミュニケーション I / II	スペイン語講読I/II	※2				
		スペイン語コミュニケーション I / II					
朝鮮語	必修	朝鮮語1- I / II	朝鮮語1- I / II				
		朝鮮語2- I / II	朝鮮語2- I / II				
		朝鮮語3- I / II	朝鮮語3- I / II				
	選択必修	朝鮮語3C(コミュニケーション)- I / II ◇	朝鮮語コミュニケーションI/II				
		朝鮮語4B(視聴覚)- I / II ◇	朝鮮語視聴覚I/II				
		朝鮮語5A(購読)- I / II ◇	朝鮮語講読I/II				
選択	朝鮮語5B(表現法)- I / II ◇	朝鮮語表現法I/II					
		日本語1- I / II					
		日本語2- I / II					
日本語	必修	日本語1- I / II	日本語1- I / II				
		日本語2- I / II	日本語2- I / II				
		日本語3- I / II	日本語3- I / II				
		日本語4- I / II	日本語4- I / II				
選択		日本語コミュニケーションI/II	※2				

- ※1・・・2017年度以降入学生のみ履修可
- ※2・・・2016年度以前入学生のみ履修可
- ※3・・・2016年度以前入学生は、0群科目として履修
- ※4・・・2016年度以前入学生は、総合科目として履修
- ◇・・・2017年度以降入学生と2016年度以前入学生で科目名が異なるもの。

市ヶ谷基礎科目の履修上の注意(2016 年度以前入学者)

留級した学生および進級した学生が未修得の科目を再履修する場合は、

市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB掲示板の案内を確認してください。

URL: <https://hosei.study.jp/>

※上記トップページから、市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)をクリック



4.1 市ヶ谷基礎科目0群～3群の履修

★0群★

- a. 2017 年度までに「就業基礎力養成 I」の単位を修得した方は、「キャリアデザイン応用」を履修できません。

	2017 年度までに <u>就業基礎力養成 I</u> の単位を修得済み	2017 年度までに <u>就業基礎力養成 II</u> の単位を修得済み	2017 年度までに <u>キャリアデザイン演習</u> の単位を修得済み
キャリアデザイン応用	×履修できません	○履修できます	○履修できます

- b. 2018年度までに「法政学への招待」の単位を修得した方は、「大学を知ろう <法政学>への招待」を履修できません。
- c. 科目によって履修できる年次が異なります。
- d. 単位を修得した同名科目を再度履修することはできません。ただし、I と II、A と B 等は異なる科目です。例えば、○○学Aと○○学Bであれば、どちらも履修することができます。

★1群～3群★

- a. 1 年次生が市ヶ谷基礎科目 1 群～3 群の科目を履修する場合は、学部・学科・クラスの指定があります。2～4 年次生は、学部・学科・クラスの指定はありません。基礎科目時間割を確認し、選択してください。
- b. 「教養数学 A/B」は 1 年次生以上が履修可能です。「基礎数学 I/II」は 2 年次生以上が履修可能です。
- c. 単位を修得した同名科目を再度履修することはできません。ただし、I と II、A と B 等は異なる科目です。例えば、○○学Aと○○学Bであれば、どちらも履修することができます。
- d. 「サイエンス・ラボ A」と「サイエンス・ラボ B」は実験授業のため定員制です。そのため、履修登録前に仮登録が必要です。仮登録の詳細については、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) WEB 掲示板等を参照してください。
- e. 2015 年度までに、「自然総合講座 A」または「自然総合講座 B」(あるいは両方)を履修して単位を修得したものは「サイエンス・ラボ A」と「サイエンス・ラボ B」のどちらも履修できません。

	2015 年度までに <u>自然総合講座 A</u> の単位を修得済み	2015 年度までに <u>自然総合講座 B</u> の単位を修得済み	2015 年度までに <u>自然総合講座 A/B</u> <u>ともに</u> 単位を修得済み
サイエンス・ラボ A	×履修できません	×履修できません	×履修できません
サイエンス・ラボ B	×履修できません	×履修できません	×履修できません

- f. 2015 年度までに、「数学、情報を読むために I」を履修して単位を修得したものは「教養数学 A」を、また「数学、情報を読むために II」を履修して単位を修得したものは「教養数学 B」を履修できません。
- なお、単位を修得していない場合は履修が可能です。

4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016年度以前入学者)

	2015年度までに <u>数学・情報を読むためにI</u> の単位を修得済み	2015年度までに <u>数学・情報を読むためにII</u> の単位を修得済み
教養数学A	×履修できません	○履修できます
教養数学B	○履修できます	×履修できません

4.2 市ヶ谷基礎科目4群(外国語)の履修

外国語については、以下のとおり履修します。なお、入学時に選択した諸外国語は、途中から他の外国語に変更することはできません。

外国語(4群)には、(1)必修外国語と、(2)4群選択科目があります。

(1) - 1 必修外国語

必修外国語の履修パターンは以下の3つがあります。入学時に選択した諸外国語および履修パターンを変更することはできません。

	パターン1			パターン2			パターン3		
	1年	2年	合計	1年	2年	合計	1年	2年	合計
英語	4単位	0単位	4単位	2単位	0単位	2単位	0単位	0単位	0単位
諸外国語	4単位	2単位	6単位	4単位	4単位	8単位	4単位	6単位	10単位
合計	8単位	2単位	10単位	6単位	4単位	10単位	4単位	6単位	10単位

各パターンで履修するクラスは以下の通りです。

<パターン1>

1年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
英語	English1-I・II	月曜1時限	英語1～5組 英語上級クラス	春学期・秋学期
		月曜2時限	英語7～11組 英語上級クラス	春学期・秋学期
	English2-I・II	木曜1時限	英語7～11組 英語上級クラス	春学期・秋学期
		木曜2時限	英語1～5組 英語上級クラス	春学期・秋学期
諸外国語	〇〇語1-I・II	月曜1時限	G～L組	春学期・秋学期
		月曜2時限	A～F組	春学期・秋学期
	〇〇語2-I・II	木曜1時限	A～F組	春学期・秋学期
		木曜2時限	G～L組	春学期・秋学期

※英語のクラスは、後日WEB掲示板にて発表します。

2年

英語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。			
諸外国語	〇〇語3-I・II	時間割表で確認	全クラス	春学期・秋学期

<パターン2>

1年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
英語	English1-I	月曜 1時限	英語 6組 英語上級クラス	春学期のみ
		月曜 2時限	英語 12組 英語上級クラス	春学期のみ
	English2-I	木曜 1時限	英語 12組 英語上級クラス	春学期のみ
		木曜 2時限	英語 6組 英語上級クラス	春学期のみ
諸外国語	〇〇語 1-I・II	月曜 1時限	G～L組	春学期・秋学期
		月曜 2時限	A～F組	
	〇〇語 2-I・II	木曜 1時限	A～F組	春学期・秋学期
		木曜 2時限	G～L組	

※英語のクラスは、後日 WEB 掲示板にて発表します。

2年

英語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。			
諸外国語	〇〇語 3-I・II	ドイツ語	水曜 5時限 人間環境学部のクラスを履修 (パターン1 選択者と共通)	春学期・秋学期
		ロシア語		
		中国語		
		スペイン語		
	〇〇語 3-I・II 重点	フランス語	法・文・経営学部生と共通のクラスを履修 (パターン3 選択者と共通)	
		朝鮮語		
〇〇語 4-I・II 重点	法・文・経営学部生と共通のクラスを履修 (パターン3 選択者と共通)			

<パターン3>

1年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
英語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。(2年次以上)			
諸外国語	〇〇語 1-I・II	月曜 1時限	G～L組	春学期・秋学期
		月曜 2時限	A～F組	
	〇〇語 2-I・II	木曜 1時限	A～F組	春学期・秋学期
		木曜 2時限	G～L組	

2年

英語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。			
諸外国語	〇〇語 3-I・II	ドイツ語	水曜 5時限 人間環境学部のクラスを履修 (パターン1 選択者と共通)	春学期・秋学期
		ロシア語		
		中国語		
		スペイン語		
	〇〇語 3-I・II 重点	フランス語	法・文・経営学部生と共通のクラスを履修 (パターン2 選択者と共通)	
		朝鮮語		
〇〇語 4-I・II 重点	法・文・経営学部生と共通のクラスを履修 (パターン2 選択者と共通)			
〇〇語 5-I・II 重点	※ドイツ・中国語・スペイン語・朝鮮語5-I・II は4群「諸外国語」選択科目を代替してください。			

4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016年度以前入学者)

(1) - 2 留学生の必修外国語

留学生入試で入学した留学生は、以下のパターンになります。入学時に選択した諸外国語および履修パターンを変更することはできません。

※ 英語を母語とする国からの留学生は、「留学生パターン2」で履修することとなります。

	留学生パターン1			留学生パターン2		
	1年	2年	合計	1年	2年	合計
日本語	4単位	4単位	8単位	4単位	4単位	8単位
英語	2単位	0単位	2単位	0単位	0単位	0単位
諸外国語	0単位	0単位	0単位	2単位	0単位	2単位
合計	6単位	4単位	10単位	6単位	4単位	10単位

<留学生パターン1>

1年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
日本語	日本語 1-I・II	水曜 3時限	全クラス	春学期・秋学期
	日本語 2-I・II	金曜 3時限	全クラス	春学期・秋学期
英語	English1-I	月曜 1時限または月曜 2時限	全クラス	春学期のみ
	English2-I	木曜 1時限または木曜 2時限	全クラス	春学期のみ
諸外国語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます（一部科目を除き、2年次以上）。			

2年

日本語	日本語 3-I・II	水曜 1時限	全クラス	春学期・秋学期
	日本語 4-I・II	木曜 4時限	全クラス	春学期・秋学期
英語・諸外国語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。			

※英語のクラスは、後日 WEB 掲示板にて発表します。

<留学生パターン2>

1年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
日本語	日本語 1-I・II	水曜 3時限	全クラス	春学期・秋学期
	日本語 2-I・II	金曜 3時限	全クラス	春学期・秋学期
英語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます（2年次以上）。			
諸外国語	〇〇語 1-I	月曜 1時限または月曜 2時限	全クラス	春学期のみ
	〇〇語 2-I	木曜 1時限または木曜 2時限	全クラス	春学期のみ

2年

日本語	日本語 3-I・II	水曜 1時限	全クラス	春学期・秋学期
	日本語 4-I・II	木曜 4時限	全クラス	春学期・秋学期
英語・諸外国語	必修科目はありません。※選択科目は履修できます。			

(2) - 1 4群「選択英語」について

2年次以降で、より特化した内容で英語を勉強したい学生のために、次の「選択英語」の各科目が設けられています。

- ① 「選択英語」は、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語）のいずれの履修パターンの場合でも、履修することができます。
- ② 「選択英語」は、履修登録時に指定すれば、必修英語科目の単位に代替することができます。（必修英語科目の再履修の場合のみ）
- ③ 履修希望者は、最初の授業に出席し、担当教員より履修の許可を受けてください。
- ④ テキストは、担当教員より履修の許可を得てから購入してください。

科目	種目	単位	履修年次	開講数	開講セメスター	連続	重複
選択英語	Oral Communication I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	Oral Communication II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	English through Movies and Drama I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	English through Movies and Drama II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	TOEIC(R) I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	TOEIC(R) II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	英検準備 I (2018年度をもって閉講)	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	英検準備 II (2018年度をもって閉講)	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	英語検定試験対策 I (2019年度新規開講) ※1	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	英語検定試験対策 II (2019年度新規開講) ※1	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	Business Communication I	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	Business Communication II	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	Computer Assisted English Learning I (2018年度をもって閉講)	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	Computer Assisted English Learning II (2018年度をもって閉講)	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	ニュース英語 I (2019年度新規開講)						
ニュース英語 II (2019年度新規開講)							

<用語説明>

【連続】：前年度までに履修して、単位を修得した科目をもう一度履修すること。

【重複】：同じ年度内に、同じ名前の科目を複数履修すること。

※1 2018年度までに「英検準備I」または「英検準備II」の単位を修得した方は、「英語検定試験対策I」「英語検定試験対策II」のどちらも履修できません。

	2019年度以降 「英語検定試験対策I」を	2019年度以降 「英語検定試験対策II」を
2018年度までに 「英検準備I」の単位修得済み	×	×
2018年度までに 「英検準備II」の単位修得済み	×	×

4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016年度以前入学者)

(2) - 2 4群「諸外国語」選択科目

必修の授業以外に基礎科目4群の中から以下の外国語選択科目が履修可能です。

<注意：諸外国語共通>

春学期、秋学期を合わせて通年で履修（同一科目のⅠとⅡを連続して履修）することが原則となります。各科目（秋学期科目含む）とも、4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員から受講許可を得てください。選抜を行う場合もあります。受講が許可された場合のみ履修登録が可能です。

Ⅱ（秋学期）のみを履修する授業であっても、そのⅡに対応するⅠの科目の4月の春学期1回目の授業に出席し、受講許可を得て、9月に履修登録を行ってください。

受講許可を得る時には、必ず同一科目をⅠ・Ⅱ（春学期+秋学期）とも履修するのか、それともⅠ（春学期）あるいはⅡ（秋学期）のみ履修するのかを、4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員に申し出てください。

※定員は目安です。受講許可は教員の判断によります。定員に満たない場合でも選抜を行う可能性があります。

	科目名	単位	定員	履修年次	連続	重複	備考
ドイツ語	ドイツ語コミュニケーションⅠ/Ⅱ	各1	20	2~4	○	×	ドイツ語3-I・II, ドイツ語4-I・II重点, ドイツ語5-I・II重点に代替可
	ドイツ語表現法Ⅰ/Ⅱ	各1	20	2~4	○	×	
	ドイツ語視聴覚Ⅰ/Ⅱ	各1	30	2~4	○	×	
	時事ドイツ語Ⅰ/Ⅱ	各1	30	2~4	○	○	
	検定ドイツ語Ⅰ/Ⅱ	各1	30	2~4	○	×	
	スポーツ・ドイツ語Ⅰ/Ⅱ ※SSI所属学生のみ履修可	各1	30	1~3	○	○	ドイツ語1-I・II~4-I・IIのいずれかに代替しなければならない
フランス語	フランス語コミュニケーションⅠ/Ⅱ	各1	30	2~4	○	×	フランス語3-I・II, フランス語3-I・II重点, フランス語4-I・II重点, フランス語5-I・II重点に代替可
	フランス語視聴覚Ⅰ/Ⅱ	各1	30	1~4	×	×	フランス語2-I・IIに代替可
	フランス語視聴覚Ⅲ/Ⅳ	各1	30	2	×	×	フランス語3-I・II, フランス語3-I・II重点, フランス語4-I・II重点, フランス語5-I・II重点に代替可
	時事フランス語Ⅰ/Ⅱ	各1	30	2	×	×	
	検定フランス語Ⅰ/Ⅱ	各1	30	2~4	○	○	
情報フランス語Ⅰ/Ⅱ ※2019年度休講	各1	30	2	×	×		
中国語	中国語コミュニケーションⅠ/Ⅱ	各1	20	2~4	○	×	中国語3-I・II, 中国語4-I・II重点, 中国語5-I・II重点, に代替可
	中国語表現法Ⅰ/Ⅱ	各1	15	2~4	○	×	
	中国語視聴覚Ⅰ/Ⅱ	各1	35	2~4	×	×	
	検定中国語Ⅰ/Ⅱ	各1	40	2~4	×	×	
スペイン語	スペイン語コミュニケーションⅠ/Ⅱ	各1	30	2~4	×	×	スペイン語3-I・II, スペイン語4-I・II重点, スペイン語5-I・II重点に代替可
	スペイン語講読Ⅰ/Ⅱ ※2018年度をもって閉講	各1	30	2~4	×	×	
	時事スペイン語Ⅰ/Ⅱ	各1	30	2~4	×	×	
朝鮮語	朝鮮語コミュニケーションⅠ/Ⅱ	各1	30	2~4	×	×	朝鮮語3-I・II, 朝鮮語3-I・II重点, 朝鮮語4-I・II重点, 朝鮮語5-I・II重点に代替可
	朝鮮語視聴覚Ⅰ/Ⅱ	各1	30	2~4	×	×	
	朝鮮語講読Ⅰ/Ⅱ	各1	30	3~4	×	×	代替不可
	朝鮮語表現法Ⅰ/Ⅱ	各1	30	3~4	×	×	

<用語説明>

【連続】：前年度までに履修して、単位を修得した科目をもう一度履修すること。

【重複】：同じ年度内に、同じ名前の科目を複数履修すること。

【代替】：特定の科目の代わりとして履修すること。

必修科目の代替として履修した場合、各種証明書・通知書では、「〇〇語 4-I」のように必修科目の科目名で表示されます。

- 例) ・スペイン語講読 I を履修し、スペイン語 4-I に代替した場合
→各種証明書・通知書では、「スペイン語 4-I」と記載され 4 群必修の単位となります。
・スペイン語講読 I を履修し、スペイン語 4-I に代替しない場合
→各種証明書・通知書では、「スペイン語講読 I」と記載され 4 群選択の単位となります。

留級した学生および進級した学生が未修得の外国語を再履修する場合は、

市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB掲示板の案内を確認してください。

URL: <https://hosei.study.jp/>

※上記トップページから、市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)をクリック



4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016 年度以前入学者)

留級した学生および進級した学生が未修得の外国語を再履修する場合は、
市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB掲示板の案内を確認してください。

URL: <https://hosei.study.jp/>

※上記トップページから、市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)をクリック



4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016 年度以前入学者)

4.3 市ヶ谷基礎科目 5 群 (体育) の履修

a. 科目名・履修年次・単位

科目名 (系列)	履修年次	単位	
(必修科目) スポーツ総合演習	原則として 1年次に履修	2単位	3年次修了までに必ず修得する必要があります。
(選択科目) <2017年度以降入学生> スポーツ総合演習S <2016年度以前入学生> スポーツ総合演習	1~4年次	2単位	必修ではありません。2単位まで履修できます。 修得した単位はILAC科目/基礎科目の単位として卒業所要単位に計上されます。

b. 内容

体育についての演習 (講義および実技)

c. 授業形態・実施場所・期間

通常授業か集中授業のいずれかで受講します。

授業形態	授業期間	種目	場所
通常授業	春学期または秋学期	複数の種目の複合	①市ヶ谷総合体育館 ②富士見坂校舎体育館
集中授業	夏季休業期間中の4日間	複数の種目の複合	①市ヶ谷総合体育館 ②富士見坂校舎体育館

d. 保健体育ガイダンス(保健体育時間割の説明・受講授業の決定・仮登録)

対象	内容	日時	場所
2019年度入学生	学部ガイダンスで説明 (日時・場所は入学時配布の「新入生連絡事項」を参照)		
2018年度以前入学生	必修科目の再履修ガイダンス ★必修単位未修得者は必ず参加する ★再履修で集中授業を希望する者もここに参加する	3月28日(木)10時~	富士見ゲート G403
全入学年度 共通	選択科目のガイダンス ★希望者のみ参加する	4月5日(金)17時30分~	富士見ゲート G403
	集中授業のガイダンス ★希望者のみ参加する(再履修で集中授業を希望する者は対象としない)	4月6日(土)9時30分~	富士見ゲート G403

e. 履修登録(日時等詳細は学部ガイダンスで説明)

①新入生の必修科目

Webの申請画面に事前登録されるので各自でWeb履修登録を完了してください。

②選択科目希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出し、受講許可を得てから各自でWeb履修登録を完了してください。

③集中授業希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出してください。事務処理が済み次第、Webの申請画面に事前登録されるので、各自でWeb履修登録を完了してください。

4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016 年度以前入学者)

f. 健康診断等

大学実施の健康診断を必ず受けてください。

g. 体育会入部者

授業の受講に代えて、体育会の活動により、5群科目の単位を修得することができます。

体育会活動による単位の修得は体育会での1年間の活動で2単位です。

在学中に体育会活動によって修得できる単位の上限は2単位です。

この制度を実施していない学部もあるので注意してください。

春学期履修登録期間内(部員本人の所属学部の指示する日)に申請手続きが必要となりますので、学部窓口を用意してある所定用紙に記入の上、提出してください。

h. 連絡

体育科目に関わる連絡は、市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB掲示板、市ヶ谷総合体育館1F掲示板で行います。

i. 心身の状態についての相談

体育の授業を履修するにあたり、心身の状態について心配があり、相談したいという場合は、保健体育センターに問い合わせてください。

※問い合わせ先

保健体育センター市ヶ谷体育課：電話03-3264-9498

4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016年度以前入学者)

市ヶ谷基礎科目の目的と内容(2016年度以前入学者)

※ 履修上の注意は学部一(58)を参照してください。

4.4 市ヶ谷基礎科目0群～5群について

本学の市ヶ谷基礎科目は半期(春学期・秋学期)ごとに授業を完結する Semester 制を採用しており、科目名の後に I または II と表示されます。 ※一部、通年科目もあります。また、I/II の代わりに III (春学期)/IV (秋学期) と表示される科目もあります。

成績評価は半期ごとに出され、単位を修得していくこととなりますが、科目の性質、または特殊性によって I、II を連続履修することで、より理解が深まるとされる科目もあります。以下の各群の説明、および WEB シラバスをよく読み確認してください。

履修登録は年1回春学期のはじめに、I/II (または III/IV) とともに受講科目の登録をします。II (または IV) については I (または III) を履修していることが前提となっている科目もあるので、必ず WEB シラバス等で確認し、間違いのないように登録することが必要です。特に外国語科目(必修および選択科目)については原則として I/II (または III/IV) 連続履修することが前提とされていますので、注意が必要です。市ヶ谷基礎科目は0群から5群までの6つの科目群により構成されています。各群の概要については、以下の説明を読んでください。なお、以降の説明では、特別な場合を除き「I」「II」(または「III」「IV」)等の記述を省くものとします。

市ヶ谷基礎科目0群

市ヶ谷基礎科目0群を開設する目的は、市ヶ谷基礎科目1群から5群までの科目の履修を容易にするため、それらの導入部を学び、基本的な知識を備えるためです。

- ・「大学を知ろう <法政学>への招待」(2018年度まで「法政学への招待」)、「法政学の探究A・B」は法政大学の歴史と現状を知ること、本学で学ぶことの意義を考え、より深い理解を得るための科目です。
- ・「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン応用」は、「大学生が『就業力』を身に付けるために、授業で何をどのように学ぶべきか」を目的に編成された科目です。卒業後に働くことを考えたとき何を大学時代に学んでおけばいいのか、深く考える仕組みを授業に取り入れています。

市ヶ谷基礎科目1群

1群の科目は、文化全般をその研究対象とし、さらに、文化を創り出す人間とは何か、という研究課題をもっています。そのため、研究対象と講義内容は、多岐にわたります。

基本となるのは、「文学」「歴史」「哲学」の3分野といえます。文学では、日本の古典・近現代文学を始め、中国古典文学や西欧文学の講義を開講しています。哲学や歴史についても同様に、日本・東洋・西洋それぞれの専門の教員による講義が設置されており、さらに論理学・倫理学・言語学・文章論・宗教学・芸術なども含むさまざまな分野の教員による講座を開講しています。

以上の科目は「人文科学」と呼ばれ、古来教養の根幹をなす学問分野です。これらの科目を受講することを通して、幅広い知見を身につけるとともに、過去を学ぶことによって現在を考察し、さらには未来を展望する能力をつけることが狙いとなります。

市ヶ谷基礎科目2群

2群の開講科目は、「法学」「政治学」「経済学」「社会学」「心理学」「地理学」「文化人類学」「社会思想」の8分野です。

これらの科目は、いずれも、人間社会のさまざまな側面を、それぞれ独自の視角や方法によって分析・検討するものです。各科目では、それぞれの分野の基本的な知識や視点を学ぶことで、人間社会のさまざまな現象を理解するための基礎的な教養と知見を身につけます。それと同時に、それぞれの分野が築き上

4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016 年度以前入学者)

げてきた理論や手法を学ぶことで、専門的・発展的な問いを考えていくための思考力・洞察力を養います。

学生のみなさんには、それぞれの科目を通じて、自分がそのなかの一員である社会について理解を深めて、人間社会のさまざまな現象や問題について考える基礎としてほしいと思います。

市ヶ谷基礎科目 3 群

宇宙空間のようなマクロの世界から微粒子のようなミクロの世界までを含む自然を、自然科学は研究対象とします。ここでは、自然科学の基礎的な学問から、人文科学や社会科学とも関連して学際性をもつ学問まで、「教養数学」、「基礎数学」、「発展数学」、「原子から宇宙まで」、「生命科学」、「物質と環境」、「サイエンス・ラボ」、「天文学」、「科学史」の 9 科目が開講されています。

市ヶ谷基礎科目 4 群

4 群には英語と英語以外の諸外国語があります。英語と、入学時に希望した英語以外の諸外国語のドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語、日本語（留学生のみ）のうちから 1 言語の合計 2 言語を履修します。

<英語>

市ヶ谷基礎科目の「英語」では、高校までに身につけた運用能力をさらに伸ばすとともに、世界の多様な文化に対する理解を深め、批判的思考能力を涵養します。

<諸外国語>

「諸外国語」は、それぞれの言語を学びながら、その言語が用いられている地域の歴史・文化・生活に接し、理解を深めることを目的に開講されています。

市ヶ谷基礎科目 5 群

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週 1 回半期型、②自由に選択履修できる集中型、③自由に選択履修できる週 1 回半期型の 3 つの形式で開講されています。①と③は週 1 回、半期にわたって開講されますが、②は夏季休暇期間中に 4 日間の集中授業として市ヶ谷キャンパスで開講されます。

①は必修科目で、原則学部・学科・所属クラスを単位として履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。②は必修科目（①を履修した場合は選択科目としても履修可能）、③は選択科目で、いずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。卒業のためには、上記の①、②のいずれかの形式で 2 単位を修得することが必須となりますが、5 群の単位としては①、②、③のうちの 2 つの授業を各 1 回ずつ、計 4 単位を上限として履修・修得することが認められています。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、学部ガイダンスの際に説明します。

4.市ヶ谷基礎科目の履修(2016 年度以前入学者)

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーを作成しています。以下から確認することができますので、履修の際には、本冊子、WEB シラバスとあわせて、ぜひ参考にしてください。

URL : http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/oshirase/liberal/NEWS/curriculum_map_tree.html

カリキュラム・マップ	ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目（※）と学習到達目標の相関関係を表で示したもの	
カリキュラム・ツリー	学習目標を達成するために、ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目（※）がどの分野、年次に担当されているかなどを図で示したもの	

公開科目（市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目）について

授業内容は、WEB シラバスを確認してください。公開科目のうち、人間環境学部生のみ履修な科目もあります。積極的に履修してください。

（※）総合科目・・・人間環境学部生は、2年次以上で他学部公開科目として履修します。

4.5 市ヶ谷基礎科目0・1・2・3群科目一覧表(2016年度以前入学者)

	科目	定員制	履修年次	備考
0 群	キャリアデザイン入門	-	1	
	キャリアデザイン演習	-	1	2017年度で閉講
	キャリアデザイン応用	-	1~4	2018年度新規開講
	就業基礎力養成Ⅰ	-	1~4	2017年度で閉講
	就業基礎力養成Ⅱ	-	1~4	2017年度で閉講
	大学を知ろう <法政学>への招待	-	1~4	2019年度より「法政学への招待」から名称変更
	法政学の探求A	-	1~4	※Aは秋学期開講
	法政学の探求B	-	1~4	※Bは春学期開講
1 群	文学Ⅰ	-	1~4	
	文学Ⅱ	-	1~4	
	哲学Ⅰ	-	1~4	
	哲学Ⅱ	-	1~4	
	論理学Ⅰ	-	1~4	
	論理学Ⅱ	-	1~4	
	倫理学Ⅰ	-	1~4	
	倫理学Ⅱ	-	1~4	
	東洋史Ⅰ	-	1~4	
	東洋史Ⅱ	-	1~4	
	西洋史Ⅰ	-	1~4	
	西洋史Ⅱ	-	1~4	
	日本史Ⅰ	-	1~4	
	日本史Ⅱ	-	1~4	
	宗教論Ⅰ	-	1~4	
	宗教論Ⅱ	-	1~4	
	文章論Ⅰ	定員制	1~4	
	文章論Ⅱ	定員制	1~4	2016年度で閉講
	芸術Ⅰ	-	1~4	
	芸術Ⅱ	-	1~4	
2 群	法学Ⅰ	-	1~4	
	法学Ⅱ	-	1~4	
	法学(日本国憲法)	-	1~4	※春学期・秋学期とも開講/1回(2単位)のみの修得とする
	経済学Ⅰ	-	1~4	
	経済学Ⅱ	-	1~4	
	心理学Ⅰ	-	1~4	
	心理学Ⅱ	-	1~4	
	地理学Ⅰ	-	1~4	
	地理学Ⅱ	-	1~4	
	政治学Ⅰ	-	1~4	
	政治学Ⅱ	-	1~4	
	社会学Ⅰ	-	1~4	
	社会学Ⅱ	-	1~4	
	文化人類学Ⅰ	-	1~4	
	文化人類学Ⅱ	-	1~4	
	3 群	社会思想Ⅰ	-	1~4
社会思想Ⅱ		-	1~4	
教養数学A		-	1~4	
教養数学B		-	1~4	
原子から宇宙までⅠ		-	1~4	
原子から宇宙までⅡ		-	1~4	
生命科学Ⅰ		-	1~4	
生命科学Ⅱ		-	1~4	
物質と環境Ⅰ		-	1~4	
物質と環境Ⅱ		-	1~4	
サイエンス・ラボA		25	1~4	
サイエンス・ラボB		25	1~4	
天文学Ⅰ		-	1~4	
天文学Ⅱ		-	1~4	
科学史Ⅰ		-	1~4	
科学史Ⅱ		-	1~4	
基礎数学Ⅰ	-	2~4		
基礎数学Ⅱ	-	2~4		
発展数学Ⅰ	-	2~4		
発展数学Ⅱ	-	2~4		

4.6 ILAC科目/市ヶ谷基礎科目 新旧科目対応表

※単位数や履修年次は、科目一覧で確認して下さい。

2017年度以降入学生			2016年度以前入学生			備考
群	科目配置	必修選択	授業科目	群	授業科目	
0群	基盤	選択	キャリアデザイン入門	0群	キャリアデザイン入門	
			キャリアデザイン応用		キャリアデザイン応用	2017年度で閉講
			キャリアデザイン演習		キャリアデザイン演習	2017年度で閉講
			就業基礎力養成Ⅰ/Ⅱ		就業基礎力養成Ⅰ/Ⅱ	2019年度より「法政学への招待」から名称変更
	リベラル	選択	大学を知らう <法政学>への招待		大学を知らう <法政学>への招待	
1群	基盤	選択必修	法政学の探究LA ◇	1群	法政学の探究A	
			法政学の探究LB ◇		法政学の探究B	
			日本古典文学A ◇		文学Ⅰ	
			日本古典文学B ◇		文学Ⅱ	
			日本近・現代文学A ◇		文学Ⅰ	
			日本近・現代文学B ◇		文学Ⅱ	
			日本文学A ◇		文学Ⅰ	
			日本文学B ◇		文学Ⅱ	
			外国文学A ◇		文学Ⅰ	
			外国文学B ◇		文学Ⅱ	
	文章論 ◇	文章論Ⅰ				
	言語学A ◇		※1			
	言語学B ◇					
	哲学Ⅰ/Ⅱ	哲学Ⅰ/Ⅱ				
	倫理学Ⅰ/Ⅱ	倫理学Ⅰ/Ⅱ				
	論理学Ⅰ/Ⅱ	論理学Ⅰ/Ⅱ				
	東洋史Ⅰ/Ⅱ	東洋史Ⅰ/Ⅱ				
	西洋史Ⅰ/Ⅱ	西洋史Ⅰ/Ⅱ				
	日本史Ⅰ/Ⅱ	日本史Ⅰ/Ⅱ				
	宗教論Ⅰ/Ⅱ	宗教論Ⅰ/Ⅱ				
芸術A	芸術Ⅰ					
芸術B	芸術Ⅱ					
リベラル	選択必修	日本文学と文化LA/LC/LE/LG ◇	文学Ⅰ			
		日本文学と文化LB/LD/LF/LH ◇	文学Ⅱ			
		外国文学と文化LA/LC/LE ◇	文学Ⅰ			
		外国文学と文化LB/LD/LF ◇	文学Ⅱ			
		文学と社会LA/LC/LE ◇	文学Ⅰ			
		文学と社会LB/LD/LF ◇	文学Ⅱ			
		音声学L ◇		※1		
		哲学Ⅰ/Ⅱ	哲学Ⅰ/Ⅱ			
		倫理学Ⅰ/Ⅱ	倫理学Ⅰ/Ⅱ			
		論理学Ⅰ/Ⅱ	論理学Ⅰ/Ⅱ			
2群	基盤	選択必修	法学Ⅰ/Ⅱ	2群	法学Ⅰ/Ⅱ	
			法学(日本国憲法)		法学(日本国憲法)	
			経済学Ⅰ/Ⅱ		経済学Ⅰ/Ⅱ	
			心理学Ⅰ/Ⅱ		心理学Ⅰ/Ⅱ	
			地理学Ⅰ/Ⅱ		地理学Ⅰ/Ⅱ	
	リベラル	選択必修	政治学Ⅰ/Ⅱ		政治学Ⅰ/Ⅱ	
			社会学Ⅰ/Ⅱ		社会学Ⅰ/Ⅱ	
			文化人類学 ◇		文化人類学Ⅰ	
			社会思想Ⅰ/Ⅱ		社会思想Ⅰ/Ⅱ	
			経済学LA ◇		経済学Ⅰ	
経済学LB ◇	経済学Ⅱ					
心理学LA ◇	心理学Ⅰ					
心理学LB ◇	心理学Ⅱ					
地理学LA/LC ◇	地理学Ⅰ					
地理学LB/LD ◇	地理学Ⅱ					
政治学LA ◇	政治学Ⅰ					
政治学LB ◇	政治学Ⅱ					
社会学LA/LC ◇	社会学Ⅰ					
社会学LB/LD ◇	社会学Ⅱ					
文化人類学L ◇	文化人類学Ⅱ					
社会思想LA ◇	社会思想Ⅰ					
社会思想LB ◇	社会思想Ⅱ					
3群	基盤	選択必修	教養数学A	3群	教養数学A	
			教養数学B		教養数学B	
			基礎数学Ⅰ/Ⅱ		基礎数学Ⅰ/Ⅱ	
			入門物理学A ◇		原子から宇宙までⅠ	
			入門物理学B ◇		原子から宇宙までⅡ	
	リベラル	選択必修	入門生物学A ◇		生命科学Ⅰ/Ⅱ	
			入門生物学B ◇		生命科学Ⅰ	
			入門化学A ◇		物質と環境Ⅰ	
			入門化学B ◇		物質と環境Ⅱ	
			サイエンス・ラボA		サイエンス・ラボA	
サイエンス・ラボB	サイエンス・ラボB					
天文学A	天文学Ⅰ					
天文学B	天文学Ⅱ					
科学史A	科学史Ⅰ					
科学史B	科学史Ⅱ					
数学特講LA ◇	教養数学A					
数学特講LB ◇	教養数学B					
発展数学Ⅰ/Ⅱ ◇	発展数学Ⅰ/Ⅱ					
教養物理学LA ◇	原子から宇宙までⅠ					
教養物理学LB ◇	原子から宇宙までⅡ					
教養生物学LB/LD/LF ◇	生命科学Ⅰ					
教養生物学LA/LC/LE ◇	生命科学Ⅱ					
教養化学LA ◇	物質と環境Ⅰ					
教養化学LB ◇	物質と環境Ⅱ					
5群	基盤	必修	スポーツ総合演習	5群	スポーツ総合演習	
		選択	スポーツ総合演習S ◇			
	リベラル	選択	健康の科学LA ◇	0群		※1
			健康の科学LB ◇			

2017年度以降入学生				2016年度以前入学生			
群	科目配置	必修選択	授業科目	群	授業科目	備考	
4群	リベラル	選択	ドイツの文化と社会LA ◇	総合科目	ドイツの文化と社会 I	※4	
			ドイツの文化と社会LB ◇		ドイツの文化と社会 II		
			ドイツ語の世界LA ◇			※1	
			ドイツ語の世界LB ◇				
			フランスの文化と社会LA ◇		フランスの文化と社会I	※4	
			フランスの文化と社会LB ◇		フランスの文化と社会 II		
			フランス語の世界LA ◇			※1	
			フランス語の世界LB ◇				
			フランス生活文化論LA			※1	
			フランス生活文化論LB				
			ロシアの文化と社会LA ◇		ロシアの文化と社会I	※4	
			ロシアの文化と社会LB ◇		ロシアの文化と社会 II		
			ロシア語の世界LA ◇			※1	
			ロシア語の世界LB ◇				
			中国の文化と社会LA/LC ◇		中国の文化と社会I	※4	
			中国の文化と社会LB/LD ◇		中国の文化と社会 II		
			中国語の世界LA ◇			※1	
			中国語の世界LB ◇				
			スペイン語の世界LA ◇			※1	
			スペイン語の世界LB ◇				
朝鮮の文化と社会LA ◇	朝鮮の文化と社会I	※4					
朝鮮の文化と社会LB ◇	朝鮮の文化と社会 II						
日本の文化と社会LA ◇	日本の文化と社会I	※4					
日本の文化と社会LB ◇	日本の文化と社会 II						
日本語の世界LA ◇		※1					
日本語の世界LB ◇							
4群	外国語科目	必修	English1- I / II	4群	English1- I / II		
			English2- I / II		English2- I / II		
		選択	入門英語(SSD) I / II		入門英語(SSD) I / II		
			Oral Communication I / II		Oral Communication I / II		
			English through Movies and Drama I / II		English through Movies and Drama I / II		
			TOEIC(R) I / II		TOEIC(R) I / II		
			英検準備 I / II		英検準備 I / II	2018年度で閉講	
			英語検定試験対策 I / II		英語検定試験対策 I / II	2019年度新規開講	
			Business Communication I / II		Business Communication I / II		
			Computer Assisted English Learning I / II		Computer Assisted English Learning I / II	2018年度で閉講	
		ドイツ語	必修		ドイツ語1- I / II	ドイツ語1- I / II	
					ドイツ語2- I / II	ドイツ語2- I / II	
					ドイツ語3- I / II	ドイツ語3- I / II	
			選択		ドイツ語表現法 I / II	ドイツ語表現法 I / II	
					入門ドイツ語(SSD) I / II ◇	スポーツ・ドイツ語 I / II	
					検定ドイツ語 I / II	検定ドイツ語 I / II	
					ドイツ語コミュニケーション I / II	ドイツ語コミュニケーション I / II	
					ドイツ語視聴覚 I / II	ドイツ語視聴覚 I / II	
					時事ドイツ語 I / II	時事ドイツ語 I / II	
					フランス語1- I / II	フランス語1- I / II	
フランス語2- I / II	フランス語2- I / II						
フランス語3- I / II	フランス語3- I / II						
フランス語	必修	フランス語視聴覚(入門) I / II ◇	フランス語視聴覚 I / II				
		フランス語視聴覚(初・中級) I / II ◇	フランス語視聴覚 III / IV				
			スポーツ・フランス語 I / II	2017年度で閉講			
	選択		観光フランス語 I / II	2017年度で閉講			
		フランス語コミュニケーション(初級) I / II ◇	フランス語コミュニケーション I / II				
		時事フランス語 I / II	時事フランス語 I / II				
ロシア語	必修	検定フランス語(初級) I / II ◇	検定フランス語 I / II				
		情報フランス語 I / II	情報フランス語 I / II				
		ロシア語1- I / II	ロシア語1- I / II				
		ロシア語2- I / II	ロシア語2- I / II				
中国語	必修	ロシア語3- I / II	ロシア語3- I / II				
		中国語1- I / II	中国語1- I / II				
		中国語2- I / II	中国語2- I / II				
スペイン語	必修	中国語3- I / II	中国語3- I / II				
		中国語視聴覚初級 I / II ◇	中国語視聴覚 I / II				
		中国語作文初級 I / II ◇	中国語表現法 I / II				
		中国語コミュニケーション基礎 I / II ◇	中国語コミュニケーション I / II				
朝鮮語	必修	中国語コミュニケーション初級 I / II ◇	中国語コミュニケーション I / II				
		資格中国語初級 I / II ◇	検定中国語 I / II				
		スペイン語1- I / II	スペイン語1- I / II				
日本語	必修	スペイン語2- I / II	スペイン語2- I / II				
		スペイン語3- I / II	スペイン語3- I / II				
		時事スペイン語 I / II	時事スペイン語 I / II				
朝鮮語	選択必修	スペイン語コミュニケーション I / II	スペイン語コミュニケーション I / II	※2			
		朝鮮語1- I / II	朝鮮語1- I / II				
		朝鮮語2- I / II	朝鮮語2- I / II				
		朝鮮語3- I / II	朝鮮語3- I / II				
		朝鮮語3C(コミュニケーション)- I / II ◇	朝鮮語コミュニケーション I / II				
日本語	選択	朝鮮語4B(視聴覚)- I / II ◇	朝鮮語視聴覚 I / II				
		朝鮮語5A(購読)- I / II ◇	朝鮮語購読 I / II				
		朝鮮語5B(表現法)- I / II ◇	朝鮮語表現法 I / II				
		日本語1- I / II	日本語1- I / II				
日本語	必修	日本語2- I / II	日本語2- I / II				
		日本語3- I / II	日本語3- I / II				
		日本語4- I / II	日本語4- I / II				
		日本語コミュニケーション I / II	日本語コミュニケーション I / II	※2			

※1・・・2017年度以降入学生のみ履修可

※2・・・2016年度以前入学生のみ履修可

※3・・・2016年度以前入学生は、0群科目として履修

※4・・・2016年度以前入学生は、総合科目として履修

◇・・・2017年度以降入学生と2016年度以前入学生で科目名が異なるもの。

ILAC 科目の履修上の注意 (RSP)

4.1 ILAC 科目 0 群～3 群 (RSP) の履修

★0 群★

「キャリアデザイン入門」は、1 年次のみ履修可能です。

★1 群～3 群★

- a. 1年次生が ILAC 科目 1 群～3 群の科目を履修する場合は、学部・学科・クラス等の指定があります。2～4年次生が履修する場合は学部・学科・クラスの指定はありません。ILAC 科目時間割を確認し、選択してください。
- b. 「教養数学A・B」は 1 年次生以上が履修可能です。「基礎数学 I・II」は 2 年次生以上が履修可能です。
- c. 「サイエンス・ラボA」と「サイエンス・ラボB」は実験授業のため定員制です。そのため、履修登録前に仮登録が必要です。仮登録の詳細については、市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB 掲示板等を参照してください。

4.2 ILAC 科目 4 群 (外国語) の履修

外国語については、以下のとおり履修します。なお、入学時に選択した外国語は、途中から他の外国語に変更することはできません。

(1) - 1 必修外国語

	1 年	2 年	合計
外国語	4 単位	2 単位	6 単位

4.ILAC(アイラック)科目の履修(RSP)

履修するクラスは以下の通りです。

1 年	科目名	曜日・時限	クラス	開講期
英語	English1-I/II	月曜 1 時限	英語 1～6 組	春学期・秋学期
			英語上級クラス	
	English1-I/II	月曜 2 時限	英語 7～12 組	春学期・秋学期
			英語上級クラス	
	English2-I/II	木曜 1 時限	英語 7～12 組	春学期・秋学期
			英語上級クラス	
English2-I/II	木曜 2 時限	英語 1～6 組	春学期・秋学期	
		英語上級クラス		
諸外国語	〇〇語 1-I/II	月曜 1 時限	G～L 組	春学期・秋学期
		月曜 2 時限	A～F 組	春学期・秋学期
	〇〇語 2-I/II	木曜 1 時限	A～F 組	春学期・秋学期
		木曜 2 時限	G～L 組	春学期・秋学期

※英語のクラスは、後日 WEB 掲示板にて発表します。詳細は、新入生ガイダンス時に説明します。

2 年

英語	4 群「選択英語」から 2 単位 次のページ「(2) - 1 4 群「選択英語」について」参照			
諸外国語	〇〇語 3-I/II	水曜 5 限	全クラス	春学期・秋学期

※朝鮮語選択の学生は、「朝鮮語 3-I」と「朝鮮語 3-II」または、「朝鮮語 3C-I」と「朝鮮語 3C-II」を履修してください。

※フランス語選択の学生は、通常クラスの「フランス語 3-I」、「フランス語 3-II」の代わりに、より高度な運用能力を身につける、意欲のある学生向けの重点クラス「フランス語 3-I / (インテンシブ)」、「フランス語 3-II (インテンシブ)」を履修することができます。

上記いずれを履修しても、成績証明書には「フランス語 3-I」または「フランス語 3-II」と記載されます。

(2) - 1 4群「選択英語」について

英語選択者は必修の授業以外に I L A C 科目 4 群の中から以下の英語選択科目が履修可能です。

- ①履修希望者は、最初の授業に出席し、担当教員より履修の許可を受けてください。
- ②テキストは、担当教員より履修の許可を得てから購入してください。
- ③再履修の場合、履修登録時に「選択英語」を必修英語科目 English1-I/II、English2-I/I の単位に代替するよう指定してください。

科目	種目	単位	履修年次	開講数	開講セメスター	連続	重複
選択英語	Oral Communication I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	Oral Communication II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	English through Movies and Drama I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	English through Movies and Drama II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	TOEIC(R) I	1	2~4	2	3, 5, 7	×	×
	TOEIC(R) II	1	2~4	2	4, 6, 8	×	×
	英語検定試験対策 I	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	英語検定試験対策 II	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	Business Communication I	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	Business Communication II	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	Computer Assisted English Learning I	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	Computer Assisted English Learning II	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×
	ニュース英語 I	1	2~4	1	3, 5, 7	×	×
	ニュース英語 II	1	2~4	1	4, 6, 8	×	×

<用語説明>

【連続】：前年度までに履修して、単位を修得した科目をもう一度履修すること。

【重複】：同じ年度内に、同じ名前の科目を複数履修すること。

4.ILAC(アイラック)科目の履修(RSP)

(2) - 2 4群「諸外国語」選択科目

諸外国語選択者は必修の授業以外にILAC科目4群の中から以下の外国語選択科目が履修可能です。

＜注意：諸外国語共通＞

春学期、秋学期を合わせて通年で履修(同一科目のIとIIを連続して履修)することが原則となります。各科目(秋学期科目含む)とも、4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員から受講許可を得てください。選抜を行う場合もあります。受講が許可された場合のみ履修登録が可能です。

II(秋学期)のみを履修する授業であっても、そのIIに対応するIの科目の4月の春学期1回目の授業に出席し、受講許可を得て、9月に履修登録を行ってください。

受講許可を得る時には、必ず同一科目をI・II(春学期+秋学期)とも履修するのか、それともI(春学期)あるいはII(秋学期)のみ履修するのかを、4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員に申し出てください。

ドイツ語	ドイツ語コミュニケーション I/II	各 1	20	2~4	
	ドイツ語表現法 I/II	各 1	20	2~4	
	ドイツ語視聴覚 I/II	各 1	30	2~4	
	時事ドイツ語 I/II	各 1	30	2~4	
	検定ドイツ語 I/II	各 1	30	2~4	
	入門ドイツ語(SSSI)I/II	各 1	30	1~4	※SSSI 所属学生のみ履修可
フランス語	フランス語コミュニケーション(初級)I/II	各 1	30	2~4	
	フランス語視聴覚(入門)I/II	各 1	30	1~4	
	フランス語視聴覚(初・中級)I/II	各 1	30	2~4	
	時事フランス語 I/II	各 1	30	2~4	
	検定フランス語(初級)I/II	各 1	30	2~4	
	情報フランス語 I/II ※2019 年度休講	各 1	30	2~4	
中国語	中国語作文初級 I/II	各 1	15	2~4	
	中国語視聴覚初級 I/II	各 1	35	2~4	
	中国語コミュニケーション基礎 I/II	各 1	20	1~4	
	中国語コミュニケーション初級 I/II	各 1	20	2~4	
	資格中国語初級 I/II	各 1	40	2~4	
スペイン語	スペイン語コミュニケーション I/II	各 1	30	2~4	
	時事スペイン語 I/II	各 1	30	2~4	
朝鮮語	朝鮮語 4B- I / II (視聴覚)	各 1	30	2~4	
	朝鮮語 5A- I / II (講読)	各 1	30	3~4	
	朝鮮語 5B- I / II (表現法)	各 1	30	3~4	

4.3 ILAC 科目 5 群 (体育科目) の履修

科目名・履修年次・単位

科目名 (系列)	履修年次	単位	内容
スポーツ総合演習	原則として 1年次に履修	2単位	体育についての演習 (講義および実技)
スポーツ総合演習 S	1~4年次		
健康の科学 L A			主に講義形式
健康の科学 L B			

原則、「スポーツ総合演習」を履修してください。RSPの方が対象のクラスは、秋学期月曜6時限です。

「スポーツ総合演習」および「スポーツ総合演習 S」を履修する場合は、以下a~fを確認してください。

a. 授業形態・実施場所・期間

通常授業か集中授業のいずれかで受講します。

授業形態	授業期間	種目	場所
通常授業	春学期または秋学期	複数の種目の複合	①市ヶ谷総合体育館 ②富士見坂校舎体育館
集中授業	夏季休業期間中の4日間	複数の種目の複合	①市ヶ谷総合体育館 ②富士見坂校舎体育館

b. 保健体育ガイダンス(保健体育時間割の説明・受講授業の決定・仮登録)

対象	内容	日時	場所
2019 年度入学生	学部ガイダンスで説明 (日時・場所は入学時配布の「新入生連絡事項」を参照)		
全入学年度 共通	『スポーツ総合演習 S』ガイダンス ★希望者のみ参加する	4月5日(金) 17時30分~	富士見ゲート G403
	集中授業ガイダンス ★希望者のみ参加する	4月6日(土) 9時30分~	富士見ゲート G403

c. 履修登録(日時等詳細は学部ガイダンスで説明)

①『スポーツ総合演習』

原則、秋学期月曜6時限の社会人対象クラスを受講してください。Web申請画面に事前登録されるので、各自Web履修登録を完了してください。

②『スポーツ総合演習 S』希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出し、受講許可を得てから各自でWeb履修登録を完了してください。

③集中授業希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出してください。事務処理が済み次第、Web申請画面に事前登録されるので、各自でWeb履修登録を完了してください。

d. 健康診断等

大学実施の健康診断を必ず受けてください。

e. 連絡

体育科目に関わる連絡は、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB掲示板、市ヶ谷総合体育館1F掲示板で行います。

f. 心身の状態についての相談

体育の授業を履修するにあたり、心身の状態について心配があり、相談したいという場合は、保健体育センターに問い合わせてください。

※問い合わせ先

保健体育センター市ヶ谷体育課：電話03-3264-9498

ILAC 科目の目的と内容 (RSP)

※ 履修上の注意は学部一 (74) 参照してください。

ILAC科目100番台～300番台／0群～5群の履修について

ILAC(アイラック)科目は半期(春学期・秋学期)ごとに授業を完結する Semester 制を採用しており、科目名の後に「I/II」、「A/B/C/D・・・」と表記します。成績評価は半期ごとに出され、単位を修得していきます。科目名称によって、以下のような特徴があります。履修計画の参考としてください。

- ①「I/II」とは、連続履修することで、より理解が深まるとされる科目を示しています。IIについてはIを履修していることが前提となっている科目もあるので、履修登録前に、必ずWEBシラバスで確認してください。特に外国語科目(必修および選択科目)は、原則としてI/IIを連続履修することが前提とされていますので、注意が必要です。
- ②「A/B/C/D・・・」とは、「I/II」のように履修の順次性を問わない科目を示しています。例えば、「〇〇学A」と「〇〇学B」では、「〇〇学B」は必ずしも「〇〇学A」の履修を前提としていません。「〇〇学A」と「〇〇学B」とで、異なる分野の学習を通じて、相互の理解を深めることができます。
- ③リベラルアーツ科目は、科目名の後に「L」が付きます(例：□□学 L I /L II、△△論 LA/LB/LC/LD・・・)。これは、基盤科目との違いを明示するものです。リベラルアーツ科目には、基盤科目を履修していることが前提になっている科目もあります(例：倫理学 L I は、倫理学Iの内容をさらに発展させて学ぶ)。履修登録前に、WEBシラバスで必ず確認し、計画的な学習を心掛けてください。

WEBシラバスでは、授業内容詳細を全て確認できます。履修前にWEBシラバスを確認しましょう。

単位を修得した同名科目を再度履修することはできません。

ただし、IとII、AとB、AとLA等は異なる科目です。例えば、〇〇学Aと〇〇学LAであれば、どちらも履修することができます。科目名称のルールを理解し、計画的に履修してください。

なお、以降の説明では、特別な場合を除き「I」「II」(または「III」「IV」)等の記述を省きます。

(1)ILAC 科目修得により目指すもの

ILAC 科目は、人文科学・社会科学・自然科学・情報科学・外国語・保健体育・キャリアデザインなどの各分野をバランスよく学び、社会や世界で活躍するために必要な、幅広い知識や柔軟な思考法、問題を発見しそれを解決する力や文章作成能力、他者との円滑なコミュニケーション能力など、真の意味での「教養」を身につけるために開設されています。これらの基礎となる基盤科目から、応用・発展的なリベラルアーツ科目、専門性の高い総合科目(※)など、段階に応じて多様な学修が可能となります。

(2)ILAC 科目のカリキュラムについて

各科目には次のような番号(ナンバリング)が付されています。これは「学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するための仕組み」です。

100番台には、基盤科目・外国語科目・選択基盤科目が設置されています。大学生としての基本的な学問への臨み方、および各分野の知識・考え方を身につけ、大学4年間の学習の土台づくりを行うことを目的としています。

200番台には、リベラルアーツ科目と外国語科目が設置されています。リベラルアーツ科目では、基盤科目の内容をさらに発展、または専門的にした授業が開講されており、皆さんの興味に応じて、教養を深め、視野を広げることができます。また、外国語科目では、1年次に履修した語学のスキルや教養としての外国語をさらに向上させます。

4. ILAC(アイラック)科目の履修(RSP)

300 番台には、総合科目・教養ゼミ（※）が設置されています。100 番台・200 番台の科目の学びをさらに発展させ、真のリベラルアーツの修得を目的としています。少人数で開講される教養ゼミでは、教員や受講生との議論・学び合いを行うことができます。

移り変わりの激しい時代を生きる私たちには、学問の壁を越えて、柔軟な発想で知識・考え方を取り入れ、直面する問題を打開し、自由な世界を切り開いていく必要があります。リベラルアーツとは単に教養科目を意味するものではなく、自由な世界を切り開く知識・考え方、それを修得する力を示します。真のリベラルアーツを、ILAC 科目で修得していきましょう。

科目名称	基盤科目	外国語科目	選択基盤科目	リベラルアーツ科目	外国語科目	総合科目・教養ゼミ
分野	1・2・3・5群の科目	4群(英語、諸外国語)の必修科目	0群の科目	0～5群の科目	4群・選択外国語	1～5群の科目
科目	日本古典文学A/B 社会学 I / II 入門生物学A/B 等	English1 I / II English2 I / II 〇〇語1 I / II 〇〇語2 I / II	基礎ゼミ、情報処理演習 I キャリアデザイン入門 法政学への招待 等	日本史 I / II 地理学 LA / LB フランスの文化と社会 IA / LB 健康の科学 LA / LB 等	English3 I / II ビジネス・イングリッシュ I / II 〇〇語3 I / II 〇〇語4 I / II 中国語コミュニケーション基礎 I / II	美術論A/B 人間行動学A/B 集合論A/B 教養ゼミ(各教養ゼミごとにテーマあり) など
概要	教養(リベラルアーツ)・専門学部の学びの基礎となる。人文科学・社会科学・自然科学のそれぞれの学問分野における基礎的な知識と基本的な考え方、および保健体育科目をバランス良く学びます。	大学の初年次生として必要な基礎的な語学力を養うと同時に、異文化や世界の情勢への理解を深めるため、英語をはじめ諸外国語(ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語)をバランス良く学びます。	既存の学問分野にとらわれない汎用性のある知識や技能を身に付けるため、基礎ゼミや情報処理、就業力育成など、初年次に修得するべき科目を学びます。法政学では法政大学の歴史や現状について学ぶことができます。	基盤科目で修得した基礎的な知識の上に、さらに深い教養を身につけます。各学問分野をより高度に、バランス良く修得するとともに、専門科目の枠組みに縛られない体系的・学際的な学びを可能にします。	学生の選択に基づき、より高度な語学力や異文化理解力の向上を目指し、現代のグローバル社会に通用する国際感覚を養います。英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語の全てが開講されています。	リベラルアーツ科目と連動した発展的な学びから、単独で完結する学びまで、多様な科目を配置し、真のリベラルアーツの修得を目指します。教養ゼミではゼミナール形式で、学部専門科目とは異なる高度な学びを実現します。
年次	100番台 ※1 (1年生以上)			200番台 ※2 (1・2年生以上)		300番台 ※3 (2年生以上)

- ※1 100 番台・・・主として基礎的な内容の科目を意味しています。
- ※2 200 番台・・・主として応用的な内容の科目を意味しています。
- ※3 300 番台・・・主として発展的な内容の科目を意味しています。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーを作成しています。以下から確認することができますので、履修の際には、本冊子、WEB シラバスとあわせて、ぜひ参考にしてください。

URL : http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/oshirase/liberal/NEWS/curriculum_map_tree.html

カリキュラム・マップ	ILAC 科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目（※）と学習到達目標の相関関係を表で示したもの	
カリキュラム・ツリー	学習目標を達成するために、ILAC 科目 / 市ヶ谷基礎科目・総合科目（※）がどの分野、年次に配当されているかなどを図で示したもの	

4. ILAC(アイラック)科目の履修(RSP)

(3) 各分野の概要について

ILAC 科目0群

ILAC 科目0群を開設する目的は、ILAC 科目の1群から5群までの科目の履修を容易にするため、それらの導入部を学び、基本的な知識を備えるためです。

- ・「大学を知ろう <法政学>への招待」(2018 年度まで「法政学への招待」)、「法政学の探究」は法政大学の歴史と現状を知ること、本学で学ぶことの意義を考え、より深い理解を得るための科目です。
- ・「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン応用」は、「大学生が『就業力』を身につけるために、授業で何をどのように学ぶべきか」を目的に編成された科目です。卒業後に働くことを考えたとき何を大学時代に学んでおけばいいのか、深く考える仕組みを授業に取り入れています。

ILAC 科目1群(人文科学分野)

1群の科目は、文化全般をその研究対象とし、さらに、文化を創り出す人間とは何か、という研究課題をもっています。そのため、研究対象と講義内容は、多岐にわたります。

基本となるのは、「文学」「歴史」「哲学」の3分野といえます。文学では、日本の古典・近現代文学を始め、中国古典文学や西欧文学の講義を開講しています。哲学や歴史についても同様に、日本・東洋・西洋それぞれの専門の教員による講義が設置されており、さらに論理学・倫理学・言語学・文章論・宗教学・芸術なども含むさまざまな分野の教員による講座を開講しています。

以上の科目は「人文科学」と呼ばれ、古来教養の根幹をなす学問分野です。これらの科目を受講することを通して、幅広い知見を身につけるとともに、過去を学ぶことによって現在を考察し、さらには未来を展望する能力をつけることが狙いとなります。

ILAC 科目2群(社会科学分野)

2群の開講科目は、「法学」「政治学」「経済学」「社会学」「心理学」「地理学」「文化人類学」「社会思想」の8分野です。

これらの科目は、いずれも、人間社会のさまざまな側面を、それぞれ独自の視角や方法によって分析・検討するものです。各科目では、それぞれの分野の基本的な知識や視点を学ぶことで、人間社会のさまざまな現象を理解するための基礎的な教養と知見を身につけます。それと同時に、特にリベラルアーツ科目を通じてそれぞれの分野が築き上げてきた理論や手法を学ぶことで、専門的・発展的な問いを考えていくための思考力・洞察力を養います。

学生のみなさんには、それぞれの科目を通じて、自分がそのなかの一員である社会について理解を深めて、人間社会のさまざまな現象や問題について考える基礎としてほしいと思います。

ILAC 科目3群(自然科学分野)

3群は、さまざまな自然科学の授業によって構成されています。

基盤科目では、自然科学の学習に必要な基礎的知識を習得します。リベラルアーツ科目では、さまざまなテーマを発展的に学習します。さらに、専門科目である総合科目(※)や教養ゼミ(※)を通して、それらのテーマをより深く探求できるようなカリキュラム構成となっています。

基盤科目は、「教養数学」「基礎数学」「入門物理学」「入門化学」「入門生物学」「天文学」「科学史」および「サイエンス・ラボ」からなる選択必修科目です。いずれも、文科系の初学者にもわかりやすく学ぶことができるよう工夫されています。

リベラルアーツ科目は、「数学特講」「発展数学」「教養物理学」「教養化学」および「教養生物学」からなる選択必修科目です。各自の興味に合わせて発展的な学習を行ってください。

なお、基礎数学および発展数学は順次性のある科目です。Ⅰ→Ⅱの順に履修することが望めます。

3群の履修を通して、学生の皆さんが自然科学そのものに興味を持つだけでなく、自然科学を通じたものの見方を習得し、各自の専門分野における学習・研究に役立てることが期待されています。

ILAC 科目4群(外国語科目)

4群には英語と諸外国語[ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語]があります(入学前に選択)。

- ★受講定員のある科目:春学期1回目の授業に出席し、担当教員の受講許可を得てください。選抜を行う場合、方法は教員が指示します。許可された学生のみ履修登録できます。
- ★春学期のみ、秋学期のみ履修を希望する場合も、必ず春学期の1回目の授業で教員にその旨を申し出て、受講の許可を受けてください。
選抜結果は市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB 掲示板で発表します。

<英語>

ILAC 科目の「英語」では、高校までに身につけた運用能力をさらに伸ばすとともに、世界の多様な文化に対する理解を深め、批判的思考能力を涵養します。

<諸外国語>

「諸外国語」は、それぞれの言語を学びながら、その言語が用いられている地域の歴史・文化・生活に接し、理解を深めることを目的に開講されています。

外国語科目は、必修諸外国語(1・2年次)、選択外国語(2年次以上)、さらにリベラルアーツ科目と総合科目(※)から構成されています。

必修諸外国語では、大学で新しく出会う外国語の基礎を1年次に学び、その基礎力を用いて2年次にさらなる学習を続けます。また、学び始めた外国語の能力をより高めたい場合には、選択外国語科目として各言語それぞれに「〇〇語コミュニケーション」「〇〇語視聴覚」「時事〇〇語」などバラエティ豊かな科目が設置され、さまざまなアプローチから外国語に接し、語学力の修得とともに生きた外国語の世界に触れながら4年次まで学習を続けることができます。

リベラルアーツ科目には、1年次から履修できる「〇〇語の世界 L」という入門のための科目があります。2年次から履修できる「〇〇の文化と社会 L」では、その言語が話される地域の文化や生活を広く深く学ぶことができます。

総合科目(※)では、それまでに学習した外国語の能力を十分に生かしつつ、より高度で専門的な内容を学んでいきます。また、英語と諸外国語を一つ学んだのちに、さらにもう一つの外国語の世界に触れてみたいと思うグローバルな関心を抱く学生のために「第三外国語としての〇〇語」という科目があります。

このように、法政大学では、とても多彩な外国語の世界がみなさんを待っています。

なお、選択外国語科目のテキストは、担当教員より受講が許可されてから購入してください。

ILAC 科目5群(保健体育分野)

卒業のためには、スポーツ総合演習、スポーツ総合演習S、健康の科学LA、健康の科学LBのうちいずれか2単位を修得することが必須となります。RSPの学生は、原則、スポーツ総合演習を履修します。

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週1回半期型、②自由に選択履修できる集中型、③自由に選択履修できる週1回半期型の3つの形式で開講されています(RSP以外の学生は、1年次に必修科目として履修します)。

①と③は週1回、半期にわたって開講されますが、②は夏季休暇期間中に4日間の集中授業として市ヶ谷キャンパスで開講されます。

①は原則学部・学科・所属クラスを単位として履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。RSP対象のクラスは、秋学期月曜6時限です。②は①を必修として履修した場合に選択科目としても履修可能、③はいずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイ

4. ILAC(アイラック)科目の履修(RSP)

ダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、学部ガイダンスの際に説明します。また、2年次以降にも選択科目の内容を深めた5群科目も用意されています。

(4) 公開科目(市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目)について

授業内容は、WEB シラバスを確認してください。公開科目のうち、人間環境学部生のみ履修な科目もあります。積極的に履修してください。

(※) 総合科目・・・人間環境学部生は、2年次以上で他学部公開科目として履修します。

4.5 ILAC (アイラック) 科目一覧 ★RSP用★

群	科目配置	必修選択	授業科目	単位	年次	備考
0群	基盤	選択	キャリアデザイン入門	2	1	
			キャリアデザイン応用	2	1~4	
	リベラル	選択	大学を知ろう <法政学>への招待	2	1~4	
			法政学の探究LA	2	1~4	
1群	基盤	選択必修	法政学の探究LB	2	1~4	
			日本古典文学A/B	各2	1~4	
			日本近・現代文学A/B	各2	1~4	
			日本文学A/B	各2	1~4	
			外国文学A/B	各2	1~4	
			文章論	2	1~4	定員制
			言語学A/B	各2	1~4	定員制
			哲学 I / II	各2	1~4	
			倫理学 I / II	各2	1~4	
			論理学 I / II	各2	1~4	
			東洋史 I / II	各2	1~4	
			西洋史 I / II	各2	1~4	
			日本史 I / II	各2	1~4	
			宗教論 I / II	各2	1~4	
	芸術A/B	各2	1~4			
	リベラル	選択必修	日本文学と文化LA/LB	各2	1~4	
			日本文学と文化LC/LD	各2	1~4	
			日本文学と文化LE/LF	各2	1~4	
			日本文学と文化LG/LH	各2	1~4	
			外国文学と文化LA/LB	各2	1~4	
			外国文学と文化LC/LD	各2	1~4	
			外国文学と文化LE/LF	各2	1~4	
			文学と社会LA/LB	各2	1~4	2019年度休講
			文学と社会LC/LD	各2	1~4	
			文学と社会LE/LF	各2	1~4	
			音声学L	2	1~4	定員制
			哲学L I / L II	各2	1~4	
			倫理学L I / L II	各2	1~4	
			論理学L I / L II	各2	1~4	
			東洋史L I / L II	各2	1~4	
			西洋史LA/LB	各2	1~4	
			日本史L I / L II	各2	1~4	
宗教論L I / L II			各2	1~4		
2群	基盤	選択必修	法学 I / II	各2	1~4	
			法学(日本国憲法)	2	1~4	
			経済学 I / II	各2	1~4	
			心理学 I / II	各2	1~4	
			地理学 I / II	各2	1~4	
			政治学 I / II	各2	1~4	
			社会学 I / II	各2	1~4	
	リベラル		文化人類学	2	1~4	
			社会思想 I / II	各2	1~4	
			経済学LA/LB	各2	1~4	
			心理学LA/LB	各2	1~4	
			地理学LA/LB	各2	1~4	
			地理学LC/LD	各2	1~4	
			政治学LA/LB	各2	1~4	
社会学LA/LB	各2	2~4				
社会学LC/LD	各2	1~4				
文化人類学L	2	1~4				
社会思想LA/LB	各2	1~4				
3群	基盤	選択必修	教養数学A/B	各2	1~4	
			基礎数学 I / II	各2	2~4	
			入門物理学A/B	各2	1~4	
			入門生物学A/B	各2	1~4	
			入門化学A/B	各2	1~4	
			サイエンス・ラボA/B	各2	1~4	定員:25名
			天文学A/B	各2	1~4	
	科学史A/B		各2	1~4		
	リベラル		数学特講LA/LB	各2	1~4	2019年度休講
			発展数学L I / L II	各2	2~4	
			教養物理学LA/LB	各2	2~4	
			教養生物学LA/LB	各2	1~4	
			教養生物学LC/LD	各2	1~4	
			教養生物学LE/LF	各2	1~4	2019年度休講
教養化学LA		2	1~4			
教養化学LB	2	1~4				
5群	基盤	選択必修	スポーツ総合演習	2	1	
	リベラル		スポーツ総合演習S	2	1~4	
	リベラル		健康の科学LA/LB	各2	1~4	定員制

群	科目配置	必修選択	授 業 科 目	単 位	年 次	備 考	
4群	リベラル	選択	ドイツの文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員:30名	
			ドイツ語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名	
			フランスの文化と社会LA/LB	各2	1~4	定員:30名	
			フランス語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:40名	
			フランス生活文化論LA/LB	各2	1~4	定員:40名	
			ロシアの文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員制	
			ロシア語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名	
			中国の文化と社会LA、LC/LB、LD	各2	2~4	定員:60名	
			中国語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名	
			スペイン語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:40名	
			朝鮮の文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員:30名	
			日本の文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員:30名	
			日本語の世界LA/LB	各2	2~4	定員:30名	
	外国語科目	英語	必修	English1- I / II	各1	1	
				English2- I / II	各1	1	
			選択必修	Oral Communication I / II	各1	2~4	
				English through Movies and Drama I / II	各1	2~4	
				TOEIC (R) I / II	各1	2~4	
				英語検定試験対策 I / II	各1	2~4	2019年度新規開講科目
		Business Communication I / II		各1	2~4		
		ニュース英語 I / II	各1	2~4	2019年度新規開講科目		
		ドイツ語	必修	ドイツ語1- I / II	各1	1	
				ドイツ語2- I / II	各1	1	
				ドイツ語3- I / II	各1	2	
			選択	ドイツ語表現法 I / II	各1	2~4	定員:20名
				検定ドイツ語 I / II	各1	2~4	定員:30名
				ドイツ語コミュニケーション I / II	各1	2~4	定員:20名
		ドイツ語視聴覚 I / II	各1	2~4	定員:30名		
		時事ドイツ語 I / II	各1	2~4	定員:30名		
		フランス語	必修	フランス語1- I / II	各1	1	
				フランス語2- I / II	各1	1	
				フランス語3- I / II	各1	2	
			選択	フランス語視聴覚(入門) I / II	各1	1~4	定員:30名
				フランス語視聴覚(初・中級) I / II	各1	2~4	定員:30名
				フランス語コミュニケーション(初級) I / II	各1	1~4	定員:30名
				時事フランス語 I / II	各1	1~4	定員:30名
				検定フランス語(初級) I / II	各1	1~4	定員:30名
		情報フランス語 I / II	各1	2~4	定員:30名/2019年度休講		
		ロシア語	必修	ロシア語1- I / II	各1	1	
				ロシア語2- I / II	各1	1	
	ロシア語3- I / II			各1	2		
	中国語	必修	中国語1- I / II	各1	1		
			中国語2- I / II	各1	1		
中国語3- I / II			各1	2			
選択		中国語視聴覚初級 I / II	各1	2~4	定員:35名		
		中国語作文初級 I / II	各1	2~4	定員:15名		
		中国語コミュニケーション基礎 I / II	各1	1~4	定員:20名		
中国語コミュニケーション初級 I / II	各1	2~4	定員:20名				
資格中国語初級 I / II	各1	2~4	定員:40名				
スペイン語	必修	スペイン語1- I / II	各1	1			
		スペイン語2- I / II	各1	1			
		スペイン語3- I / II	各1	2			
	選択	時事スペイン語 I / II	各1	2~4	定員:30名		
スペイン語コミュニケーション I / II	各1	2~4	定員:30名				
朝鮮語	必修	朝鮮語1- I / II	各1	1			
		朝鮮語2- I / II	各1	1			
		朝鮮語3- I / II	各1	2			
	選択必修	朝鮮語3C- I / II (コミュニケーション)	各1	2~4	定員:30名		
		朝鮮語4B- I / II (視聴覚)	各1	2~4	定員:30名		
	選択	朝鮮語5A- I / II (講読)	各1	3~4	定員:30名		
朝鮮語5B- I / II (表現法)	各1	3~4	定員:30名				

科目配置の「基盤」は基盤科目を、「リベラル」はリベラルアーツ科目を指します。

5 専門科目の履修

5.1 新設・履修上の注意・休講・廃止科目等について

以下、すべて2単位です。履修年次は学部-(109～113)専門科目およびコース関連科目表を参照してください。

5.1.1 2019年度新設科目

人間環境特論（健康×まちづくり＝スマート・ウェルネス・シテイの挑戦）
 人間環境特論（市民参加×まちづくり～地域コンサルティングの現場から）
 人間環境特論（都市政策への挑戦～湘南からのメッセージ～）
 人間環境特論（社会学理論と現代社会）
 人間環境特論（ジェンダーと家族の社会学）
 人間環境特論（地域資源社会論）
 プログラム修了論文 ※RSPのみ履修可能
 Global Society 1
 Global Society 2

5.1.2 履修上の注意

表の右側の「旧科目名」の単位をすでに修得している場合は、左側の新名称の科目を履修することはできません。なお、「旧科目名」での開講はありません。

2012年度からの新科目名	2011年度までの旧科目名
国際環境法	国際環境法Ⅰ
比較環境法	国際環境法Ⅱ
地方自治論	地方自治論Ⅰ
自治体環境政策論Ⅰ	地方自治論Ⅱ
国際環境政策Ⅰ	国際環境政策
都市環境論Ⅰ・Ⅱ	都市環境論
ファシリテーション論	人間環境特論(ファシリテーションの基礎)
比較演劇論Ⅰ・Ⅱ	比較演劇論
ヨーロッパ環境史論Ⅰ	人間環境特論(ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ)
ヨーロッパ環境史論Ⅱ	人間環境特論(ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ)
日本美術史論	日本美術の系譜
環境科学Ⅲ	人間環境特論(天然資源の科学)
大気と社会Ⅰ	人間環境特論(気流と社会環境Ⅰ)
大気と社会Ⅱ	人間環境特論(気流と社会環境Ⅱ)
自然環境政策論Ⅰ	自然環境政策論
環境社会論Ⅲ	人間環境特論(環境と地域の持続性を考える)
廃棄物・リサイクル論	リサイクル論
食と農の環境学Ⅱ	人間環境特論(農と食から考える現代社会)
統計とデータ分析	統計概論

2013年度からの新科目名	2011年度までの旧科目名
環境表象論 I	環境表象論

2015年度からの新科目名	2014年度までの旧科目名
人間環境セミナー	人間環境セミナー I
人間環境セミナー	人間環境セミナー II

2016年度からの新科目名	2015年度までの旧科目名
サイエンスカフェ I	自然環境科学の基礎 (化学)
サイエンスカフェ II	自然環境科学の基礎 (生物学)
サイエンスカフェ III	自然環境科学の基礎 (生態学)
サイエンスカフェ IV	自然環境科学の基礎 (物理学)
ローカルスタディーズ I	地域環境ケーススタディ I
ローカルスタディーズ II	地域環境ケーススタディ II
アーティストと社会貢献	人間環境特論 (アーティストと社会貢献)

2017年度からの新科目名	2016年度までの旧科目名
現代思想と人間 I	人間環境特論 (西洋社会思想史 I)
現代思想と人間 II	人間環境特論 (西洋社会思想史 II)

「人間環境セミナー」「人間環境セミナー I」「人間環境セミナー II」は重複履修できる科目のため、これらを修得済みでも「人間環境セミナー」を履修することは可能です。

5.1.3 2019年度休講科目

「テーマ別英語 2」「自治体環境政策論 I」「自治体環境政策論 II」「地域形成論」「仏教思想」「生命の現在と倫理」「Japanese Society and Sustainability 3」「Social Development and Sustainability 1」「Social Development and Sustainability 2」「Area Studies」「Co-creative Workshop B I」「Co-creative Workshop B II」

5.1.4 廃止科目

「インターンシップ」

5.2 専門科目の種類と履修上の注意

人間環境学部の専門科目はリテラシー科目と展開科目から構成されています(RSP は異なります)。

5.2.1 リテラシー科目

RSP 以外

学部の専門カリキュラムへの導入科目にあたり、1 年次全員必修の「フレッシュマン科目」と、語学や情報処理の技能を高めるための「スキルアップ科目」から成ります。

(1) フレッシュマン科目 (2012 年度以降入学者)

以下の、2 科目 4 単位を 2 年次までに修得していないと、3 年生に進級できません。

1) 「人間環境学への招待」

1 年次春学期必修科目(2 単位)です。水曜日 1 限と水曜日 2 限の 2 クラスに分かれます。指定されたクラスに出席してください。

皆さんが 4 年間学ぶ「人間環境学」という 21 世紀の新しい学びの内容と魅力について、オムニバス形式(多くの先生の講義を結びつないで構成する形)により紹介してゆきます。各回の担当者は、展開科目の 5 つの科目群(法律・政治、経済・経営、社会・地域、人文科学、自然科学)の各分野からバランスよく選ばれ、文理融合の学際的な例題によって、この学部のカリキュラムの特色「コース制」の意味も分かるよう構成されます。

2) 「基礎演習」

1 年次秋学期必修科目(2 単位)です。約 20 クラス開設されます。希望調査期間前に、受講の詳細について掲示等によりお知らせします。大学でアカデミックに学び、研究するための基礎的な心得やスキルを、演習を通じて身につける少人数クラスの授業です。

(2) スキルアップ科目

以下の中から、2 単位以上を、3 年次までに修得していないと 4 年生に進級できません。

英語科目として、ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目とは別に、「アクティブ語学」(「英語 I ~IV」)、「テーマ別英語」(「テーマ別英語 1~4」)、情報処理科目として、「情報処理基礎」「ネットワークとマルチメディア」「統計とデータ分析」が設けられています。

RSP

学部の専門カリキュラムへの導入科目から成ります。科目により、以下のとおり履修上の注意事項があるため確認の上、履修してください。

1) 「人間環境学への招待」

春学期の水曜日 1 限と水曜日 2 限の 2 クラスに分かれます。指定されたクラス(時間割表参照)に出席してください。

皆さんが 4 年間学ぶ「人間環境学」という 21 世紀の新しい学びの内容と魅力について、オムニバス形式(多くの先生の講義を結びつないで構成する形)により紹介してゆきます。各回の担当者は、展開科目の 5 つの科目群(法律・政治、経済・経営、社会・地域、人文科学、自然科学)の各分野からバランスよく選ばれ、文理融合の学際的な例題によって、この学部のカリキュラ

ムの特色「コース制」の意味も分かるよう構成されます。

2) 「基礎演習」

秋学期に約 20 クラス開設されます。希望調査期間前（春学期中）に、受講の詳細について掲示等によりお知らせします。大学でアカデミックに学び、研究するための基礎的な心得やスキルを、演習を通じて身につける少人数クラスの授業です。

5.2.2 展開科目

RSP 以外

上記「リテラシー科目」以外の専門科目を「展開科目」と呼んでいます。2013年度以前入学者には、それぞれの種類ごとに必要な単位数を設けていませんが、2014年度以降入学者は、卒業までに「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」「キャリアチャレンジ」から6単位以上修得する必要があります。さらに、2016年度以降入学者は、自身で選択したコースごとに、コース共通科目から10単位以上かつ、コースコア科目から20単位以上の修得が必要です（SSI生はコース共通科目8単位以上、コースコア科目12単位以上）。詳しくは、「7 コース制」を参照してください。

RSP

上記「リテラシー科目」以外の専門科目を「展開科目」と呼んでいます。卒業までに「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」「キャリアチャレンジ」から2単位以上修得する必要があります。

全 共通**(1) 5つの分野に関連する科目群**

5つの分野とは、法律・政治、経済・経営、社会・地域、人文科学、自然科学です。これらは20世紀までの学問の分野です。従来の学問領域による分類をしているのは、環境問題にとりくむためには、既存のさまざまな学問・専門分野の成果を結集し、枠を超えて融合させた知見や発想、協働が必要なことがよく分かるためです。言い換えれば、上記の5分野の特定の分野だけを偏って学習しても、本学部での学びとしては有効ではありません。皆さんは5分野の枠をこえてさまざまな授業をとっていくことになります。

5分野の科目群は、各入学年度のカリキュラム構成図ページの表の通り「基幹科目」「政策科目」に区分されます。「政策科目」は文字通り、持続可能な社会構築のための「環境政策」について考察する科目です。「政策」には、政府や自治体に限らず、企業・NPO・NGO・市民活動団体などの取り組みも含まれます。その「政策科目」を学ぼううえで、基礎的な知識や視点などを学べるように設けているのが「基幹科目」です。したがって、政策科目によっては、「この基幹科目をまず履修したうえで学ぶことが望ましい」という場合があります。履修の順序に制約はありませんが、シラバスや担当の先生の助言を参考に、履修計画を立てると有効です。

(2) 環境総合科目

前述の5分野のどこかに分類することが適さない、領域融合的な科目などです。

(3)人間環境セミナー

「人間環境セミナー」は、セメスターごとにテーマを設定して人間環境学の総合化を図り、また、企業、業界関係者、中央政府・地方政府(自治体)・その他、NPO/NGO、学識経験者、文化関係者など社会の第一線で活躍するさまざまな専門家を講師に招いて講義をしていただくものです。経験にもとづく知見をうかがうことで視野を広げることができます。

この科目は複数回の履修ができます。

2014年度以降入学者は、卒業までに「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」「キャリアチャレンジ」から6単位以上修得する必要があります。RSPの場合、「人間環境セミナー」は社会連携探求科目(選択必修2単位以上)になります。

過去に開催された人間環境セミナーのテーマは学部HPから確認することができます。

<http://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/gakka/jinkanseminar/index.html>



今後の予定については決定次第掲示します。開講曜日時限は通常、土曜日3限(春学期・秋学期ともに)と、平日いずれかの6限(秋学期のみ)となっています。計画的に履修してください。

(4) フィールドスタディ

「フィールドスタディ」（現地実習）は、講義や文献から学んだ事柄を直接現地に赴いて検証するために設けられています。私たちがおかれている社会環境や自然環境を肌で感じ、さまざまな体験を通じて自らの問題意識を高めていくことを目的としています。自然保護、まちづくり、農業、地域福祉、国際協力、エネルギーなど多様なコースを実施しています。各コースとも事前・事後学習、報告会などを行い、現地での学習をより実りあるものにしていきます。

在学中に 8 単位まで修得できます。1 セメスターに 2 つ以上のコースを履修すること、さらに、同一コースを 2 回履修することは、原則として出来ません。その年度の実施コースと募集内容は 4 月に掲示板でお知らせします。

2014 年度以降入学者は、卒業までに「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」「キャリアチャレンジ」から 6 単位以上修得する必要があります。RSP の場合、「フィールドスタディ」は社会連携探求科目（選択必修 2 単位以上）になります。

1) フィールドスタディの概要

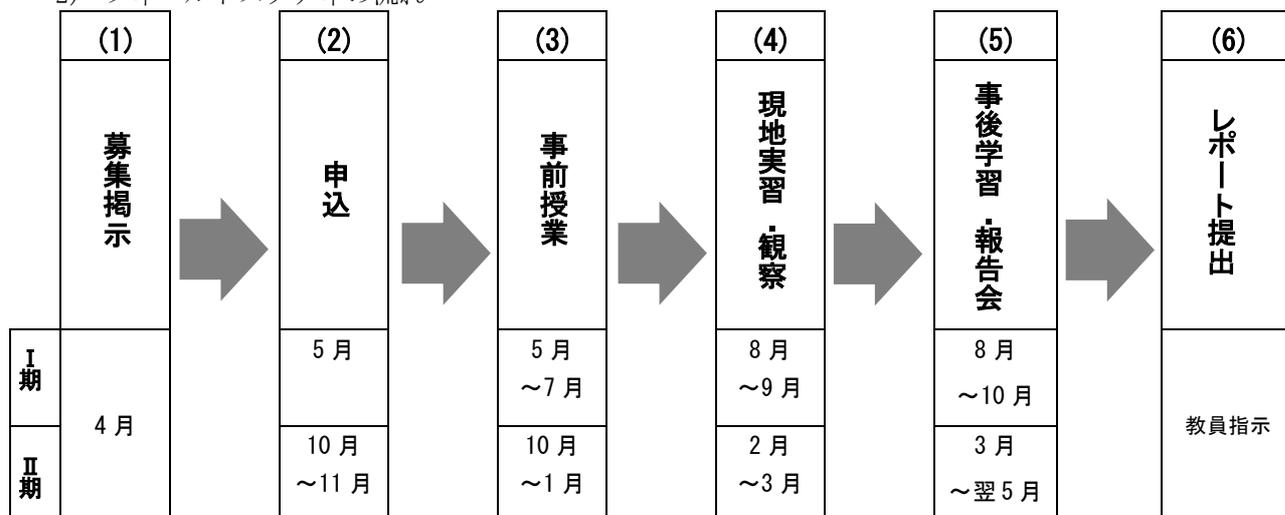
履修年次 1～4 年次

単 位 1 コース 2 単位で卒業までに 4 コース (8 単位) まで修得可能

開講時期 主に I 期 8 ～ 9 月 II 期 2 ～ 3 月

履修登録 I 期→当年度の秋学期 II 期→翌年度の春学期

2) フィールドスタディの流れ



3) 注意事項

単位の修得には事前授業・現地実習・観察、事後学習・報告会への参加のほか、履修登録期に在学をしている必要があります（休学等の場合単位は修得できません）。

(5) キャリアチャレンジ

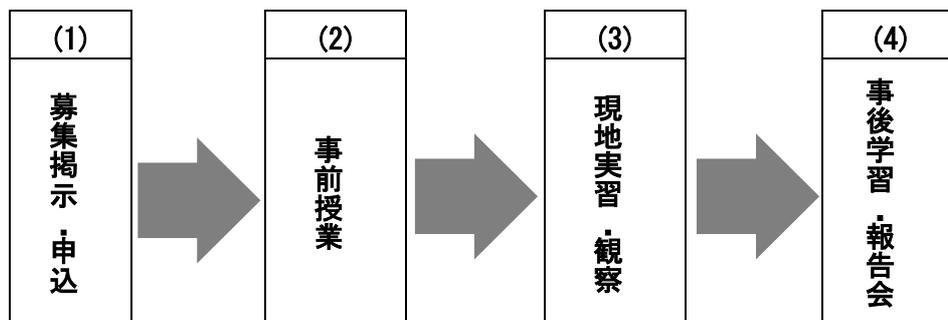
人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目です。自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。

「フィールドスタディ」は、原則として現地実習は4日（国内）ですが、「キャリアチャレンジ」の研修期間は、7日～14日（土日を含む）です。また「フィールドスタディ」は、原則として教員が引率しますが、本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏季休暇中と春季休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。対象学年は2年生以上ですが、受け入れ団体により対象学年が異なります（1年次の春季休暇中に現地実習が可能な場合もあります）。

また、自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から、「選択必修科目」（6単位）の対象科目になりました（選択必修科目対象者は2014年度以降入学生）。RSPの場合、「キャリアチャレンジ」は社会連携探求科目（選択必修2単位以上）になります。

1) キャリアチャレンジの流れ



募集と派遣時期は受け入れ先によって異なります。掲示をよく確認してぜひ積極的に参加してください。

2) 注意事項

単位の修得には事前授業・現地実習・観察、事後学習・報告会への参加のほか、履修登録期に在学をしている必要があります（休学等の場合単位は修得できません）。

(6) 研究会

いわゆるゼミナールで、担当教員の掲げるテーマや専門分野に応じて、少人数クラスで開講されます。参加は2年生から可能です。研究会A(通称Aゼミ)と研究会B(通称Bゼミ)の2種類があります。

募集・選考は前年度の秋学期に行われます。研究会は必修ではありませんが、「コース制(RSPを除く)」にもとづく学習・研究の要であり、自分の勉強の「居場所」になるといえる、教員や学友との交流の場です。募集に先立って行われるゼミ生主体の相談会や、募集期間のオープンゼミ(ゼミ見学者受け入れ)なども参考に、ぜひ積極的に参加してください。

タイプ	開講期間	備考
研究会 A (Aゼミ)	通年(4単位)	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として同じゼミで4年次まで継続履修する。 ・研究会によっては、4年次に研究会修了論文の作成を課す。(研究会修了論文は秋学期科目として2単位修得できる) ・2つ以上の研究会Aの重複履修は不可。 ・研究会Bとの重複受講については、担当教員の指示による。
研究会 B (Bゼミ)	ゼミにより異なる。 通年(4単位) 春学期のみ(2単位) 秋学期のみ(2単位)	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として年度毎に受講者を募集。連続受講は義務付けられていない。 ・半期の研究会Bの中には、資格試験対策や、語学のレベルアップを目的としたゼミもある。

(7) 研究会修了論文

「研究会修了論文」は、研究会Aを原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた卒業論文に該当します。履修の手順は以下のとおりです。

a) 履修対象者

「研究会A」の受講者のみ

b) 履修登録と指導教員

履修登録は4年次の秋学期に2単位の選択科目として履修登録することができます。指導教員は、学生が所属する研究会Aの担当教員です。

※履修登録をしないと、単位として認定することはできないので注意してください。

c) 研究会修了論文の要件

研究会修了論文の分量要件は400字×40枚以上(1万6000字以上で図表等を含む)です。様式は研究会Aの担当教員が指示しますが、必ず指定の表紙(学部窓口にて配付)をつけ、論文のタイトル、氏名、学生証番号、学年・クラス、指導教員名を明示してください。

d) 提出先と時期

研究会修了論文は指導教員に提出します。提出する時期については、研究会Aの授業において教員が指示します。おおよそ12月から1月の間で、研究会により提出する時期が異なります。

(8) コース修了論文：RSP 以外 **全**プログラム修了論文： **RSP**

研究会 A に所属していなくとも（研究会に全く所属していない方、研究会 B のみの方）が、専任教員の指導のもとで修了論文を書くことができる科目です。

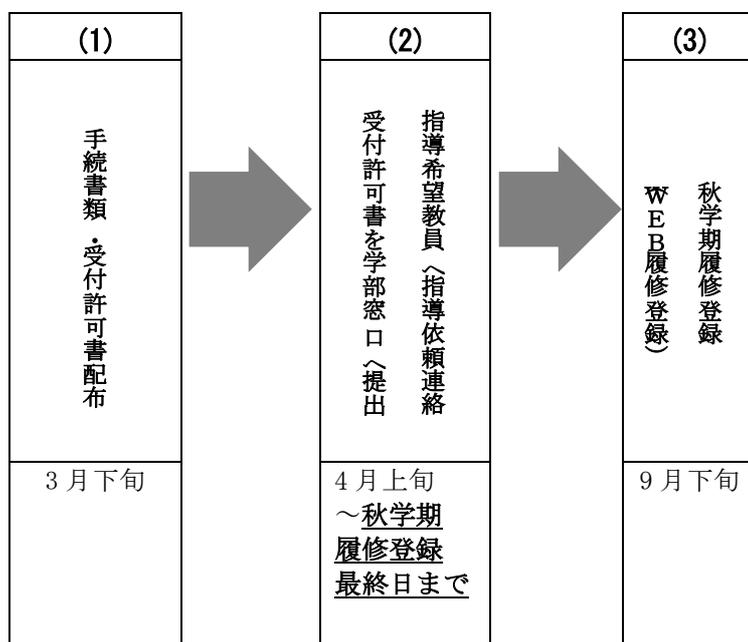
a) 対象

研究会 B のみに所属している 4 年生 または 研究会に所属していない 4 年生

b) 履修時期及び単位

4 年次秋学期 2 単位

c) 履修手続



※教員によっては、指導期間を長くとる場合があります。

※5 月末日までに指導希望教員へのアポイントメントを取ることを強く推奨します。

c) 論文の要件

400 字×40 枚以上（1 万 6000 字以上で図表等を含む）

(9) 人間環境特論

「人間環境学」に関連する世界の潮流をふまえて、アンテナショップ的に、1～2 年間臨時開設する科目です。環境問題は国内外で刻々と新しい動きがあり、新鮮なテーマにつねに敏感であることが、時代の要請に応えることになるのです。この科目は、サブタイトルが異なるものであれば複数回の履修ができます。ただし、一度単位を修得した同一サブタイトルの科目は、次年度以降に重複して履修登録はできません。

(10) SCOPE 科目

2016 年 9 月から人間環境学部に英語学位プログラム「SCOPE」(Sustainability Co-creation Programme) が開設されました。法政大学ではグローバルオープン科目や ERP (英語強化プログラム) など、英語で学ぶ科目がありますが、人間環境学部の学生のみ参加できる英語で学ぶ科目が SCOPE 科目です。

現在、SCOPE 科目には、Co-creative Workshop A I / A II / B I / B II、SCOPE Seminar、Field Workshop があります。修得上限は 12 単位までとなります。(RSP の場合は、SCOPE 科目が自由科目 (修得上限 30 単位)) になります。なお、これらの科目には一定程度の英語能力を前提としますので、履修の可否については事前に担当教員に相談をしてください。

(11) 自由科目

「他学部公開科目」「ERP 科目」「ESOP 科目」「グローバルオープン科目」「短期語学研修」「国際インターンシップ」「国際ボランティア」が該当します。卒業までに 20 単位を上限として修得可能です。RSP の場合、上記に「SCOPE 科目」を加えたうえで 30 単位を上限として修得可能です。なお、セメスター・年間の履修登録上限単位数の対象外となる科目もあります。

1) 他学部公開科目

受講資格は 2～4 年次生です。詳細は、Web 掲示板を参照してください。

2) ESOP 科目

1 年次～4 年次まで受講できます。海外から受け入れた交換留学生用の、日本という国に関わるテーマをとりあげた英語の講義・ゼミですが、留学生以外の学部学生も、このカリキュラムを受講することにより、年間 4 単位まで「自由科目」単位として認定されます。開講科目等、詳しくはグローバル教育センター事務部国際交流課 (窓口: 大内山校舎 2 階、E-mail: ic@hosei.ac.jp、電話番号: 03-3264-9402) に問い合わせてください。

3) ERP 科目

1 年次～4 年次まで受講できます。英語による少人数 (10 名～20 名)・双方向授業を授業形態として実施されている、英語 4 技能 (listening、speaking、reading、writing) の養成とその統合を目的とした授業です。卒業所要単位として単位修得することを希望する場合、履修登録時に窓口にて申請すると自由科目として履修できます。開講科目等、詳しくはグローバル教育センター事務部グローバルラーニング課 (窓口: 大内山校舎 2 階、E-mail: global@hosei.ac.jp、電話番号: 03-3264-4088) に問い合わせてください。

※市ヶ谷リベラルアーツセンター主催グローバルオープン科目の単位を修得した場合、2017 年度以降入学者は「ILAC 科目」、2016 年度以前入学者は「市ヶ谷基礎科目」として認定されます。

6 SAプログラム

6.1 目的

人間環境学部スタディ・アブロードプログラム（以下、SAプログラム）は、海外で約15週間の英語の集中的な学習を実施することによって英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、さまざまな国からの留学生との交流やホームステイなどの日常生活体験を通じて異文化理解を深めることを目的とします。

6.2 対象年次

対象は派遣時2～4年次学生です。選考は派遣の前年度に行います。

6.3 派遣先大学および期間

派遣先は、オーストラリア（クイーンズランド州ゴールド・コースト）にあるボンド大学の付属英語研修機関（Bond University College: BUC）です。派遣期間は、8月下旬～12月の約15週間を予定しています。

6.4 選考方法

SAプログラムでは、外部英語試験（TOEFL®-iBT、TOEFL®-ITP Level 1、IELTS®、TOEIC®のいずれかの試験）の受験結果、小論文（志望動機など）、成績（GPA）および面接による選考を派遣時の前年度秋学期に行います。（2018年度以前入学者が1年次が全員受験したTOEFL®-ITP Level 2の結果は利用不可）。

6.5 単位認定

派遣先で修得した科目は、派遣後に実施される人間環境学部教授会がその内容・授業時間を勘案のうえ、「スタディ・アブロードⅠ～Ⅷ（各2単位）」として単位認定を行います。

単位認定数の上限は16単位です。認定された場合は、RS評価となります。ただし、派遣先でのカリキュラムや履修指導などの状況や本人の成績修得状況などによって認定が行われるので、認定単位数が上限に達しない場合もあります。

6.6 派遣事前・事後授業

派遣予定者は、SA実施年度春学期までに履修していなければならない授業科目が設定されています。また、帰国後は、事後授業を実施する予定です。

6.7 留学費用

SAプログラムの留学にかかわる費用はすべて個人負担です。派遣先大学へ支払う授業料、宿泊費、生活費、渡航費用、保険料などが必要となります。これらの留学費用は為替レートの変動の影響を受けません。また、法政大学への授業料は通常通り必要です。

6.8 奨学金

本プログラムの派遣者を対象に、SA費用総額の30%程度が奨学金として支給される予定です。

6.9 履修登録上の注意

- (1) SAプログラムに参加した場合、2年次秋学期の必修外国語、3-II（4-II、5-II）については、SA派遣期間と重なるため、翌年度に履修します。詳細はSAガイダンス時に別途お知らせします。
- (2) SAプログラムに参加した場合、派遣年度に行われるフィールドスタディおよびキャリアチャレンジの単位を修得することはできません。

[例：2019年度にSA派遣 ⇒ 2019年度I期・II期いずれも単位修得不可]

人間環境学部では履修を進めていく上でのガイドとなるよう「コース制」を設けています。**2016年度以降の入学者は、2年次から5つのコースのうち一つを選択し、コース共通科目（10単位以上）とコースコア科目（20単位以上）を履修することが求められます（SSI生はコース共通科目から8単位以上、コースコア科目から12単位以上）。**なお、2015年度以前に入学した学生は該当しませんが、コース共通科目とコースコア科目の配置をみて、自分自身の学習の方向性を明確にしてください。コース選択はあくまでも皆さんの自発的で自由な意思によって行うものとなっており、各コースの定員などは無く、登録に当たっての選抜試験などは行いません。

7.1 コース概要

(1)5つのコース

各コースとも定員はありません。各人は希望に従い以下のいずれかのコースに属します。

- 「サステイナブル経済・経営コース」
- 「ローカル・サステイナビリティコース」
- 「グローバル・サステイナビリティコース」
- 「人間文化コース」
- 「環境サイエンスコース」

(2)5つのコースの内容

各コースの内容と学習の方向性は以下のとおりです。

<サステイナブル経済・経営コース>

経済活動と環境保全が調和するグリーンエコノミーの担い手がもとめられる時代です。そこでこのコースでは、持続可能な市場経済に貢献する人材を育成します。経済理論、企業経営の理論と歴史、現代社会における企業の役割について基礎知識を身につけ、その上で、環境配慮型の市場経済と経済政策、先進的な企業の環境経営とCSR（企業の社会的責任）に関する動向に触れながら、企業やその他の事業主体が社会的責任を果たしていくためのマネジメントやビジネスモデル、さらにグリーンエコノミーを支える生活者の消費行動やライフスタイルなどについて探究します。

<ローカル・サステイナビリティコース>

ローカルなフィールド体験をベースに、持続可能な地域社会に貢献する実践的な知と構想力を有する人材を育成するコースです。現代のローカル・サステイナビリティに関するテーマは、廃棄物や公害、自然保護などの環境問題だけではなく、エネルギー、交通、都市計画、農林水産業、福祉など、都市と農山村の地域づくり全般に及び、またローカルな問題とグローバルな問題の関わりも重要です。そこでこのコースでは、これらのテーマについて最新のケースとともに学際的に探究し、さらに市民・自治体・NPO・企業など多様な主体の役割と協働について学び、将来の「グローバル人材」としての自分を展望します。

＜グローバル・サステナビリティコース＞

幅広い教養と広い視野を備え、国境を越えた思考で地球規模の持続可能な発展に貢献する「グローバル人材」を育成するコースです。国際社会の動向について基本的な知識を身につけながら、学際的な学びとグローバル体験を通して、気候変動（地球温暖化）や生物多様性、平和、貧困と開発など、グローバル・サステナビリティに関わる多様なテーマについて探究します。また、地球社会の行方を左右する新興国や途上国の発展と国際協力、先進国日本の役割、さらに政府・NGO などの市民社会・企業のパートナーシップのありかたについて学び、将来、自らが「グローバル人材」として活躍する場について考えます。

＜人間文化コース＞

人類が持続可能な社会に向かうためには、様々な針路と実践を模索し選択していかなければなりません。その根幹は、数字では表すことができない価値観、幸福感や死生観といった「人間の意思」です。そこでこのコースでは、「持続可能でローカルな共創社会」に貢献する「市民」にふさわしい知性と感性を備えた人材を育成します。思想・哲学、歴史学、文学・芸術、民俗学、人類学など人文科学をベースにして人間の軌跡と生きる意味を見つめ直し、さらに学際的な学びを通して、将来の人間や文化（衣食住、技術、学問、芸術、道徳、宗教、政治などの生活形成の様式と内容の総体）の行方について探究します。

＜環境サイエンスコース＞

サイエンス・マインドを持って持続可能な社会に貢献できる文系の人材を育成するコースです。環境問題の解決のためには、自然環境、災害などの解明や人類に影響を与える科学技術を開発する役割を担う自然科学の専門家、さらに市民をはじめとする利害関係者と対話しながら、多様な利害を調整し、対策について総合的な判断やコンサルティングができる人材が必要です。そこでこのコースでは、社会科学や人文科学とともに、自然－人間－社会のつながりに関する生態学的な思考など、自然科学の基礎教養を通してサイエンス・マインドを身につけ、科学・科学技術と経済・社会・政策の関係性についても探究します。

(3) 「研究会」や講義との関係

とくに研究会 A は特定の関連コースを明示し、コース制指導の要となる場ですから、自分が特に関心が深いコースを示している研究会を参加候補とする、あるいは逆に、自分が最も入りたい研究会と関連するコースを自分の選択コースとする、といった発想が有効です。

なお、人数制限のある授業やフィールドスタディなどは、所属コースを受講者選抜の参考にする場合があります。

(4) コースの登録

新2年生は、毎年1年次の12月からコースの登録を行います。詳細は揭示版で確認してください。

1) 研究会 A に参加することが確定している場合

所属する研究会 A の担当教員が示すコースを登録してください(複数示されている場合は、自分で1つ選んで登録)。

2) 研究会 B に参加することが確定している場合

自分の選びたいコースが、研究会 B が示すコースと一致していなくとも構いません。関心の深いコースを自分で1つ選んで登録してください。

3) 研究会に参加しない場合

2)の場合同様、関心の深いコースを自分で1つ選んで登録してください。

4) コースの変更

3年次進級時に限り、コース変更が可能です（登録変更申請は、2年次の12月になります）。ただし、コース変更により卒業要件にかかるコースコア科目が変更となりますので、注意してください。なお、4年次進級時のコース変更はいかなる場合も出来ません。

(5) 5つのコースの関連科目

学部-(109)に示す「専門科目およびコース関連科目表」を皆さんの履修計画に活用してください。また専門的領域を持ち、勉学を深めるために、積極的に教員のアドバイスを求めてください。

(6) コースをこえた学習上の創意工夫

コースに関連した科目区分は3つに大別されます。コース共通科目（☆印）は、コースに関係なく履修してほしい科目で10単位以上（SSI生は8単位以上）、修得する必要があります。また、コースコア科目（◎印）は各自が選択し所属したコースの中で重要な科目であり、20単位以上（SSIは12単位以上）の修得が必要です。コース共通科目とコースコア科目だけを履修することで卒業所要単位を揃えることも不可能ではありませんが、自分が所属するコースをこえた学習をするために、コース連環科目（*印）も履修することが望ましいといえます。例えば、自分のメインの専門領域として1つのコースに登録してコースコア科目を集中的に学習しながら、サブの専門領域として別のコースのコア科目であるコース連環科目を履修すると、2つの専門領域を学ぶことができます。一方で、コース共通科目やコースコア科目を履修しながらも、幅広くコース連環科目を履修することで、学際的な学習をすることも可能です。

7.2 カリキュラムツリー・マップおよびナンバリング

(1) 履修のモデル

カリキュラムツリーは、学部で開設している科目の関連を視覚的に表したものです。また、カリキュラムマップは、それぞれの科目が、ディプロマポリシーとどのような関連があるかを示したものです。これらを履修の参考、モデルとして活用してください。皆さんが興味を持っている具体的なテーマと、カリキュラムとの関係については、教員から直接アドバイスを受けてみてください。

<http://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/gakka/e-system/index.html>



(2) ナンバリングとは

「ナンバリング」は、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するための仕組みです。

本学では本学で開講するすべての科目に8（または9）ケタのナンバリング（共通フォーマット）が振られています。なお、学部によってはさらに詳細な番号を枝番として振っている場合もあります。

(3) 「共通フォーマット」ナンバリング付番ルールについて

本学のナンバリング（共通フォーマット部分）は以下のルールにより付番されています。

- ・ナンバリング（共通フォーマット部分）の構造（9ケタ 小分類がない場合は8ケタ）

A B C a	1	0 0	D E
↓	↓	↓	↓
①	②	③	④
分野	レベル		科目主催
なお、4桁目（小文字） は、小分類がある場合に 使用する	なお、2・3桁目③は 必要に応じて科目識 別のための連番とし て使用する		

https://syllabus.hosei.ac.jp/web/contents/about_numbering2019.pdf



7.3 専門科目およびコース関連科目表

専門科目とコース制がどのように関連しているかを示した表です。

リテラシー科目はコース関連科目対象外です。

◎：コースコア科目（コースに直接的に関連する科目）

☆：コース共通科目（全コースのベースとなる科目、または各コースの共通科目のみを明示）

*：コース連環科目（コースに間接的に関連し、登録コースの学びをより発展させる科目）

コース関連科目表

		科目名	ナンバリング	単位	配当年次	
リテラシー科目	フレッシュマン科目	人間環境学への招待	BSP100HA	2	1	
		基礎演習	BSP100HA	2	1	
	スキルアップ科目	情報処理	情報処理基礎	COT100HA	2	1～4
			ネットワークとマルチメディア	COT100HA	2	1～4
			統計とデータ分析	PRI100HA	2	1～4
			英語 I (初級会話)	LIN100HA	1	1～4
	スキルアップ科目	アットタイプ語学	英語 II (中級会話)	LIN100HA	1	1～4
			英語 III (上級会話)	LIN100HA	1	1～4
			英語 IV (ビジネス会話)	LIN100HA	1	1～4
			テーマ別英語1	LIN100HA	1	1～4
		テーマ別英語	テーマ別英語2	LIN100HA	1	1～4
			テーマ別英語3	LIN100HA	1	1～4
			テーマ別英語4	LIN100HA	1	1～4

		科目名	ナンバリング	単位	配当年次	コース種別					
						サステイナブル 経済・経営	ローカル・ サステイナビリティ	グローバル・ サステイナビリティ	人間 文化	環境 サイエンス	
展開科目	法律	憲法の基礎	LAW200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
		刑法の基礎	LAW200HA	2	1～4	◎	◎	*	*	*	
		行政法の基礎 (2018年度より廃止)	-	2	1～4	◎	◎	*	*	*	
		行政法 I	LAW200HA	2	1～4	◎	◎	*	*	*	
		行政法 II	LAW200HA	2	1～4	◎	◎	*	*	*	
		アメリカ法の基礎	LAW200HA	2	2～4	◎	*	◎	*	*	
		民事法 I	LAW200HA	2	1～4	◎	◎	*	*	*	
		民事法 II	LAW200HA	2	1～4	◎	◎	*	*	*	
		国際法 I	LAW200HA	2	2～4	*	*	◎	*	*	
		国際法 II	LAW200HA	2	2～4	*	*	◎	*	*	
		市民社会と政治	POL200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
		行政学	POL200HA	4	2～4	*	◎	*	*	*	
		地方自治論	POL200HA	2	1～4	*	◎	*	*	*	
		国際関係論	POL100HA	2	1～4	*	*	◎	*	◎	
		平和学	POL200HA	2	2～4	*	*	◎	◎	*	
	政治関連	基礎科目	環境法 I	LAW300HA	2	2～4	◎	◎	*	*	*
			環境法 II	LAW300HA	2	2～4	◎	◎	*	*	*
			環境法 III	LAW300HA	2	2～4	◎	◎	*	*	*
			環境法 IV	LAW300HA	2	2～4	◎	◎	*	*	*
			日本公害史と法 (2018年度より廃止)	-	2	2～4	☆	☆	☆	☆	☆
		政策科目	労働環境法	LAW300HA	2	2～4	◎	*	*	*	*
			国際環境法	LAW200HA	2	2～4	*	*	◎	*	*
			比較環境法 (2018年度より廃止)	-	2	2～4	*	◎	◎	*	*
			アメリカ環境法	LAW300HA	2	2～4	◎	*	◎	*	*
			自治体環境政策論 I	POL300HA	2	2～4	*	◎	*	*	*
			自治体環境政策論 II	POL300HA	2	2～4	*	◎	*	*	*
			地球環境政治論	POL300HA	2	2～4	*	*	◎	*	◎
			地域協力・統合	ARSa400GA	2	2～4	*	*	◎	*	*
			エネルギー政策論	POL300HA	2	2～4	☆	☆	☆	☆	☆
			人間の安全保障	POL300HA	2	2～4	*	*	◎	*	*

	科目名	ナンバリング	単位	配当 年次	コース種別						
					サステイナブル 経済・経営	ローカル・ サステイナビリティ	グローバル・ サステイナビリティ	人間 文化	環境 サイエンス		
展開科目 ・ 経営関連	基幹科目	ミクロ経済学Ⅰ	ECN200HA	2	1～4	◎	*	*	*	*	
		ミクロ経済学Ⅱ	ECN200HA	2	1～4	◎	*	*	*	*	
		マクロ経済学Ⅰ	ECN200HA	2	1～4	◎	*	*	*	*	
		マクロ経済学Ⅱ	ECN200HA	2	1～4	◎	*	*	*	*	
		公共経済学	ECN200HA	2	2～4	◎	*	*	*	*	
		現代企業論	MAN200HA	2	1～4	◎	*	*	*	*	
		ビジネスストーリー	MAN200HA	2	1～4	◎	*	*	*	*	
		経営学入門	MAN200HA	2	1～4	◎	*	*	*	*	
		環境経営と会計	MAN200HA	2	1～4	◎	*	*	*	*	
		簿記入門Ⅰ・Ⅱ	MAN100FA	4	2～4	◎	*	*	*	*	
		簿記入門Ⅰ、簿記入門Ⅱ	MAN100FA	各2							
		経営科目	環境経済論Ⅰ	ECN300HA	2	2～4	◎	*	*	*	*
			環境経済論Ⅱ	ECN300HA	2	2～4	◎	*	*	*	*
	環境経営論Ⅰ		MAN300HA	2	2～4	◎	*	*	*	*	
	環境経営論Ⅱ		MAN300HA	2	2～4	◎	*	*	*	*	
	環境経営実践論Ⅰ (2018年度より廃止)		-	2	1～4	◎	*	*	*	*	
	環境経営実践論Ⅱ (2018年度より廃止)		-	2	1～4	◎	*	*	*	*	
	CSR論Ⅰ		MAN300HA	2	2～4	◎	*	◎	*	◎	
	CSR論Ⅱ		MAN300HA	2	2～4	◎	*	◎	*	◎	
	環境ビジネス論		MAN300HA	2	2～4	◎	*	*	*	*	
	国際環境政策Ⅰ		ECN300HA	2	2～4	◎	*	◎	*	◎	
	国際環境政策Ⅱ	ECN300HA	2	2～4	◎	*	◎	*	◎		
	途上国経済論Ⅰ	ECN300HA	2	1～4	◎	*	◎	*	*		
途上国経済論Ⅱ	ECN300HA	2	1～4	◎	*	◎	*	*			
国際経済協力論Ⅰ	ECN300HA	2	1～4	◎	*	◎	*	*			
国際経済協力論Ⅱ	ECN300HA	2	1～4	◎	*	◎	*	*			

	科目名	ナンバリング	単位	配当 年次	コース種別						
					サステイナブル 経済・経営	ローカル・ サステイナビリティ	グローバル・ サステイナビリティ	人間 文化	環境 サイエンス		
展開科目	基幹科目	現代社会論Ⅰ	SOC200HA	2	1~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		現代社会論Ⅱ	SOC200HA	2	1~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		現代社会論Ⅲ	SOC200HA	2	1~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		NP0・ボランティア論	SOC200HA	2	1~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		社会統計論	SOC200HA	2	2~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		フィールド調査論	SOC200HA	2	1~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		ファシリテーション論	SOC200HA	2	1~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		グローバル・コミュニケーション	SOC200HA	2	1~4	☆	☆	☆	☆	☆	
	社会・ 地域関連	政策科目	地域形成論	ADE300HA	2	1~4	*	◎	*	◎	*
			地域経済論	ECN300HA	2	2~4	◎	◎	*	*	*
			地域福祉論	SOC300HA	2	2~4	*	◎	*	◎	*
			地域コモンズ論	SOC300HA	2	2~4	*	◎	*	◎	*
			都市環境論Ⅰ	ADE300HA	2	2~4	*	◎	*	*	*
			都市環境論Ⅱ	ADE300HA	2	2~4	*	◎	*	*	*
			都市デザイン論	ADE300HA	2	2~4	*	◎	*	◎	*
			環境社会論Ⅰ	SOC300HA	2	2~4	*	◎	*	*	*
		環境社会論Ⅱ	SOC300HA	2	2~4	*	◎	*	*	*	
		環境社会論Ⅲ	SOC300HA	2	2~4	*	◎	*	*	*	
		労働環境論Ⅰ	SOC300HA	2	2~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		労働環境論Ⅱ	SOC300HA	2	2~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		労働環境論Ⅲ (2018年度より廃止)	-	2	2~4	☆	☆	☆	☆	☆	
		NGO活動論	SOC300HA	2	2~4	*	*	◎	*	*	
		人文科学関連	基幹科目	文化経営論	EDU200MA	2	2~4	*	*	*	◎
	災害政策論			SSS300HA	2	2~4	*	◎	*	*	*
	科学技術社会論			SHS300HA	2	2~4	☆	☆	☆	☆	☆
	社会開発論			SOC300HA	2	2~4	*	*	◎	*	*
	グローバルコミュニティ (2017年度より廃止)			-	2	2~4	☆	☆	☆	☆	☆
	開発教育			SOC200MA	2	2~4	☆	☆	☆	☆	☆
	アーティストと社会貢献			SOC300HA	2	2~4	☆	☆	☆	☆	☆
	国際社会学	SOC300HA		2	2~4	*	◎	◎	*	*	
	環境倫理学	PHL200HA		2	1~4	*	*	*	◎	*	
	生命の現在と倫理	PHL200HA		2	1~4	*	*	*	◎	*	
	西欧近代批判の思想	PHL200HA		2	1~4	*	*	*	◎	*	
仏教思想	PHL200HA	2		1~4	*	*	*	◎	*		
日本美術史論	ART200HA	2		1~4	*	*	*	◎	*		
西洋美術史論	ART200HA	2		1~4	*	*	*	◎	*		
日本詩歌の伝統	LIT200HA	2		1~4	*	*	*	◎	*		
日本環境史論Ⅰ	HIS300HA	2	1~4	*	◎	*	◎	*			
ヨーロッパ環境史論Ⅰ	HIS300HA	2	1~4	*	*	◎	◎	*			
比較演劇論Ⅰ	ART200HA	2	1~4	*	*	*	◎	*			
環境表象論Ⅰ	TRS200HA	2	1~4	*	◎	*	◎	*			
環境人類学Ⅰ	CUA200HA	2	1~4	*	*	◎	◎	*			
現代思想と人間Ⅰ	PHL200HA	2	1~4	*	*	*	◎	*			
環境哲学基礎論	PHL300HA	2	2~4	*	*	*	◎	*			
日本環境史論Ⅱ	HIS300HA	2	1~4	*	◎	*	◎	*			
ヨーロッパ環境史論Ⅱ	HIS300HA	2	1~4	*	*	◎	◎	*			
比較演劇論Ⅱ	ART300HA	2	1~4	*	*	*	◎	*			
環境表象論Ⅱ	TRS300HA	2	1~4	*	◎	*	◎	*			
環境人類学Ⅱ	CUA300HA	2	2~4	*	*	◎	◎	*			
環境人類学Ⅲ	CUA300HA	2	2~4	*	*	◎	◎	*			
現代思想と人間Ⅱ	PHL300HA	2	1~4	*	*	*	◎	*			

	科目名	ナンバリング	単位	配当 年次	コース種別					
					サステイナブル 経済・経営	ローカル・ サステイナビリティ	グローバル・ サステイナビリティ	人間 文化	環境 サイエンス	
自然科学 関連	サイエンスカフェⅠ	BSC200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
	サイエンスカフェⅡ	BLS200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
	サイエンスカフェⅢ	BAB200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
	サイエンスカフェⅣ	PHY200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
	自然環境論Ⅰ	GEO200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
	自然環境論Ⅱ	GEO200HA	2	1～4	*	*	*	*	◎	
	自然環境論Ⅲ	GEO200HA	2	1～4	*	*	*	*	◎	
	自然災害論	GEO200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
	地球科学史Ⅰ	SHS200HA	2	1～4	*	*	*	◎	◎	
	地球科学史Ⅱ	SHS200HA	2	1～4	*	*	*	◎	◎	
	気候変動論Ⅰ	PLN200HA	2	1～4	*	*	◎	*	◎	
	気候変動論Ⅱ	EAE200HA	2	1～4	*	*	◎	*	◎	
	環境健康論Ⅰ	BOM200HA	2	1～4	*	*	*	◎	◎	
	環境健康論Ⅱ	BOM200HA	2	1～4	*	*	*	◎	◎	
	エネルギー論Ⅰ	INE200HA	2	1～4	*	*	*	*	◎	
	環境モデル論Ⅰ	ENV200HA	2	1～4	*	*	*	*	◎	
	環境モデル論Ⅱ	ENV200HA	2	1～4	*	*	*	*	◎	
	展開科目	環境科学Ⅰ	ENV300HA	2	2～4	*	*	*	*	◎
		環境科学Ⅱ	ENV300HA	2	2～4	*	*	*	*	◎
		環境科学Ⅲ	ENV300HA	2	2～4	*	*	*	*	◎
		自然環境論Ⅳ	DES300HA	2	2～4	*	*	◎	*	◎
		自然環境政策論Ⅰ	DES300HA	2	2～4	*	◎	*	*	◎
		自然環境政策論Ⅱ	DES300HA	2	2～4	*	*	◎	*	◎
		エネルギー論Ⅱ	INE300HA	2	1～4	*	*	*	*	◎
		衛生・公衆衛生学Ⅰ	SOM300HA	2	2～4	*	*	*	◎	◎
		衛生・公衆衛生学Ⅱ	SOM300HA	2	2～4	*	*	*	◎	◎
		衛生・公衆衛生学Ⅲ	SOM300HA	2	2～4	*	*	*	◎	◎
		大気と社会Ⅰ	EAE300HA	2	2～4	*	*	*	*	◎
大気と社会Ⅱ		EAE300HA	2	2～4	*	*	*	*	◎	
環境総合科目	食と農の環境学Ⅰ	ASS300HA	2	2～4	◎	◎	◎	*	*	
	食と農の環境学Ⅱ	ASS300HA	2	2～4	◎	◎	*	*	*	
	食と農の環境学Ⅲ	ASS300HA	2	2～4	*	*	*	*	◎	
	公害防止管理論Ⅰ	ENV300HA	2	1～4	◎	*	*	*	◎	
	公害防止管理論Ⅱ	ENV300HA	2	1～4	◎	*	*	*	◎	
	廃棄物・リサイクル論	ENV300HA	2	2～4	*	◎	*	*	◎	
	環境教育論	SEE300HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
	キャリア入門	CAR200HA	2	1～4	☆	☆	☆	☆	☆	
	グローバルスタディーズⅠ	ARS1300HA	2	2～4	*	*	◎	*	*	
	グローバルスタディーズⅡ	ARS1300HA	2	2～4	*	*	◎	*	*	
	ローカルスタディーズⅠ	SOC300HA	2	2～4	*	◎	*	*	*	
	ローカルスタディーズⅡ	SOS300HA	2	2～4	*	◎	*	*	*	
	環境マネジメントスタディーズⅠ	MAN300HA	2	2～4	◎	*	*	*	*	
	環境マネジメントスタディーズⅡ	MAN300HA	2	2～4	◎	*	*	*	*	
スポーツビジネス論Ⅰ	HSS211LB	2	3・4	☆	☆	☆	☆	☆		
スポーツビジネス論Ⅱ	HSS212LB	2	3・4	☆	☆	☆	☆	☆		

科目名		ナンバリング	単位	配当年次
展開科目	人間環境特論	OTR200HA	2	2～4
	研究会	OTR400HA	2・4	2～4
	研究会修了論文	OTR400HA	2	4
	コース修了論文	OTR400HA	2	4
	プログラム修了論文 ※RSPのみ	OTR400HA	2	4
	キャリアチャレンジ	CAR300HA	2	2～4
	フィールドスタディ	OTR200HA	2	1～4
	人間環境セミナー	OTR200HA	2	1～4
	スタディ・アプロードⅠ	-	2	2～4
	スタディ・アプロードⅡ	-	2	2～4
	スタディ・アプロードⅢ	-	2	2～4
	スタディ・アプロードⅣ	-	2	2～4
	スタディ・アプロードⅤ	-	2	2～4
	スタディ・アプロードⅥ	-	2	2～4
	スタディ・アプロードⅦ	-	2	2～4
	スタディ・アプロードⅧ	-	2	2～4
	SCOPE Seminar	OTR400HA	2	2～4
	Field Workshop	OTR200HA	2	2～4
	Co-creative Workshop AⅠ	OTR200HA	2	2～4
	Co-creative Workshop AⅡ	OTR200HA	2	2～4
	Co-creative Workshop BⅠ	OTR200HA	2	2～4
Co-creative Workshop BⅡ	OTR200HA	2	2～4	

8.1 定期試験

以下の内容を確認するとともに、詳細はWeb掲示板で確認してください。

(1) 試験期間

春学期は7月下旬、秋学期は1月下旬より定期試験を実施します。日程はWeb 掲示板で発表します。科目によっては定期試験に代え、授業期間中の試験・レポート提出・平素の学習状況などで評価することがあります。

(2) 試験時間割と試験教室

試験時間割と試験教室は通常の授業時間・教室とは異なるので注意してください。Web 掲示板にて発表します。

(3) 受験上の注意

- 1) 履修登録した科目のみ受験できます。
- 2) 必ず指定された教室で受験してください。
- 3) 試験開始から20分経過後は入室を認めず、欠席扱いとします。
- 4) 試験開始後20分経過し、かつ監督者の許可がなければ途中退室はできません。
- 5) 受験中は学生証を机の上に提示してください。
- 6) 試験において不正行為を行った者または行おうとした者は、規定により処罰されます。
- 7) 答案を提出しないで退室した場合は不正行為と見なします。
- 8) ノート、参考書などの参照が許されている場合は、必ず指定されたものを使用してください。指定された物以外を参照した場合は不正行為と見なします。

(4) 不正行為に対する措置

不正行為を行った学生に対しては、下記のとおり厳正な措置がとられます。

(定期試験のみならず、定期試験に代替する授業内試験での不正行為にも適用されます)

処分基準

定期試験（それに相当する授業内試験を含む）における不正行為

不正行為態様	処分内容
① 計画性の弱い、または偶発的な不正行為 例: a. 他人の答案の覗き見 b. 問題・答案用紙配布後の話し合い c. 参照可の資料等の貸借 d. 不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない e. 答案の持ち帰り	○厳重注意、譴責または1カ月未満の停学 ○当該科目は無効(E評価)
② 計画性が強い、または意図的な不正行為 例: a. 参照不可の試験でカンニングペーパー使用 b. " 机上への書き込み c. " テキスト・ノート等の閲覧 d. 参照可の試験で許可されたもの以外の参照・使用 e. 許可されていない機器（携帯電話・スマートフォン等）の持ち込み、使用。 f. 答案用紙の交換(行為の態様により③の受験依頼に該当) g. 組織的なカンニング行為	○停学1カ月以上3カ月未満 ○当該科目は無効(E評価)に加え、原則として当該学期全履修科目の受験を無効(E評価)
③ 受験依頼(いわゆる替え玉受験) 例: a. 依頼された他人が本人になりすまして受験 (本人の学生証使用) b. 答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出	○停学3カ月以上6カ月未満または無期停学 ○当該学期全履修科目の単位を無効(E評価)

※上記③に関し、依頼を受けて受験行為を行った者も学則上の処分の対象となりうる。

論文（卒業論文を含む）、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為

不正行為様態	処分内容
① 剽窃（ひょうせつ）行為 例： a. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに限定的に流用した	○厳重注意または譴責
②悪質な剽窃（ひょうせつ）行為 例： a. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用した b. 他人と示し合わせ、他人とほぼ同一の内容で課題を作成し提出した c. 他人が作成した論文等を、自己の氏名に書き換えて提出した d. 指導にも関わらず繰り返し剽窃行為を行った	○停学3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）
③代筆依頼 例： a. 論文・レポート等の作成を代行する企業・個人等の他者に作成を請け負わせ、納品物を自己が作成したものと提出した	○停学3カ月以上6カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）
④その他不正行為 例： a. データの捏造（ねつぞう）、改竄（かいざん）。	○停学3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）

※上記③に関し、依頼を受けて代筆行為を行った者も学則上の処分の対象となりうる。

※剽窃（ひょうせつ）…他人の作品・論文・文章などの字句または説を盗みとって、自分のものとして発表すること。

授業・試験等の出席に関わる不正行為

不正行為様態	処分内容
①代返行為・虚偽申告 例： a. 他人に依頼し自己の出席報告を行わせた b. 他人から依頼を受け他人の出席報告を行った c. 出席報告書（出席カード等）の偽造により提出した d. 欠席理由に係る証明書類（診断書等）を偽造または虚偽の内容により提出した ※出席報告には、口頭によるもの、出席カード等紙面によるもの、学生証の情報を読み取るもの、各種システムを介して行うもの、いずれも含む。	○厳重注意、譴責または1カ月未満の停学

(5) 不正行為を複数回行った場合

過去、不正行為により処分を受けたことがある者が、在学中に再び前記のいずれかの不正行為を行った場合には、処分を加重し、基準より重い処分を行うことがある。

(6) 懲戒処分の発効日

原則として当該学期の定期試験期間最終日の翌日とする。

8.2 未受験申請

試験—未受験科目の代替措置について(追試験等)

本人の病気等、以下のやむを得ない事態により、定期試験およびそれに準ずる試験を受験できなかった場合は、必要書類を持参の上、未受験申請をすることができます（レポート回収日に欠席した場合、申請時に提出予定であったレポートを持参してください）。

申請理由によっては未受験資格を得られない場合もありますので、自己判断せず、定期試験及びそれに準ずる試験を受験できないと判明した時点で、人間環境学部窓口へ相談してください。

理由	必要書類	備考	受付期間
電車遅延	遅延証明書	以下の場合は認めない。 ・通学区間外の経路を利用して遅刻した場合 ・遅れた時間以上の遅延証明書がない場合(例：試験開始から40分遅れたが、15分の遅延証明しかない場合等) ・試験開始時刻以降の入室を想定した場合	試験実施日当日のみ
病気・怪我	診断書または 治癒証明書(大学指定書式) (コピー不可・試験当日に登校が不可能である旨がわかる記載が必要)	本人の病気・怪我のみ	試験実施日を含め、7日以内 ※ただし、定期試験最終日を受付期限とする(定期試験最終日まで手続きができない場合は、学部窓口へ連絡・相談すること)。
忌引き	会葬礼状	親族二親等(両親・兄弟姉妹・祖父母)の通夜・告別式のみ	
就職活動	氏名・日程等が記載された通知等	採用選考日のみ 説明会は不可	
公務員・教員・資格試験	受験票等のコピー	試験日・訪問日のみ 指定試験合格者奨励金、L・Uキャリアアップ奨励金の該当資格のみ	
体育会	保健体育部発行の「競技参加による欠席願」		
国体・国家代表等	対象学生の名前が記載されている大会の競技日程等		
教育実習、介護実習、資格課程科目の実習参加日程と重複	実習参加証明書	機関名・実習期間・学生所属・氏名が記載されたもの	

8.3 補講

補講は、授業の進度や休講を補うために、原則として学事日程に定められた所定の期間に行われます。補講が行われる科目や日時・教室等は Web 掲示板で連絡しますので、よく確認をして受講してください。

8.4 成績および進級・卒業発表

成績および進級・卒業発表については以下となります。併せて、共通-(3)を確認するとともに、詳細は Web 掲示板で確認してください。

(1) 成績評価

- 1) 成績評価方法は、科目ごとに定められています。一般的には、 Semester ごとの定期試験または授業内試験、レポート、平素の学習状況等によって行われます。
- 2) 評価は「GPA 制度」に基づいて行われています。GPA 制度については、共通-(15)ページを参照してください。

(2) 成績発表、卒業発表・進級発表

- 1) 成績発表および卒業発表・進級発表は、下記のとおり行います。詳しい日程は、Web 掲示板で確認してください。
春学期：9月中旬 (Web によるダウンロード)
秋学期：3月上旬 (Web によるダウンロード)
- 2) 成績通知書は、次 Semester の履修科目選択の際、大切な資料となります。紛失しないよう、しっかり保管してください。

(3) 成績調査について

評価が D (不可) および E (未受験・他) の科目で、その評価に疑問を感じた場合は、所定の期間内に理由を添えて手続きをすれば、成績調査を行うことができます (D、E 評価以外の成績に関する問い合わせには応じられません。履修登録せずに受講および受験した科目は調査できません。評価をもらうための嘆願や、点数を知りたいという理由では調査を受け付けません)。

8.5 再試験

進級にあたり一定の条件内で留級となった場合、再試験を受けられる可能性があります。以下の内容および成績発表前の掲示をよく確認してください。

(1) 進級再試験

進級再試験日、受付日、申請場所・方法については別途掲示にてお知らせします。

- 1) 対象者：3年次生で、進級要件に2科目以内（ただし、ILAC科目／市ヶ谷基礎科目のうち4群必修科目に限る、春学期開講科目を含む）の不足を生じた者。
- 2) 受験対象科目：ILAC科目／市ヶ谷基礎科目4群必修（外国語）科目のうち、当該年度において履修登録しており、D評価を受けた科目のみが対象（E評価は除く）
- 3) 受験可能科目数：最大2科目

(2) 卒業再試験

人間環境学部では、卒業再試験は行いません。

HOSEI University

市ヶ谷共通項目

I. 学籍	(1)
II. 履修	(11)
III. キャンパス・サポート	(27)
IV. 緊急時対応	(31)
V. その他	(35)

2019 年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

I

学 籍

1. 学生証
2. 進級および卒業
3. 休学・退学等
4. 学費
5. 住所等変更
6. 改姓・改名

I 学 籍

1. 学生証

(1) 学生証について

本学の学生であることを証明するものです（記載内容は下記写真参照）。学生証は常時携帯し、本学教職員に求められた場合には提示しなければなりません。当該年度の裏面シールを貼付することにより学生証として有効になります。

また、学生証は磁気ストライプカードとなっています。証明書自動発行機、図書館、スタディールームなどの利用には学生証が必要となります。

なお、スマートフォンやスピーカー、磁石留め具、クレジットカードなど強い磁気を発する物に近づけることで磁気が破損されることがありますので保管には十分注意してください。万一、磁気が破損されてしまった場合には再度、磁気データの書き込みを行いますので、学生センターまたは所属する学部窓口申し出てください。（特にスマートフォンケースと一緒に学生証を携帯し、磁気が破損するケースが散見されています。十分注意してください。）

(2) 裏面シールについて

新入生は学期はじめのガイダンスで学生証に貼付して渡します。

次年度以降、春学期入学生は4月に学費納付書と一緒に新年度の裏面シールを送付します。秋学期入学生は9月に学費納付書と進級後の裏面シールを送付します。新年度の裏面シールは旧年度の裏面シールをはがしてから貼付をしてください。

(3) 学生証・裏面シールの再発行について

学生証（裏面シール部分を含む）を汚損・紛失したときは、直ちに自分の所属する学部窓口申し出てください。特に紛失した場合には、悪用による被害を受けないよう、警察にも届け出てください。大学内で紛失した場合は、まず学生センターへ問い合わせてください。

再発行を受けた場合、外濠校舎および富士見坂校舎のスタディールームを引き続き利用するには学生センターにて手続きをする必要があります。

学生証（表面）



学生証（裏面シール）

番号	学籍	一・法・法律 1年 A組
氏名	ホウセイ タイ	
有効期限	2024年4月30日まで有効(ただし、4年生は入学後1年次生は3月31日まで)	
現住所		
通学区間	～	～
通学定期券発行控	発行年月日 通用 発行 駅	発行年月日 通用 発行 駅

再発行が必要なもの	発行手数料	申請方法	再発行日
学生証＋裏面シール	2,000 円	所属学部窓口	申請日の翌日 (裏面シールのみは当日)
学生証のみ	1,800 円		
学生証裏面シールのみ	200 円		

※学生証の紛失・盗難の場合は、警察にも届けてください。

※新年度の学年・クラスが印刷された裏面シールは、春学期入学生は4月上旬、秋学期入学生は9月上旬に郵送される新年度の学費振込依頼書に同封されています（新入生以外）。

※記入欄がいっぱいになった場合の裏面シールの追加発行は学生センターで行っています（無料）。

2. 進級および卒業

(1) 進級

在学年数（年次毎に1年以上）を満たし、必要単位を修得すると、春学期入学生は4月、秋学期入学生は9月に自動的に進級します。

(2) 卒業

在学年数（4年以上）を満たし、必要単位を修得すると3月または9月に卒業となります。春学期入学生の3月卒業、秋学期入学生の9月卒業は手続きの必要無く自動的に卒業となりますが、春学期入学生の9月卒業は、4月末までに申請が必要です。同様に秋学期入学生の3月卒業は、9月末までに申請が必要です。

なお、卒業要件を満たした後での希望留年はできません。

(3) 修業年限および在学年限

本学の修業年限は4カ年です。また、休学期間を除き、大学に8カ年を超えて在学することはできません。春学期に在学し、秋学期に休学、退学および除籍となった場合、あるいは秋学期に復学および復籍した場合や春学期に休学し秋学期に在学した場合、当該年度の在学期間は0.5年として計算します。

なお、2年次転・編入学者は6カ年を超えて、3年次転・編入学者は4カ年を超えて在学することはできません。

3. 休学・退学等

(1) 休学

手続き・届出用紙の交付：所属学部窓口（ウェブサイトからダウンロード可）
(HOME > 在学生の方へ > 各種申請・手続き > 休学 > 学部生の休学について)

<http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/shinsei/kyugaku/gakubu.html>

病気その他のやむを得ない事由で、一定期間授業に出席できない学生は休学することができます。休学を希望する学生は、所定の手続きを期限内に行い、許可を得なくてはなりません。

春学期休学・秋学期休学の場合、通年科目の履修が無効となりますのでご注意ください。教職・資格科目を履修している場合は教職・資格担当に、事前に相談・手続きをしてください。奨学金を受けている場合は、学生センター厚生課に必ず相談・手続きをしてください。

①休学願の届け出期限：下表のとおり。

休学希望期間	休学願提出期限
年間	5月31日
春学期	
秋学期	10月31日

※休学願届け出期限日の学部窓口取扱いがない場合は、その前日が期限となります。窓口取扱い時間については、本冊子の「学部項目」、学部掲示板、ウェブサイトなどで確認してください。

②休学中に必要な費用：休学在籍料及び諸会費

休学期間	必要な費用	
年間 (春入学者のみ)	休学在籍料 (10万円) ※1	校友会費 (4年生のみ) ※2
春学期	休学在籍料の2分の1 (5万円) ※1	当該年度の諸会費を納入 (春入学の場合) ※2
秋学期	休学在籍料の2分の1 (5万円) ※1	当該年度の諸会費を納入 (秋入学の場合) ※2

※1 入学（復学・復籍含む）した当該学期に休学する場合、当該学期の「授業料・実験実習料・教育充実費・諸会費」は納入する必要があります。年間休学の休学在籍料については、入学（復学・復籍含む）した当該学期の納入は不要ですが、次学期は休学在籍料の2分の1（5万円）を納入してください。

※2 諸会費のうち校友会費（3万円）については、4年次に進級した最初の年度の第1期分学費と同時に納入しなければなりません。

③休学期間・回数等：年間休学、春学期・秋学期休学に関わらず、当該年度に限ります。引き続き休学を希望する場合は改めて申請することで休学が可能ですが、連続して2年を超えることはできません。また、通算して4年を超えることもできません。春学期および秋学期休学は、0.5年として計算します。

④休学に関する在学期間：下表のとおり。

休学期間	在学期間
年間	0年
春学期	0.5年（秋学期在学分）
秋学期	0.5年（春学期在学分）

⑤ 4年次での休学：4年次生が春学期休学または秋学期休学をする場合、通算の在学年数が4年以上であり、かつ卒業所要単位を修得済みである（または休学年度において修得済みとなる）場合、当該年度の卒業予定学期終了時に、本人の意思にかかわらず卒業となります。

⑥ 休学明けについて：休学期間から明ける際の手続きは不要です。

⑦ 半期在学した場合の卒業および進級の扱いについて

- a 学位授与の要件である「4カ年以上在学し」「卒業所要単位を修得」（学則第49条1項）には、半期在学者の在学期間（0.5年）およびこの期間に修得した単位の累積を含むものとする。
- b 卒業要件及び進級要件を充足している限り、半期在学者であっても当該年度の卒業及び翌年度の進級を認めるものとする。ただし、進級の場合は、学生は各年次で通算して1年以上在学し、所定の単位数を充たさなければならぬものとする。なお進級時期は学年度始め（春学期入学生：4月、秋学期入学生：9月）に限る。
- c 本人の申請により春学期入学生の9月卒業および秋学期入学生の3月卒業を認めることができるものとする。この場合、事前に「9月（3月）卒業申請書」を提出した申請者についてのみ卒業判定を行う。

【具体的適用例（春学期入学の場合）】

・卒業の場合（いずれも判定時に卒業所要単位は充たしているものとする）

(a) 3.5年での卒業は認められない（通算在学年数は必ず4.0以上であること）

1年次		2年次		3年次		4年次		在学年数 = 3.5年 卒業保留
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	

(b) 4.0年以上の在学年数であれば、半期休学があっても卒業を認める（ただし、2回目の4年次は授業料減免の条件を満たさない）

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次（卒保）		在学年数 = 4.0年 卒業可 3月卒業（自動的に卒業）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	休学	0.5	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	休学	0.5	休学	0.5	

(c) 3.5年の在学年数で卒業保留となり、5年目に「9月卒業申請」のある場合（ただし、2回目の4年次は授業料減免の条件を満たさない）

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次（卒保）		在学年数＝4.0年 卒業可 9月卒業（申請による）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
						休学				
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	0.5		

(d) 4.0年の在学年数で3→4年に進級し、5年目に「9月卒業申請」のある場合（ただし、4年次留級者でないため、授業料減免の条件を満たさない）

1年次		2年次		3年次		3年次（留級）		4年次		在学年数＝4.5年 卒業可 9月卒業（申請による）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		

・進級の場合（いずれも4月1日の時点で進級に必要な科目・単位数は満たしているものとする）

(a) 累積で進級に必要な在学年数を満たしていれば進級は可

1年次		1年次（留級）		在学年数＝1.0年 1年次から2年次への進級可（自動的に進級）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
	休学	休学		
0.5			0.5	

(b) 累積で進級に必要な在学年数を満たしていても、進級は学年度始めに限る

1年次		1年次（留級）		在学年数＝1.5年 2年目の春学期末に進級要件を満たしていても 1年次から2年次への進級は学年度始めに可（自動的に進級）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
	休学			
0.5		0.5	0.5	

※春学期入学生で9月卒業を希望する場合は4月末日、秋学期入学生で3月卒業を希望する場合は9月末日までに申請が必要です。（共通－（3）を参照）

（2）退学

手続き・届出用紙の交付：所属学部窓口

（ウェブサイトからダウンロード可）

（HOME > 在学生の方へ > 各種申請・手続き > 退学・復学 > 学部生の退学・復学について）

<http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/shinsei/taigaku/gakubu.html>

病気その他の事情により退学を希望する学生は、所定の手続きを経て許可を受けなければなりません。奨学金を受けている場合は、学生センター厚生課にも必ず報告してください。

①退学願には必ず学生証を添付してください。

②学費の納入状況と退学許可日との関係は次のページの表のとおりです。

当該年度の学費納入	退学日として可能な日	退学願提出期間	当該年度の成績について
関係なく	前年度の3月31日付	5月31日まで	すべて認定されません
春学期(1期)分 納入済	4月1日～9月14日付	9月15日まで	すべて認定されません
	9月15日付	10月31日まで	春学期科目の成績のみ認定されます
秋学期(2期)分 納入済	9月16日～3月30日付	3月下旬まで (詳細は窓口にお問い合わせください)	春学期科目の成績のみ認定されます
	3月31日付		すべての成績が認定されます

※一旦納入した学費その他は返還しません。ただし、当年度の学費を納入済みで、上記の退学願提出期限内に秋学期末退学（前年度の3月31日付）及び春学期末退学（9月15日付）を願い出た場合には、各々の退学確定日翌日以降の納入済み学費（授業料・実験実習料・教育充実費）及び諸会費を返還することとします。

※春学期に在学し、秋学期に退学になった場合の在学期間は0.5年です。

※退学願届け出期限日の学部窓口取扱いがない場合は、その前日が期限となります。窓口取扱い時間については、本冊子の学部項目、学部掲示板、ウェブサイトなどで確認してください。

（3）除籍

下記の事項に1つでも該当した場合は除籍されます。

- ①授業料その他（学費）を所定の期日までに納入しない者。
- ②学則第13条の在学年限を超えた者。
- ③学則第36条の休学期間を超えた者。
- ④新入生で指定された期限までに履修登録をしない等、その他本大学において修学する意志がないと認められる者。

（4）復学

手続き・届出用紙の交付：所属学部窓口

(ウェブサイトからダウンロード可)

(HOME > 在学生の方へ > 各種申請・手続き > 退学・復学 > 学部生の退学・復学について)

<http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/shinsei/taigaku/gakubu.html>

退学願の提出により退学した学生が復学を希望する場合には、復学願を提出し、教授会の許可を得なくてはなりません。(休学者が、休学期間から明ける際の手続きは不要です。)

- ①復学・復籍時期：春学期または秋学期の初め
- ②費用：復学・復籍を許可されたときは、再入学金と復学・復籍する当該年度の学費（春学期または秋学期分）を納入。
※期限までに学費の納入が無い場合は、復学・復籍許可を取り消します。

(5) 復籍

除籍された学生が復籍を願い出る場合は、所属していた学部窓口へ相談してください。復籍時期および費用は、上記(4)を参照してください。

4. 学費

(1) 学費納入

各学年とも学費は下記期限までに納入してください。なお、一旦納入した学費その他は一切返還しません。

春学期入学者学費納入区分	学費振込依頼書送付時期	学費納入期限
春学期（1期）	4月	4月30日
秋学期（2期）	4月 (新入生のみ6月中旬～下旬)	9月30日

秋学期入学者学費納入区分	学費振込依頼書送付時期	学費納入期限
秋学期（1期）	9月	9月30日
春学期（2期）	4月	4月30日

(2) 留級者（休学からの復学者を含む）

進級できなかった学生の授業料、実験実習料および教育充実費については、該当学生の入学年度に定められたものを適用します。

ただし、諸会費については、当該年次の額として定められたものを納入してください。

(3) 4年次留級者

第4年次終了までに卒業所要単位を修得できなかった学生の授業料、実験実習料および教育充実費については、該当学生の入学年度に定められたものを適用します。

ただし、「4年次1年間分の在学」および「4年次分の学費を完納」の条件を満たしている場合、未修得単位24単位以下の学生の授業料に限り、該当学生の入学年度に定められたものの半額とします。半額が適用される場合、履修登録できる単位数の上限が制限される場合がありますのでご注意ください。詳しくは所属の学部窓口にお問い合わせください。休学者・途中離籍者・3年次までに留級した学生などは、これに該当しない場合がありますので所属の窓口にお問い合わせをしてください。

諸会費については、当該年次の額として定められたものを納入してください。

(4) 復学者、復籍者

退学して復学した学生、除籍されて復籍した学生の授業料、実験実習料、および教育充実費については、当該年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用します。ただし、再入学金については、10万円を納入してください。また、諸会費については、当該年次の額として定められたものを納入してください。

(5) 転部者

転部の場合は転部先の学費が適用されます。

(6) 編入学者、通教からの転籍者

他大学からの編入学者、通教からの転籍者の授業料、実験実習料および教育充実費については、当該年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用します。ただし、入学金については、当該年度の定められた金額を納入してください。また、諸会費については、当該年次の額として定められたものを納入してください。

(7) 学費の延納制度について

手続き・届出用紙の交付： 所属学部窓口・学生センター市ヶ谷学生生活課
(ウェブサイトからダウンロード可)

(HOME > キャンパスライフ > 学費)

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/gakuhi/index.html>

経済的事由等のやむを得ない事情で、学則の納入期限までに学費の納入が困難な方を支援する制度です。事前に申請することで学費納入期限を所定の期日まで延期できます。学費の延納を希望する場合は、各期の延納受付期間内に「学費延納申請書」を提出してください。

対象：学部生

期	延納期限	延納申請受付期間	学則上の納入期限
春学期	6月30日	4月1日～5月末日まで	4月30日
秋学期	11月30日	9月1日～10月末日まで	9月30日

※学費延納申請書期限日の学部窓口取扱いがない場合は、その前日が期限となります。窓口取扱い時間については、本冊子の学部項目、学部掲示板、ウェブサイトなどで確認してください。

※延納期限までに学費が納入されなかった場合は、所属学部から学生およびその保証人へ除籍通知が発送されますので予めご承知おきください。

5. 住所等変更

(1) 住所・電話番号・通学区間変更届

手続き・届出用紙の交付：学生センター市ヶ谷学生生活課

本人および保証人の住所・電話番号（携帯電話含む）が正確に届けられていない場合、大学からの重要な諸連絡ができなくなり、自身に不利益な事態が生じることがありますので十分留意してください。

(2) 保証人変更届

手続き・届出用紙の交付：学生センター市ヶ谷学生生活課

保証人の変更を余儀なくされた場合には、あらためて保証人を選定し、上記へ届け出てください。

6. 改姓・改名

手続き・届出用紙の交付：所属学部窓口

届け出の際は、所定事項記入のうえ「住民票」を添付してください。

2019年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

Ⅱ

履修

1. 学年と学期
2. 単位制度と単位修得
3. 授業
4. 教職課程・資格課程
5. 成績
6. GPA制度
7. 成績優秀者の他学部科目履修制度
8. 他学部公開科目履修制度
9. グローバル・オープン科目
10. グローバル教育センター設置科目について
11. 研究活動の不正行為について

Ⅱ 履 修

ここに記載している「履修」に関する内容は、市ヶ谷全学部共通部分のみです。「履修」は、各学部のカリキュラムと密接に関連しています。詳細は本冊子の「学部項目」および講義概要（シラバス）に記載してあります。必ず熟読してください。

1. 学年と学期

学年は、春学期と秋学期の2期に分かれ、各期の授業期間を14週としています。春学期は学則により4月1日から9月15日まで、秋学期は9月16日から3月31日と定められています。大学では、祝祭日であっても授業を実施する日があります。また、夏季・春季休業期間に特別授業期間を設けて授業を実施することもありますので、授業期間の詳細については、学年暦で確認してください。

2. 単位制度と単位修得

単位制度とは、授業科目を所定の時間学修し、それぞれの授業科目に付与されている単位を修得していくことです。単位の修得は、履修登録をした科目について、所定の授業を受けたうえで、平素の学習状況、筆記試験、レポート、論文等による成績評価の結果、合格した場合に与えられます。修得した単位の合計数が一定の要件を満たした学生に対して卒業が認められます。

大学設置基準には、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする旨が記載されています。各授業科目の単位数は、授業時間の他、授業時間外の自習（予習・復習）時間を持つことを前提に定められています。

3. 授業

(1) 履修登録

履修登録とは、授業を受ける科目について履修の意思表示をすることです。履修登録は所属学部が指定した所定の期間内に手続きを行う必要があります。

実際の履修登録の方法や注意事項については、「学部項目」に記載されていますので、必ず確認してください。なお、履修科目の選択は、卒業要件、進級要件、履修上限単位数等を考慮して、登録後は「履修登録科目確認通知書」を必ず確認してください。

また、学部3年生は履修登録(春学期)の前にキャリアセンターのシステムへ進路希望登録が必要です(2年次に登録済みの場合不要)。詳細はキャリアセンターで確認してください。

(2) 履修上限単位数

履修登録できる単位数の上限は、学部ごとに定められています。詳細は「学部項目」に記載していますので、確認のうえ、履修上限単位数内で履修登録をしてください。

(3) 授業時間

第	1	時	限	8:50~10:30
第	2	時	限	10:40~12:20
昼		休	み	12:20~13:00 (40分)
第	3	時	限	13:00~14:40
第	4	時	限	15:00~16:40
第	5	時	限	16:50~18:30
第	6	時	限	18:35~20:15
第	7	時	限	20:20~22:00

※2019年度のみ授業時間を上記の通り変更します（市ヶ谷キャンパスのみ）。

(4) 卒業要件および進級要件

卒業要件、進級要件は学部ごとに定められています。要件を満たさない場合、進級、卒業は認められません。詳細は本冊子の「学部項目」および共通－(3)に記載されていますので、確認してください。

(5) 休講

授業は、学事日程に従って行われますが、担当教員が公用、校務、出張、学会、病欠等の理由により、授業を行えなくなり、休講となる場合があります。休講については、当該科目の主催学部の学部掲示板および法政大学情報ポータルサイトで連絡します。情報ポータルサイトについては、大学ウェブサイトもしくは学習支援ハンドブックを参照してください。

※30分を経過しても授業が開始されない場合

不可抗力により教員が大学に休講連絡できない場合があります。授業開始から30分経過して担当教員が出講しない場合は休講となります。ただし、教室変更により別の教室で授業が行われている可能性もありますので、学部掲示板等をよく確認してから判断してください。

※特別の休講措置について

「大規模地震の発生が予想されるとき」「大規模地震（震度5以上）が発生したとき」「交通機関のストライキ」「台風など自然災害の際」については、あらかじめ特別の休講措置が決められています（市ヶ谷共通項目【IV. 緊急時対応】参照）。

(6) 補講

補講は、授業の進度や休講を補うために、原則として学事日程に定められた所定の期間に行われます。補講の日時や教室等は、当該科目の主催学部の学部掲示板および法政大学情報ポータルサイトで連絡しますので、よく確認して受講して

ください。情報ポータルサイトについては、大学ウェブサイトもしくは学習支援ハンドブックを参照してください。

(7) 授業の欠席（感染症罹患）

学校保健安全法で定める第二種までの感染症に罹患した場合（例 インフルエンザ、麻疹（はしか）、風疹（三日ばしか）、水痘（水ぼうそう）、耳下腺炎（おたふくかぜ）、百日咳など）は、罹患日や治癒日について、学部窓口へお知らせください。

特にインフルエンザは、最短でも5日の休養、解熱後2日は安静を要し、概ね7日間は登校できなくなります。その間は、通学はもちろん、サークル活動などの外出も出来ません。不明な点がありましたら事後でも構いませんので、学部窓口へご相談ください。

授業内試験を含み、試験を欠席した場合は、各学部の指示に従ってください。

4. 教職課程・資格課程

(1) 教職課程

本学では、中学校・高校の一部教科の一種教育職員免許状の取得が可能です。

教員免許を得るためには、まず基礎的な資格として、学士の学位を得る（大学を卒業する）ことが必要です。また、教育職員免許法に定められている所定の科目、単位を修得し、実際に中学・高校の教壇にたつて授業を行う教育実習を行わなくてはなりません。さらに、中学校の教員免許を取得するためには、介護等体験にも臨む必要があります。

教員免許取得可能な教科や、取得に必要とされる科目、単位数、手続きなどの詳細は、「教職課程履修要綱」を参照してください。また、新生で教員免許取得を考えている学生は、4月に行われる教職ガイダンスに必ず出席してください。

<教職課程センター>

ウェブサイト：http://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/index.html

富士見坂校舎3階「教職課程センター」は、教職課程を勉強する皆さんの支援のための施設です。教員採用経験者の指導員による相談・指導はもちろん、教育実習のための板書の練習、模擬授業の実施や教員採用試験対策講座に参加することができます。

教職を目指す学生の皆さんは、気軽に利用してください。

教職相談指導の申込み：kkc@ml.hosei.ac.jp宛にメール、または教職課程センターで直接申し込み（事前申込を優先いたします）

(2) 資格課程

本学では、教職課程以外にも、図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、博物館学芸員の資格を取得するための課程が設けられています。

これらの資格を取得するために必要とされる科目、単位数、手続きなどの詳細は、「資格関係科目履修要綱」を参照してください。また、これらの資格の取得を考えている学生は、4月に行われる資格ガイダンスに必ず出席してください。

5. 成績

(1) 成績評価 (2019年度より適用)

履修した授業科目の単位を修得するためには、試験に合格し単位が認定されなければなりません。授業科目によっては、定期試験ではなく授業期間内に行われる試験やレポート課題、平常点によって評価される場合もあります。

成績評価の定義は下記のとおりです。

S: 学習目標を満たし卓越した成績をあげた

A: 学習目標を満たし優秀な成績をあげた

B: おおむね学習目標を満たした

C: 最低限の学習目標を満たしたが、不十分な点も見られる

D: 学習目標を満たしていない

E: 未受験、採点不能

各グレード内で特に留意すべき加点・減点がある場合、+-を付加します。ただし、SとDに関しては+-を使用しません。

成績評価基準は「6. GPA制度」を参照してください。

(2) 成績発表

成績発表は、春学期は9月、秋学期は2月下旬～3月に行います。詳細については、本冊子の「学部項目」および学部掲示板で確認してください。

なお、学部2年生は進路希望登録、学部4年生は進路決定報告を、成績発表(秋学期)までにキャリアセンターのシステムへ登録する必要があります。詳細はキャリアセンターで確認してください。

6. GPA制度

(1) GP(Grade Point)について (2019年度より適用)

成績評価 S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D の 11 段階と未受験・その他の場合の評価 E に、それぞれグレードポイント (Grade Point) がつきまゝす。11 段階の成績評価と評価基準とグレードポイントの関係は次のとおりです。

	合格（単位修得）					
成績評価	S	A+	A	A-	B+	B
評価基準	100 - 90 点	89 - 87 点	86 - 83 点	82 - 80 点	79 - 77 点	76 - 73 点
GP	4.0	3.3	3.0	2.7	2.3	2.0

	合格（単位修得）				不合格	
成績評価	B-	C+	C	C-	D	E
評価基準	72 - 70 点	69 - 67 点	66 - 63 点	62 - 60 点	59 - 0 点	未受験・他
GP	1.7	1.3	1.0	0.7	0.0	0.0

（２）GPA（Grade Point Average）について

履修した科目の成績評価として S から D までの 11 段階評価がつきませんが、11 段階評価を 4.0～0.0 までのポイントに置き換え、履修した単位数を掛けます。これがその科目のポイント数になります。さらに履修したすべての科目のポイント数を合計し、履修単位総数で割って平均点を算出します。これが GPA（Grade Point Average）です。GPA の算出方法については次のとおりです。計算値は小数点以下第 3 位を四捨五入して表記します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修登録した各科目の GP} \times \text{その科目の単位数} \text{ の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

（３）GPA を表示する書類について

- ・成績通知書
 - ① GPA（春学期・秋学期）：各学期・セメスターの GPA
 - ② 累積 GPA：直近の学期・セメスターまでを通算した GPA
 - ③ GPA（年度内）：各年度内の GPA
 - ④ 同じ学年・所属で上位 25%、50%に位置する学生の GPA
- ・成績証明書

累積 GPA：直近の学期・セメスターまでの在学期間を通算した GPA

（４）履修取消について

未受験その他による E 評価の科目は、GPA 計算式において、GP を 0 点として分子に算入し、単位数を分母に算入しますので、E 評価が多いほど GPA が低下します。シラバスを読み、履修したい科目を慎重に決めたいうえで、科目登録をしてください。一度登録した科目は責任をもって履修してください。ただし、一定期間内に手続きすれば、登録を取り消すことができます。履修取消の期限については、履修登録の際に必ず確認してください。

（５）不合格（D、E 評価）になった科目の再履修

不合格（D、E 評価）になった科目も再履修して S～C 評価を修得した場合は、それ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみを GPA に参入します。結果と

して GPA は上昇します。2011 年度秋学期より、成績通知書には過去の E 評価はすべて表示されています。

(6) 活用方法

GPA は成績を数値化し、客観的にみるための手段です。セメスターごとと通算の二つのデータが出されるので、1 年次と 2 年次、あるいは 3 年次、4 年次の成績を比較したり、推移を確認したりすることで学習効果を自分で確認することができます。GPA が上がってれば、さらなる学習の展望が拓けます。また、下がってれば、なぜ下がったのかを分析し、成績向上につなげられます。GPA 制度を活用し、自分の学習管理に役立ててください。本学では奨学金の選考基準の一つとして、GPA を活用しています。

(7) GPA に算入されない科目について

教職科目や資格科目など、卒業所要単位以外で履修する科目は GPA には算入されません。RS 評価（留学による外国大学の修得単位認定）、RR 評価（他大学などの単位認定）のような単位認定による評価も算入されません。一方、卒業所要単位数を超えて履修した ILAC/市ヶ谷基礎科目・専門科目については算入されます。

この他にもグレード評価には馴染まないと各学部・学科等が判断した科目については「P-F 評価」（Pass（合格）/Fail（不合格））という形で成績評価をすることがあります。この P-F 評価指定科目についても GPA には算入されません。

7. 成績優秀者の他学部科目履修制度

この制度は、学業成績優秀者に対して専攻分野を超えて広い分野での学習機会を提供し、学生のみなさんの勉学意欲の向上を図ることを目的とした制度です。この制度により、従来の公開科目の枠を超えた多様な科目が履修できるようになりますので、学生のみなさんの積極的な活用を望みます。参加学部は全学部学科です。本制度は 2014 年度より導入されました。

8. 他学部公開科目履修制度

法政大学では、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材の育成を目指し、多くの学部で、専門教育科目を他学部公開し、卒業所要単位として認定する「公開科目」制度を設けています。500 近い科目が公開科目になっており、「英語で行われる授業で集中的に英語力を身につける」、「専門家の講義により仕事の最前線を知る」、「国際化」「まちづくり」など興味のあるテーマについて広く学ぶなど、学部横断的に様々な角度から学習することができます。

(1) 公開科目の概要

公開科目の履修については、以下で内容を確認してください。なお、「成績優秀者の他学部科目履修制度」は公開科目とは別の制度ですので、概要、履修可能

科目は、制度該当者に配付する履修の手引きで確認してください。

a. 公開科目実施学部

市ヶ谷キャンパス 法学部、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、
キャリアデザイン学部、GIS（グローバル教養学部）、
デザイン工学部

多摩キャンパス 経済学部、社会学部、現代福祉学部

b. 履修年次

2～4年次とし、かつ当該科目につき主催学部における配当年次以上とします。
科目によっては、3年次からの履修の場合もあります。

c. 登録単位の上限と単位の扱い

公開科目の修得単位は卒業所要単位として決められた単位数まで加算されます（下表参照）。卒業進級の要件については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要綱）」で確認してください。履修登録時には他の専門科目と同様に年間履修の上限単位数に含まれます。

所属学部	履修単位数上限
法学部	16 単位以内
文学部	16 単位以内
経営学部	連環科目全体で 20 単位以内
国際文化学部	2018 年度以前入学者：自由科目全体で 18 単位以内 2019 年度以降入学者：自由科目全体で 20 単位以内
人間環境学部	自由科目全体で 20 単位以内 人間環境学部 履修の手引き参照
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学部 履修の手引き（カリキュラム）参照
GIS	GIS 履修の手引き学部ページ参照
デザイン工学部	8 単位以内（卒業所要単位には含まれません）
経済学部	16 単位以内
社会学部	16 単位以内（2 年次：年間 4 単位以内，3・4 年次：年間 8 単位以内）
現代福祉学部	16 単位以内（年間 8 単位以内）

d. 登録方法

他の科目と同じように履修登録してください。

e. 注意事項

- ・ 開講曜日・時限・教室等に変更がある場合や、レポート提出、試験等の情報は、主催学部の掲示板に掲示されますので、ご注意ください。
- ・ 他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講

できない等制限がある場合があるため、各学部の履修の手引き（履修要綱）で確認してください。

- ・ 他キャンパスの授業を履修するときは、通学時間を考慮して時間割を組んでください。

（２）公開科目一覧について

本制度にて履修できる科目については、各学部配布の「他学部公開科目時間割」、または Web シラバスにて確認してください。

（Web シラバスでの確認方法）

a. Web シラバスにアクセス

<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>

b. 科目検索画面の公開科目フィールドで「○」を選択

QR コードはこちら（↓）から



（３）科目別の注意事項

履修できる学部が限定されている等、履修上の注意が必要な科目がありますので、「他学部公開科目時間割」で確認してください。

a. 法学部・文学部・経営学部・国際文化学部所属の学生の履修上の注意

市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目については、公開科目ではなく、総合科目として履修登録をしてください。

b. 人間環境学部・キャリアデザイン学部所属の学生の履修上の注意

人間環境学部・キャリアデザイン学部生のみ履修可能な科目があります。詳しくは、「他学部公開科目時間割」を確認してください。

c. キャリアデザイン学部主催の公開科目履修上の注意

科目により人数制限・選抜を行う場合があります。初回の授業には必ず出席してください。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修が出来ない場合がありますので注意してください。

（４）GIS 主催の公開科目履修上の注意

a. 受講資格

GIS 主催科目はすべて英語で行われますので、以下のいずれかひとつに準ず

る英語力が必要となります。

- ・ TOEFL® iBT 80 点以上
- ・ IELTS (Academic Module) band 6.0 以上
- ・ TOEIC® 860 点以上
- ・ 実用英語技能検定 準 1 級以上かつ CSE スコア 2450 点以上

※履修可能年次が、2 年次または 3 年次以上の科目は、より高いスコアが要求される場合があります。

b. 履修上の注意

- ・ 講義のテーマについてある程度の予備知識を必要とする科目もあります。詳しくはシラバスを参照してください。
- ・ 少人数制のため、科目により人数制限・選抜があります。初回の授業には必ず出席し、指示を仰いでください。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修ができない場合がありますので注意してください。

(5) 市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目の履修上の注意

2017 年度以前に修得した科目によって、履修できない科目があります。詳しくは、「他学部公開科目時間割」を確認してください。科目により人数制限・選抜があります。

春・秋学期科目ともに、4 月の春学期授業開始時に担当教員から受講許可を得てください。秋学期科目 (B、Ⅱ 等) のみを履修する場合も、同名の春学期科目 (A、Ⅰ 等) の授業開始時 (4 月) に出席し、受講許可を得てから履修登録を行ってください。 Semester 制の学部 に所属する学生は、4 月に受講許可を得たうえで、9 月に履修登録を行ってください。

受講許可を得る時には、①春学期と秋学期ともに履修、②春学期のみ履修、③秋学期のみ履修のうち、どのパターンで履修するか、4 月の春学期授業開始時に担当教員に申し出てください。

選抜結果については市ヶ谷リベラルアーツセンターウェブサイトで発表します。

<http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/oshirase/liberal/index.html>

QR コードはこちら (↓) から。



9. グローバル・オープン科目

グローバル・オープン科目は、法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために2016年度から全学で開講されている学部横断型の公開科目群です。次のような特長があります。

- ・すべての科目は英語を教授言語としています。
- ・1年次生から履修できる科目があります。
- ・多くの科目が少人数で開講されます。
- ・一定の単位修得で「修了証」が発行されます。
- ・科目は全部で6つの領域に分類されています。

(1) 6つの領域について

◆「ビジネス&マネジメント」領域

多様なグローバル・ビジネスの現状に触れ、社会に貢献してゆくための基盤能力を養い、海外進出やグローバルブランド構築を考察する機会を提供します。中級・上級科目を進むに従い、ビジネスモデリングやビジネス実践に関するスキルも学べる、卒業後のキャリア形成に役立つ科目を用意しています。

◆「ビジネス&エコノミクス」領域

経済学のコンセプトを用いて、グローバルに展開する企業活動の現状や、国際競争力を持ったビジネスの可能性について考える力を身につけます。世界経済の中の日本について歴史的な視点も入れながら学ぶとともに、ビジネス・コミュニケーションの実践的な基礎、さらに経済学や国際経済の基礎理論とともに世界の地域研究を学びます。

◆「国際関係」領域

国際社会の仕組みや諸問題に対する理解を深めるために、伝統的な国際政治学だけでなく、国際政治経済学や国際法学、外交政策論、政治学、社会学等、様々な視点から学際的研究を行います。

◆「社会と文化」領域

所属学部の専門分野以外にも目をむけ、グローバルリーダーとして活躍する人材に必要とされる知識をより広く学び、異文化理解、文学、歴史、思想、宗教、心理学、言語学などの学びを通して、文化や価値観の相違の認識を培う場を提供しています。

◆「実践英語」領域

学部を越えて、より実践的な英語能力を磨くことのできる場を提供します。少人数で開講される授業を通じて、プレゼンテーションや語彙力の強化をはじめ、英語によるコミュニケーション能力をさらに身につけたい方にお勧めします。

◆「科学・技術」領域

変化の激しいグローバル化に対応し、理工系学部にて在籍する学生が、世界を舞台に活躍できる基礎を築くための科目群を用意し、英語の講義受講によるグローバル体験とともに、横断的に専攻以外の理工学分野の概要を知り、幅広い知識の習得、問題解決能力を涵養することをめざします。

(2) 履修登録方法について

グローバル・オープン科目一覧から、受講希望科目を選択したら、初回授業に必ず参加し、担当教員から履修許可を受けてください。履修登録の際は、各学部の「履修の手引き（履修要項）」で内容を確認し、他の科目と同じように定められた期間内に履修登録してください。

(3) 登録単位の上限と単位の扱いについて

グローバル・オープン科目の修得単位は多くの学部で卒業所要単位として決められた単位数まで加算されます。単位認定に関する詳細や卒業進級の要件については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要項）」等で確認してください。履修登録時には他の専門科目と同様に年間履修の上限単位数に含まれます。

(4) 履修上の注意

- ・初回授業に必ず参加し、担当教員から履修許可を受けてください。定員のある授業では、選抜が行われる場合があります。
- ・講義のテーマについてある程度の予備知識を必要とする科目もあります。初回授業前にシラバスを必ず読んで授業に臨んでください。
- ・開講曜日・時限・教室等に変更がある場合や、レポート提出、試験等の情報は、主催学部等の掲示板に掲載されますので、ご注意ください。
- ・開講校地は、原則として、各科目の主催学部等の所在地となります。特にキャンパスの間違いのないよう留意して計画をたててください。
- ・他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講できないなど制限がある場合があるため、各学部の履修の手引き等で事前に確認してください。
- ・市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目の履修について、法学部・文学部・経営学部・国際文化学部・人間環境学部・キャリアデザイン学部の学生は、単位認定先について必ず市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）掲示板およびグローバル・オープン科目講義概要（シラバス）を確認してください。
- ・秋学期科目の一部には、春学期に履修登録の意思を教員に表明し、履修許可を予め得る必要のある科目があります。秋学期科目の履修許可を得ないで春学期に登録した場合、履修を取り消される場合がありますので、十分に注意してください。
- ・秋学期が最初のセメスターとなる秋季入学生や交換留学生は、その年度の春学期に履修することが前提となる科目があり、第一セメスターに履修できない場合があります。
- ・一定の英語能力基準が必要な科目がありますので、グローバル・オープン科目一覧で確認してください。

(5) グローバル・オープン科目一覧について

グローバル・オープン科目授業については、Web シラバスおよびグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(Web シラバスでの確認方法)

Web シラバスにアクセス

<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>

「グローバル・オープン科目 (Global Open Program)」を選択 もしくは科目検索画面のグローバル・オープン科目フィールドで「○」を選択

* 授業時間・教室については、グローバル教育センターウェブサイトに一覧を掲載しています。

(6) 修了証について

グローバル・オープン科目各領域で 12 単位以上取得した方には、所定の申請により「修了証」が発行されます。修了証の申請は、グローバル教育センター(市ヶ谷)、および多摩・小金井キャンパス G ラウンジ受付窓口にて行います。詳細について、春学期は 5 月、秋学期は 12 月ごろに掲示等でご案内します。

10. グローバル教育センター設置科目について

(1) ERP (English Reinforcement Program/英語強化プログラム)

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業の一環として、英語強化プログラム (English Reinforcement Program: 「ERP」) が開講されています。授業はすべて英語イマージョン環境による少人数クラスで行われ、英語力を高めたいと考えている学生、海外留学や国際機関・国際企業への就職を考えている学生に受講を勧めます。

申込方法など詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(2) 交換留学生受入れプログラム (ESOP)

本学の国際化の発展に向けて、これまでに交流を深めてきた海外の協定大学から広く交換留学生を受け入れるために開設されたプログラムで、日本の社会・経済・文化などについて全て英語によるゼミ形式で学びます。交換留学生とともに本学の学生も受講でき、多くの学部で単位認定もされます。語学能力を向上させ、国際的センスを磨くためにも有意義で、将来海外留学や海外勤務など国際化社会にはばたくことに役立つでしょう。交換留学生と切磋琢磨し、国際交流の輪を広げることを目的とする学生の積極的な参加を期待しています。単位認定を希望する方は、グローバル教育センターウェブサイトより申し込みが必要ですので、必ず確認してください。

申込方法など詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(3) 日本語教育プログラム (JLP)

外国籍の方を対象に、2017年4月から新設されたグローバル教育センター主催の日本語や日本文化を学ぶプログラムです。

日本での生活や大学での勉学、交流、そして将来の仕事に活かすことができる日本語力を養成することを教育目標としています。GBP、SCOPE、IGESS、ESOP以外の学生には定員に余裕がある場合、有料にて履修を認める場合があります。受講手続き期間は各学期の授業開始前に設定されています。関心のある方は早めに日本語教育プログラム事務室までお問い合わせください。

＜日本語教育プログラム事務室＞

新見附校舎（大学院棟の隣）2階 TEL：03-5228-1542

(4) 短期語学研修

夏季休暇中と春季休暇中に、英語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語の語学力の強化のため、2週間から4週間程の短期語学研修を実施しています。研修先は本学の海外協定校に付置された語学研修施設で、語学レベル、GPAなどに関係なく留学が可能であり、初めて海外に行く方にも推奨しています。個人の語学力に応じたレベル別の授業を行っており、初級者から上級者まで語学力の向上を目指すことができます。また、学部によっては、単位認定・卒業所要単位への算入も可能です。

実施されるプログラムは実施期間により異なります。詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(5) 国際ボランティア

グローバル教育センターが主催している「国際ボランティア」プログラムです。夏季休暇中と春季休暇中に、現場に身を置き国際協力に対する理解を深めるため、2週間程度の「国際ボランティア」プログラムを実施しています。

国際ワークキャンプに参加し、それぞれの地域・現場で必要としている支援を通じて、国際協力に対する理解を深めます。また、世界のボランティアと一緒に働くことで、文化や言語の壁を越えた理解を深めながら、コミュニケーション能力を養い、海外で活躍する素地を育みます。

プログラムにより、派遣地域、派遣期間が異なります。詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(6) 国際インターンシップ

グローバル教育センターが主催している「国際インターンシップ」プログラムです。夏季休暇中と春季休暇中に、現場に身を置き国際協力や国際的なビジネスに対する理解を深めるため、2週間から4週間程度の「国際インターンシップ」プログラムを実施しています。

海外の企業やNGO団体でのインターンシップを通じて、グローバル環境での働き方や企業文化の違いを学びます。将来的にはグローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげることを目的としています。

プログラムにより派遣地域、派遣期間が異なります。詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(7) 単位認定について

各学部の定めにより、グローバル教育センター設置科目の受講者に対しては単位が認定される場合があります。認定科目、認定単位数については各学部でご確認ください。なお、「短期語学研修」「国際ボランティア」「国際インターンシップ」の単位認定の時期は、プログラムに参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）に行うこととなりますので、4年生の最終学期については、単位認定ができません。また、「国際ボランティア」「国際インターンシップ」については、単位認定の対象とならないプログラムもありますので注意してください。

ERP 科目は所属学部の指定する方法での履修申請が必要です。「短期語学研修」「国際ボランティア」「国際インターンシップ」での単位認定を希望する場合は、事前に指定の方法にて単位認定の希望有無を集約します。なお、グローバル教育センター設置科目の単位認定詳細については「2019年度 グローバル教育センター設置科目 学部別単位認定一覧」をご確認ください。

1 1. 研究活動の不正行為について（卒業論文の作成など）

科学は、信頼を基盤として成り立っています。しかし、残念なことに、データ捏造・改ざんなどの研究不正行為や研究費の不正使用が生じており、報道でもとりあげられています。このままでは、科学に対する信頼が揺らぎかねません。

このような背景から、研究者だけではなく、学生にも研究者倫理に関する知識及び技術を身に付けることが求められています。

※「試験等における不正行為の処分基準」の(2)論文（卒業論文を含む）、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為の不正行為様態にも、盗用に当たる剽窃（ひょうせつ）行為、悪質な剽窃（ひょうせつ）行為、その他の不正行為としてデータの捏造や改ざんが処分を受ける行為として定められています。

代表的な不正行為

（文部科学省が定める「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」において、以下が代表的な不正行為とされています。）

捏造（Fabrication）

存在しないデータ、研究結果等を作成すること

改ざん（Falsification）

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること

盗用（Plagiarism）

他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること

本学では「研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」をはじめとする様々な規程やルールを定め、研究活動における不正行為の防止に取り組んでいます。研究活動における不正行為を認識し、研究倫理教育を学習することで、研究者倫理に関する規範意識を身につけてください。

【参考】

- ・「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」

（平成 26 年 8 月 26 日 文部科学大臣決定）

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf

- ・「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」

（独立行政法人日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）

<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>

お問い合わせ先 法政大学研究開発センター suisin@adm.hosei.ac.jp

2019 年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

Ⅲ

キャンパス・サポート

1. 窓口・学部掲示板
2. 窓口の名称・場所・取扱事項
(市ヶ谷キャンパス)
3. 情報ポータルサイト・授業支援システム・
Web シラバスの利用
4. 各種証明書の発行

Ⅲ キャンパス・サポート

1. 窓口・学部掲示板

大学や学部から学生の皆さんへの通知、連絡および在学中の学習活動に必要とされる手続きのほとんどは、以下に掲載する各窓口を通じて行われています。

特に、授業・試験等に関わるお知らせは極めて重要ですので、学部等の掲示板を、登下校の際に必ず確認するようにしてください。

勝手な解釈や判断によって自らの学習活動や進級・卒業などに支障を来たすことがないよう、まずは本冊子ならびに学部掲示板を確認し、それでも不明な部分は、該当の窓口にお問い合わせください。

<https://hosei.study.jp/>



2. 窓口の名称・場所・取扱事項（市ヶ谷キャンパス）

学生手帳を参照してください。学生手帳はガイダンス等で配布しています。

3. 情報ポータルサイト・授業支援システム・Webシラバスの利用

これらのシステムの利用については、大学ウェブサイトもしくは学習支援ハンドブックを参照してください。

4. 各種証明書の発行

(1) 和文（日本語）証明書

証明書の種類と名称	発行手数料	申請方法	発行までの日数 (目安)	備考
在学証明書	200 円	証明書自動発行機	即日	厳封の必要がある場合は発行後、学部窓口を持参すること。
成績証明書				
卒業見込証明書 (最終学年のみ)				
成績・卒業見込証明書 (最終学年のみ)				
卒業証明書予約票 成績・卒業証明書予約票 (卒業予定者のみ)				
履修登録科目証明書				
単位修得見込証明書（資格用）	200 円	所属学部窓口	1 週間程度	厳封の必要がある場合は窓口で申請時に申し出ること。
教育職員免許状取得見込証明書				
学力に関する証明書（教職用）				
人物に関する証明書（教職用）				
健康診断証明書（最終学年）	200 円	証明書自動発行機	即日	健康診断を受診した学生のみ発行（注）
健康診断証明書（最終学年以外）		診療所窓口	診療所窓口にお問い合わせください	
調査書（大学院進学用）	600 円			
学校学生生徒旅客運賃割引証 (学割証)	無料	証明書自動発行機	即日	
通学証明書（バス）		学生センター		

(注) 大学での健康診断（年度初めに実施）は必ず受診してください。受診していないと体育実技の登録、奨学金の申請、就職活動などで必要な健康診断書が発行できません。

(2) 英文証明書

証明書の種類と名称	発行手数料	申請方法	発行までの日数 (目安)	備考
<英文>在学証明書	200 円	証明書自動発行機	即日	厳封の必要がある場合は発行後、学部窓口を持参すること。
<英文>成績証明書				
<英文>卒業見込証明書 (最終学年のみ)				
<英文>成績・卒業見込証明書 (最終学年のみ)				

※ここに取り上げたものは、現在在学中の皆さんが取得できる証明書の種類とその申請方法です。卒業等で大学を離れてからの請求はこれとは異なりますので、法政大学ウェブサイトを参照してください。

※証明書自動発行機、各窓口の対応時間は季節により異なりますので、事前にウェブサイトを確認してください。

※卒業時における卒業証明書、成績・卒業証明書の申請は、卒業式当日の窓口の混乱を避けるためこれとは異なります。詳細は掲示等でお知らせしますので、見落としのないように留意してください。

※窓口申請する証明書の発行日数はあくまで目安です。申請時（または申請前）に必ず所要日数を確認してください。証明書の種類および申請時期により、申請から発行まで1週間以上要する場合がありますので、余裕をもって申し込んでください。

※証明書の作成にあたり、指定の用紙がある場合は持参してください。特に指定がない場合は、大学の様式で作成します。どちらの場合も料金は同一です。

2019 年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

IV

緊急時対応

1. 大規模地震の発生が予想される時
2. 大規模地震（震度 5 弱以上）が発生したとき
3. 交通機関のストライキによる休講措置について
4. 台風など自然災害の際の休講措置について

IV 緊急時対応

1. 大規模地震の発生が予想される時

東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想される時に、気象庁所管の「地震防災対策強化地域判定会」が召集され、状況によって「警戒宣言」が発令されます。

本学では、大規模地震の発生が予知される時には、前記「判定会」が召集された段階で、次のような措置をとることになっているので、心得ておいてください。

(1) 「地震防災対策強化地域判定会」が召集されたことを確認できた時点で(テレビ、ラジオ等によって)休講とします。したがって次のように行動してください。

- a 在宅中のときは、そこにとどまってください。
- b 通学途中、または帰宅途中のときは、直ちに帰宅してください。
- c 在校中のときは、大学からの連絡、指示により直ちに帰宅してください。

(2) 警戒宣言が解除されたとき、または判定会が解散されたときは、休講を解いて平常授業を行います。授業再開については、後述する交通機関のストライキの場合に準じます。

※以上の措置は、地震発生の際の被害を極力減らすためのものですので、学生の皆様のご協力をお願いします。

2. 大規模地震(震度5弱以上)が発生したとき

本学は震度5弱以上の地震が発生した場合、授業およびすべての業務・イベントを中止します。

(1) 構内にいる場合には、教職員の指示に従ってください。

(2) 大学からの情報は、すべて大学公式ウェブサイト(<http://www.hosei.ac.jp>)に掲載されます。その指示に従い、大学への安否等の連絡を適宜行ってください。

(3) お知らせ配信
法政大学情報ポータルサイトで「メール配信設定」を行い、スマートフォン等で大学からののお知らせを受信できるようにしておきましょう。

(4) Twitter (@hosei_pr) の活用
必要に応じ、活用してください。

(5) 大地震対応マニュアル
全学生に配布しています。必要な方は所属する学部窓口でお受け取りください。

3. 交通機関のストライキによる休講措置について

大学からの最新情報は、すべて大学公式ウェブサイト (<http://www.hosei.ac.jp>)
もしくは法政大学広報課Twitter(@hosei_pr)に掲載されます。

<市ヶ谷地区>

JRのストライキにより電車が運行されないときは、原則として下記により
授業を休講します。

- (1) 午前6時までにストライキが解除されないとき、1・2時限の授業を休講
します。
- (2) 午前10時までにストライキが解除されないとき、1～5時限の授業を休講
します。
- (3) 正午までにストライキが解除されないとき、すべての授業を休講します。

4. 台風など自然災害の際の休講措置について

法政大学では授業実施期間中に、台風や大雪等により公共交通機関に大きな乱
れが生じることが予想される場合、あるいは学生の通学に危険が生じると判断し
た場合は、以下の通り授業を休講することがあります。

- (1) 天候悪化等により首都圏の公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想
される場合、あるいは暴風警報の発令等により通学に危険が生じると考えら
れる場合、大学は当日の授業の実施について協議し、その結果を以下の通り
周知します。
 - a 1・2時限の授業について、当日 6:00 までに大学公式ツイッターに休講措置
の有無を掲載します。また、6:30 頃までに大学公式ウェブサイトに同内容
を掲載します。
 - b 3～5時限の授業について、当日 10:00 までに大学公式ウェブサイトに休講
措置の有無を掲載します。
 - c 6・7時限の授業について、当日 15:00 までに大学公式ウェブサイトに休講
措置の有無を掲載します。
- (2) 事前に台風上陸等により公共交通機関の大きな乱れが生じることが予想さ
れる場合は、前日 17:00 までに上記周知の方法を大学公式ウェブサイトに掲
載し、学生・教職員に周知をします。
- (3) 上記によらず、前日において翌日の授業実施に大きな影響があると判断さ
れる場合は、前日 17:00 までに翌日の授業休講を決定し、大学公式ウェブサ
イトに掲載することがあります。

2019 年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

V

その他

1. 転籍・転部・転科試験について
2. 継続学士入学試験について
3. 大学院進学について
4. FAQ（よくある質問）

V その他

1. 転籍・転部・転科試験について

(1) 転籍・転部・転科とは

- ① 転籍 学部の間を問わず、通信教育課程の学生が通学課程へ又は、通学課程の学生が通信教育課程へ移ること。
- ② 転部 学生が他の学部へ移ること。
- ③ 転科 学生が現在在籍している同学部内の他の学科へ移ること。

(2) 出願方法

- ① 募集対象学年等の試験の詳細についてはウェブサイト（下記）に掲載の「転籍、転部、転科試験要項」にて確認してください（転籍・転部・転科の出願に必要な書式は学部窓口で9月から配布を開始します。編入学試験のものとは異なります）。受験した入学試験によって、転部・転科ができないなどの制限があります。詳細は試験要項で確認してください。

ウェブサイト：<http://nyushi.hosei.ac.jp/nyushi/hennyu>

(3) 通信教育部への転籍について

期日までに申し出願し、選考の許可を受ければ、本学を離籍することなく通信教育課程に転籍することができます。

通信教育課程の各学部には、毎年度、通学課程より約20名程度が転籍しています。

転籍の条件、転籍先の学部学科等については、「転籍要項」を参照してください。

12月中旬から翌年10月下旬まで、通信教育部窓口（大内山校舎3階）で入学案内冊子および出願に必要な書類一式を同封した「転籍要項」を配布します。多摩・小金井キャンパス所属学部の転籍希望者は学部窓口でも「転籍要項」を入手することができます。「転籍要項」は無料です。

参考：通信教育部ウェブサイト

- ・通信教育部について
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/>
- ・通信教育部の学部・学科・教職課程
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/>
- ・通信教育部の学習方法
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/>
- ・学習環境・サポート制度
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/>
- ・法政大学通信教育部 Facebook
<https://www.facebook.com/hosei.correspondence>
- ・法政大学通信教育部 Twitter
https://twitter.com/hosei_correspo

お問い合わせ先

通信教育部窓口(市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 3階)

平日 9:00-17:00 土日祝日閉室

TEL 03-3264-6370

通信教育部ウェブサイト <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/>

2. 継続学士入学試験について

(1) 継続学士とは

当該年度3月に本学を卒業する者が、引き続き次年度4月から、本学の他学部もしくは他学科に継続して入学すること。

(2) 出願方法

当該年度3月に卒業見込みの場合に志願することができます。試験日は12月です。詳細については要項で確認してください。

継続学士入学試験の出願に必要な書式は各所属の窓口で9月から配布を開始します(編入学試験のものとは異なるので注意してください)。

3. 大学院進学について

(1) 法政大学大学院(市ヶ谷・多摩・小金井キャンパス)

受験希望者は各研究科の事務担当に詳細を問い合わせてください。

なお、入試概要・入試要項はウェブサイトからも参照できます。

・法政大学大学院ウェブサイト <http://www.hosei.ac.jp/gs/>

・各研究科担当の問い合わせ先

<http://www.hosei.ac.jp/gs/nyushi/toiawase/toiawase.html>

(2) 法政大学専門職大学院

受験希望者は各専門職大学院に詳細を問い合わせてください。
なお、入試概要・入試要項はウェブサイトからも参照できます。

- ・法務研究科 <http://hosei-law.cc-town.net/>
- ・イノベーション・マネジメント研究科 <http://www.im.i.hosei.ac.jp/>

(3) 他大学の大学院受験の場合

各自で志望する大学へ問い合わせ出願してください。

4. FAQ(よくある質問)

問い合わせの多い事例	回 答
I 学籍	
学生証の磁気がすぐに破損してしまうから、再発行してほしい。	まずは、共通-(2)を参照し、保管方法に注意してください。それでも、磁気がすぐに破損してしまう場合は所属学部の窓口に出してください。有償で再発行します。
学生証の裏面シールが送られてこない。	4月に学費振込用紙とともに保証人宛に郵送しています。保証人に確認をしてください。もしも紛失した場合は、有償で再発行します。
4年生の春学期で卒業所要単位を修得済だが、春学期の成績通知書には、「卒業見込」と記載されている。この状態で卒業は可能なのか確認したい。	大学を卒業するには、4年以上大学に在学する必要がありますので、現時点では「卒業見込」となります。卒業所要単位を満たしているかという確認は「成績通知書」を持参し、学部窓口で相談してください。
進級・卒業に必要な単位を修得していれば、休学しても大丈夫だと思っていた。	進級・卒業には必要単位の要件もありますが、在学年数の要件もありますので、進級・卒業要件を必ず確認してください。
休学願を2年分提出したい。	一度に2年分の休学願を提出することも可能です。その場合は、休学する年度ごとに休学願を用意し、学部窓口に出してください。万一、休学願を取り下げの場合は、お早めに学部窓口に出してください。
II 履修	
履修許可が必要な科目の初回授業に出席しておらず、履修登録期間内に許可を取るのが難しい。今から履修することはできるか、また履修登録を延長してもらえないか。	まずは、その科目を担当する教員が他の科目を担当していないか、時間割やシラバスで確認してください。他の科目を担当している場合は、その授業の前後で教員に履修許可をもらえないか相談してください。履修登録期間の延長は認められません。
教員に履修許可を得たので、履修登録をしなくてもよいと思った。	履修許可を得ただけでは、履修登録したことになりません。自身でWeb履修登録をする必要があります。また、履修登録期間外の科目の追加は認められません。
授業支援システムに入力したので、履修登録は終わったと思っていた。	法政大学情報ポータルサイトと授業支援システムは別のシステムで連動していません。授業支援システムでは履修登録はできません。
成績調査の結果次第で、履修内容が変わるため、履修登録期間を延長して欲しい。	学部窓口で相談してください。
履修登録していない授業に出ていた。	単位の修得は、履修登録した科目のみ可能です。履修登録をしていない科目の単位修得はできません。また、履修登録期間外の科目の追加は認められません。
履修登録科目確認通知書に記載の科目と授業支援システムに登録した科目が一致しないが、どちらが正しいのか。	情報ポータルサイトの登録科目が正規の履修登録科目です。履修登録した科目については必ず、「履修登録科目確認通知書」を印刷、確認してください。確認後も履修年度中は大切に保管してください。なお、学部窓口では、履修および成績についての相談を受け付けていますが、あくまで相談であり、進級および卒業を保証するものではありません。履修および成績については、必ず自分自身で責任をもって確認するようにしてください。

「English」の習熟度別クラスについていけないので、クラスを変更したい。	英語能力の測定テストに基づき、クラスを決定しています。クラス変更はできません。
第二外国語を変更したい。	入学時に選択した諸外国語を変更することはできません。
2年次英語・諸外国語選択希望登録を忘れていた。	指定された期間に回答しなかった場合には、自動的にパターンAまたはパターンBが割り振られます。
III 授業	
台風が接近しているが、明日の授業はあるのか。	1・2時限の授業については、当日の6:00までに大学公式ツイッターに休講措置の有無を掲載します。また、6:30頃までに大学公式ウェブサイトと同内容を周知します。3～5時限の授業については、当日の10:00までに大学公式ウェブサイト休講措置の有無を掲載します。6・7時限の授業については、当日15:00までに大学公式ウェブサイト休講措置の有無を掲載します。
体調不良で授業を休みたいので、教員に連絡してほしい。	学部窓口では、欠席証明書の発行や教員への欠席連絡は行っていません。授業時間内もしくはその前後に教員に直接説明するようにしてください。ただし、定期試験やそれに準ずる試験の場合には、追試験を受けられる可能性がありますので、学部窓口にご相談してください。
公欠、忌引、病気（軽度の）によって授業を欠席する場合は、どのようにしたらよいか	授業時間内もしくはその前後に教員に直接説明するようにしてください。ただし、定期試験やそれに準ずる試験の場合には、追試験を受けられる可能性がありますので、学部窓口にご相談してください。
祝日に授業をするのは止めてほしい。	大学が学生に単位を付与するにあたっては、定められた授業時間を確保しなければなりません。授業時間数を確保するために、祝日にも授業を実施する必要があります。
IV 試験・成績	
第二体育会の公欠願は未受験代替措置の対象にならないか。	未受験代替措置の対象となりません。
帰省中（海外留学生）、留学中のため、成績調査期間に窓口に行くことができないが、成績調査を受け付けて欲しい。	事前に成績調査期間を周知したうえで、窓口で本人確認を受け付けているため、窓口に来られない場合は受け付けられません。 ※SA参加者のみメールで対応しています
V その他	
教員の連絡先を教えてください。	各学部の対応は下記のとおりです。連絡先を公開している場合、連絡先は履修の手引き(人間環境学部はホームページ)に掲載しています。 法学部：オフィスアワーを活用してください。 文学部：専任教員のみ公開 経営学部：オフィスアワーを活用してください。 国際文化学部：専任教員のみ公開。その他は、オフィスアワーを活用してください。 人間環境学部：専任教員のみ公開 キャリアデザイン学部：専任教員のみ GIS：Office hour ページを確認してください。

HOSEI University

参考資料

- I. 学則 (1)
- II. 法政大学憲章 (24)
- III. 法政大学ダイバーシティ宣言 (25)
- IV. 校舎案内図・施設一覧 (26)

第1章 総 則

(目的)

第1条 本大学は民主主義の精神に基づき、荣誉ある学芸の殿堂としてひろく世界の文化を摂取し、知識の深奥を究め、もって真理と平和とを愛し、公共の福祉に献身する教養ある社会人を育成することを目的とする。

2 学部学科ごとの人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的を別表(11)の通り定める。

(教育研究活動等の情報の公表)

第1条の2 本大学は、法令に基づき、教育研究活動等の状況についての情報を積極的に公表する。

(学部等)

第2条 本大学に法学部、文学部、経済学部、社会学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、現代福祉学部、情報科学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部、理工学部、生命科学部、グローバル教養学部及びスポーツ健康学部を置く。

2 本大学に教育開発支援機構を置く。但し、教育開発支援機構については別に定める。

3 本大学にグローバル教育センターを置く。但し、グローバル教育センターについては別に定める。

(学科及び入学定員等)

第3条 本大学の学部に次の学科を置く。

法学部	法律学科、政治学科、国際政治学科
文学部	哲学科、日本文学科、英文学科、史学科、地理学科、心理学科
経済学部	経済学科、国際経済学科、現代ビジネス学科
社会学部	社会政策科学科、社会学科、メディア社会学科
経営学部	経営学科、経営戦略学科、市場経営学科
国際文化学部	国際文化学科
人間環境学部	人間環境学科
現代福祉学部	福祉コミュニティ学科、臨床心理学科
情報科学部	コンピュータ科学科、デジタルメディア学科
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学科
デザイン工学部	建築学科、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科
理工学部	機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科、経営システム工学科、創生科学科
生命科学部	生命機能学科、環境応用化学科、応用植物科学科
グローバル教養学部	グローバル教養学科
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科

2 文学部日本文学科、人間環境学部及びキャリアデザイン学部は昼夜開講制とする。

3 本大学の学部にスポーツ・サイエンス・インスティテュート（以下SSIという。）を置く。

4 (削除)

5 法学部、文学部、経済学部に通信教育課程を置き、通信教育部と称する。但し、通信教育部に関する学則は別に定める。

6 本大学の学生定員は、次の通りとする。

学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
		3年次	
法学部	804		3,216
法律学科	483		1,932
政治学科	172		688
国際政治学科	149		596
文学部	655		2,620
哲学科	77		308
日本文学科	187		748
英文学科	126		504
史学科	100		400
地理学科	99		396
心理学科	66		264
経済学部	876		3,504
経済学科	482		1,928
国際経済学科	244		976
現代ビジネス学科	150		600
社会学部	742		2,968
社会政策科学科	216		864
社会学科	316		1,264
メディア社会学科	210		840
経営学部	761		3,044
経営学科	316		1,264
経営戦略学科	232		928
市場経営学科	213		852
国際文化学部	249		996
国際文化学科	249		996
人間環境学部	333		1,332
人間環境学科	333		1,332
現代福祉学部	231		924
福祉コミュニティ学科	147		588
臨床心理学科	84		336

情報科学部	156		624
コンピュータ科学科	78		312
デジタルメディア学科	78		312
キャリアデザイン学部	294		1,176
キャリアデザイン学科	294		1,176
デザイン工学部	292		1,168
建築学科	132		528
都市環境デザイン工学科	80		320
システムデザイン学科	80		320
理工学部	553		2,212
機械工学科	143		572
電気電子工学科	110		440
応用情報工学科	110		440
経営システム工学科	80		320
創生科学科	110		440
生命科学部	230		920
生命機能学科	72		288
環境応用化学科	80		320
応用植物科学科	78		312
グローバル教養学部	100		400
グローバル教養学科	100		400
スポーツ健康学部	165		660
スポーツ健康学科	165		660
計	6,441		25,764

(大学院及び専門職大学院)

第4条 本大学に大学院及び専門職大学院を置く。但し、大学院及び専門職大学院に関する学則は別に定める。

(図書館及び教育研究施設)

第5条 本大学に図書館、研究室、研究所及び他の附属施設を置く。但し、これらに関する規程は別に定める。

第2章 職員組織

(総長)

第6条 本大学に総長を置く。

2 総長は、校務を掌り所属職員を統督する。

(学部長)

第7条 本大学の学部に学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する校務を掌る。

3 (削除)

(教職員)

第8条 本大学に教授、准教授、講師、助教、助手及びその他の職員を置く。但し、職員に関する規程は、別に定める。

(教授会の設置)

第9条 本大学に教授会を置く。

2 教授会は、学部ごとに、その所属する教授及び准教授をもって組織する。但し、学部の定めるところにより、専任講師、助教を加えることができる。

3 教授会に関する事項は、別に定める。

(教授会)

第10条 教授会は学部長が必要と認めたとき、又は教授会構成員の3分の1以上の要求があったとき、学部長がこれを招集し、3分の2以上の出席をもって成立する。

2 教授会の議長は学部長とし、学部長に差支えがあるときは教授会の指名する教授がこれを代行する。

3 教授会は、次の事項を審議する。

(1) 学生の入学（転入学及び編入学含む）、卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 学部長の互選

(4) 教員の人事に関する事項

(5) 教育課程及び授業科目の編成に関する事項

(6) 授業科目その他の担当者に関する事項

(7) 入学試験に関する事項

(8) 授業科目試験に関する事項

(9) 学生の賞罰に関する事項

(10) 学籍に関する事項

(11) 名誉教授の推薦に関する事項

(12) 教授中より学校法人の役員の推薦に関する事項

(13) その他、総長が必要と認める事項

4 教授会は、前項に規定するもののほか、総長及び学部長が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び総長の求めに応じ、意見を述べることができる。

5 第3項第10号により、教授会の審議を要する学籍に関する事項は、学生の進級、留級、転部、転科、転専修、通教転籍、退学、除籍、復学、復籍、休学及び留学とする。なお、学籍の取扱については別に定める。

(学部長会議)

第11条 総長は、各学部の共通事項を審議するため学部長会議を招集する。

2 学部長会議に関する事項は、別に定める。

第12条 (削除)

2 (削除)

3 (削除)

第3章 学 部

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限及び在学年限)

第13条 本大学の修業年限は、4ヵ年とする。但し、学生は休学期間を除き、本大学に8ヵ年を超えて在学することはできない。

2 春学期在学し、秋学期に休学、退学及び除籍になった場合、あるいは秋学期に復学及び復籍した場合、また、春学期に休学し、秋学期に在学した場合、当該年度の在学期間は0.5年として計算する。

3 第31条及び第32条によって入学した者は、該当修業年限の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

第2節 教 育 課 程

(教育課程及び授業科目)

第14条 学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 学部、学科の授業科目は、第17条及び第17条の2に掲げる科目に分け、これを4ヵ年に配当して授業を実施する。

(英語による授業等により学位を取得することが可能な教育課程)

第14条の2 本大学の次の学部に英語による授業等により学位を取得することが可能な教育課程を置く。

経営学部経営学科グローバルビジネスプログラム (以下、GBPという。)

人間環境学部人間環境学科持続可能社会共創プログラム (以下、SCOPEという。)

経済学部経済学科グローバル経済学・社会科学インスティテュート (以下、IGESSという。)

(社会人のための教育課程)

第14条の3 本大学の次の学部に社会人のための教育課程を置く。

人間環境学部人間環境学科リフレッシュ・ステージ・プログラム (以下、RSPという。)

(授業科目及び単位数)

第15条 第14条に掲げる授業科目及び単位数は、別表(1)の通り定める。

(総合科目)

第15条の2 別表(1)に掲げる総合科目は、専門教育科目の卒業所要単位に充てることができる。この場合の授業科目及び単位数は別に定める。

第16条 (削除)

(卒業所要単位)

第17条 法学部の卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 44単位以上

専門教育科目 88単位以上

1-2 (削除)

2 文学部の卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 44単位以上

専門教育科目 88単位以上

3-1 経営学部の卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 44単位以上

連環科目 4単位以上20単位以下

専門教育科目 68単位以上

3-2 経営学部G B Pの卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、連環科目については、20単位まで卒業所要単位として認める。

基礎科目 36単位以上

連環科目 20単位以下

専門教育科目 68単位以上

4 国際文化学部の卒業所要単位は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、学部専門科目と自由科目を合計して86単位以上修得しなければならない。

基礎科目 46単位以上

学部専門科目 66単位以上

自由科目 20単位以下

5-1 人間環境学部の卒業所要単位数は130単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 40単位以上

リテラシー科目 6単位以上

展開科目 84単位以上

5-2 人間環境学部S C O P Eの卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 31単位以上

展開科目 40単位以上

5-3 人間環境学部R S Pの卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 36単位以上

展開科目 88単位以上

6 キャリアデザイン学部の卒業所要単位は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	36単位以上
基幹科目	20単位以上
	(但し、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」から選択した一つの領域で6単位以上)
展開科目	52単位以上
	(但し、基幹科目で選択した領域と同様の領域で36単位以上)

7-1 経済学部経済学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、外国語科目と保健体育科目と総合教育科目と専門教育科目を合計して120単位以上修得しなければならない。

基礎教育科目	4単位
外国語科目	12単位
保健体育科目	2単位以上
総合教育科目	26単位以上
専門教育科目	76単位以上

7-2 経済学部国際経済学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、外国語科目と保健体育科目と総合教育科目と専門教育科目を合計して120単位以上修得しなければならない。

基礎教育科目	4単位
外国語科目	20単位
保健体育科目	2単位以上
総合教育科目	24単位以上
専門教育科目	70単位以上

7-3 経済学部現代ビジネス学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、外国語科目と保健体育科目と総合教育科目と専門教育科目を合計して120単位以上修得しなければならない。

基礎教育科目	4単位
外国語科目	12単位
保健体育科目	2単位以上
総合教育科目	22単位以上
専門教育科目	80単位以上

7-4 経済学部 I G E S S の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、人文分野、社会分野、自然分野、言語教育分野、情報学分野、キャリア分野、保健体育分野を合計して12単位以上修得しなければならない。

総合教育科目	40単位以上
専門科目	80単位以上

8-1 社会学部社会政策科学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目	30単位以上
学科専門科目	74単位以上
自由選択科目	20単位以上

8-2 社会学部社会学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目	30単位以上
学科専門科目	74単位以上
	(但し、「国際・社会コース」選択者は62単位以上)
外国語教育プログラム	12単位以上
	(但し、「国際・社会コース」選択者のみに適用)
自由選択科目	20単位以上

8-3 社会学部メディア社会学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目	30単位以上
学科専門科目	74単位以上
自由選択科目	20単位以上

9 (削除)

10 現代福祉学部の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合教育科目	30単位以上
専門教育科目	80単位以上

11-1 情報科学部コンピュータ科学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目	10単位
教養科目	10単位
科学基礎科目	9単位以上
専門科目	74単位以上

11-2 情報科学部デジタルメディア学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目	10単位
教養科目	10単位
科学基礎科目	13単位以上
専門科目	72単位以上

12-1 デザイン工学部建築学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目	8単位
基盤科目	8単位
専門科目	64単位以上

12-2 デザイン工学部都市環境デザイン工学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目	8単位
基盤科目	40単位以上
専門科目	76単位以上

12-3 デザイン工学部システムデザイン学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目	8単位
基盤科目	25単位以上
専門科目	80単位以上

13-1 理工学部機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科，経営システム工学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

英語科目	8単位以上
教養科目	12単位以上
理系教養科目	12単位以上
専門教育科目	80単位以上
公開選択科目	12単位以下

13-2 理工学部創生科学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

英語・選択語学系	18単位以上
教養科目	12単位以上
理系教養科目	12単位以上
専門教育科目	62単位以上
公開選択科目	12単位以下

14 生命科学部の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、卒業所要単位としては、英語科目，教養科目，理系教養科目合わせて44単位まで，専門教育科目92単位，自由選択科目12単位まで認める。

英語科目	8単位以上
教養科目及び理系教養科目	24単位以上
専門教育科目	80単位以上
自由選択科目	12単位以下

15 グローバル教養学部の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目	16単位以上
入門科目	22単位以上
中級科目	36単位以上
上級科目・演習科目	36単位以上

16 スポーツ健康学部の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合教育科目	28単位以上
専門教育科目	84単位以上

(SS I 卒業所要単位)

第17条の2 法学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
専門教育科目	56単位以上

2 文学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
専門教育科目	56単位以上

3 経営学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
連環科目	4単位以上8単位以下
専門教育科目	48単位以上

4 国際文化学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、学部専門科目と自由科目を合計して62単位以上修得しなければならない。

基礎科目	26単位以上
SS I科目	44単位以上
学部専門科目	38単位以上
自由科目	18単位以上

5 人間環境学部SS Iの卒業所要単位数は130単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
リテラシー科目	6単位以上
展開科目	56単位以上

6 キャリアデザイン学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
専門教育科目	56単位以上

7 経済学部経済学科SS I，現代ビジネス学科SS Iの卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎教育科目	4単位
外国語科目	6単位
保健体育科目	2単位以上
総合教育科目	14単位以上
SS I科目	44単位以上

専門教育科目 54単位以上

8-1 社会学部社会政策科学科 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目 30単位以上 (S S I 基礎科目14単位を含む)

学科専門科目 74単位以上

自由選択科目 20単位以上

(学科専門科目、自由選択科目をあわせて S S I 専門科目30単位以上を含む)

8-2 社会学部社会学科 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目 30単位以上 (S S I 基礎科目14単位を含む)

学科専門科目 74単位以上

(但し、「国際・社会コース」選択者は62単位以上)

外国語教育プログラム 12単位以上

(但し、「国際・社会コース」選択者のみに適用)

自由選択科目 20単位以上

(学科専門科目、自由選択科目をあわせて S S I 専門科目30単位以上を含む)

8-3 社会学部メディア社会学科 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目 30単位以上 (S S I 基礎科目14単位を含む)

学科専門科目 74単位以上

自由選択科目 20単位以上

(学科専門科目、自由選択科目をあわせて S S I 専門科目30単位以上を含む)

9 現代福祉学部 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合教育科目 30単位以上

S S I 科目 44単位以上

専門教育科目 50単位以上

10 デザイン工学部システムデザイン学科 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目 4単位以上

基盤科目 14単位以上

S S I 科目 44単位以上

専門科目 56単位以上

11 (削除)

第17条の3 (削除)

(他学部公開科目及び他学科開設科目の履修)

第18条 (削除)

2 他の学部及び学科に属する授業科目を選択科目又は自由科目として充てることができる。この場合の

授業科目及び単位数は別に定める。

3 (削除)

4 (削除)

5 (削除)

第18条の2 (削除)

(大学院及び専門職大学院開設科目の履修)

第18条の3 大学院及び専門職大学院における授業科目を選択科目又は自由科目として充てることができる。この場合の授業科目および単位数は別に定める。

第18条の4 (削除)

第18条の5 (削除)

(グローバル・オープン科目の履修)

第18条の6 本大学の学部グローバル・オープン科目を置く。

2 グローバル・オープン科目は、選択科目又は自由科目に充てることができる。この場合の授業科目および単位数は別に定める。

(グローバル教育センター設置科目の履修)

第18条の7 本大学の学部グローバル教育センター設置科目を置く。

2 別表(1)に掲げるグローバル教育センター設置科目は、必修科目、選択科目又は自由科目に充てることができる。この場合の授業科目及び単位数は別に定める。

(進級に関する規程)

第19条 学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、又は所定の単位を修得しない場合は、別に定める規程により進級することができない。

2 進級は、前項と各年次における学修期間1年間を充たしている学生につき、学年度始めに認める。

第20条 (削除)

(通信教育課程との単位互換)

第21条 通信教育課程の修得単位は、大学の通常課程における単位と互に転換することができる。

2 前項による場合は、当該学部長の許可を得なければならない。

(大学以外の教育施設等における学修)

第21条の2 短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修については、教育上有益と認められる場合、教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修と見なし卒業所要単位として単位を与えることができる。与えることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(入学前既修得単位の認定)

第21条の3 本大学に入学する前に大学、短期大学、高等専門学校及び短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修において履修した授業科目について修得した単位を、教育上有益と認められる場合、教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修により修得したものと見なし、転・編入学の場合を除き、卒業所要単位として認めることができる。認めることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(他の大学等における履修)

第21条の4 大学の定めるところによる他の大学又は短期大学において修得した単位は、教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修により修得したものと見なし、卒業所要単位として単位を与えることができる。与えることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(多様なメディアを高度に利用した学修)

第21条の5 文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を教室以外の場所で履修することができる。この方法により与えることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(履修科目登録)

第22条 学生は、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間内に届け出て承認を得なければならない。

(履修科目の登録の上限)

第22条の2 学生が1年間に履修科目として登録できる単位数は、学部の定めるところによる。但し、第3項及び第24条第1項に定める科目を除き、49単位以下とする(再履修単位を含む)。

2 学部は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

3 第28条第1項第4号に規定する夏季、冬季及び春季休業日において実施される授業科目について、履修科目として登録できる単位数は、別に学部の定めるところによる。

(単位)

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。

(3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法のうち、二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(教職課程及び資格課程)

第24条 中学校・高等学校教育職員、司書教諭、司書及び学芸員の資格を得ようとする者、ならびに社会教育主事を志望する者は、学部学科の専門教育科目の他にそれぞれ定められた授業科目の単位を修得しなければならない。

2 中学校・高等学校教育職員の資格を得るために必要な授業科目は、別表(3)の通りとする。

3 司書教諭の資格を得るために必要な授業科目は、別表(4)の通りとする。

- 4 司書の資格を得るために必要な授業科目は、別表(5)の通りとする。
- 5 学芸員の資格を得るために必要な授業科目は、別表(6)の通りとする。
- 6 社会教育主事を志望するために必要な授業科目は、別表(7)の通りとする。
- 7 教職に関する専門科目の併修により取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表(8)の通りとする。

第3節 試験及び成績評価

(試験)

第25条 履修した授業科目については、定期の試験を行い、学業成績を考査する。但し、課業の進行により臨時に試験を行うことがある。

- 2 卒業論文試験には、口述試験を行うことがある。
- 3 学費を所定の期日までに納付しない者は、試験を受けることができない。但し、特別の事由により所定の期日までに納付できない者は、願い出によって許可することがある。
- 4 試験の方法は、別に定める規程による。
- 5 休学又は停学の期間中は試験を受けることができない。
- 6 春学期完了の授業科目を受験し、単位を修得した者が秋学期に休学、退学及び除籍になった場合は当該受験科目の単位及び成績は認定する。
- 7 第36条の規定により春学期に休学した者、又は第40条の規定により秋学期に復学及び復籍を許可された者が秋学期完了の授業科目を受験し、単位を修得した場合、当該受験科目の単位及び成績は認定する。

(成績評価)

第26条 学業成績評価は、S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、Dの11段階に分けて、S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-は合格として所定の単位を与える。Dは不合格とする。また、修得単位認定をRR、留学による外国大学の修得単位認定をRSとする。

2 学業成績評価と素点の関係については以下のとおりとする。

- | | |
|---------|---------|
| (1) S | 100～90点 |
| (2) A+ | 89～87点 |
| (3) A | 86～83点 |
| (4) A- | 82～80点 |
| (5) B+ | 79～77点 |
| (6) B | 76～73点 |
| (7) B- | 72～70点 |
| (8) C+ | 69～67点 |
| (9) C | 66～63点 |
| (10) C- | 62～60点 |
| (11) D | 59～0点 |

- 3 第1項の規定にかかわらず、学部の定めるところにより、学業成績評価は、Pは合格として所定の単位を与え、Fは不合格とすることができる。
- 4 第1項の成績評価による学習成果を総合的に判断する指標として、Grade Point Averageを用いることができる。
- 5 第1項の規定にかかわらず、学部の定めるところにより、入学前既修得単位認定の学業成績評価は、S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-として所定の単位を与えることができる。
- 6 前五項の成績は通知する。
- 7 学業成績評価は、学期終了時に確定するものとする。

第4節 学年、学期及び休業日

(学年)

第27条 本大学の学年は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。但し、秋学期に入学した場合の学年は、毎年9月16日に始まり翌年9月15日に終わる。

- 2 学年は、春学期と秋学期にわけ次の通りとする。但し、教育上必要な場合、総長は、学部長会議の議を経て、春学期の終了日及び秋学期の開始日を変更することができる。

春学期 4月1日より9月15日まで

秋学期 9月16日より翌年3月31日まで

- 3 前項に定める各学期をそれぞれ前半及び後半に分けることができるものとする。

(休業日)

第28条 休業日は、次の通りとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 法政大学創立記念日 4月10日
- (4) 夏季、冬季及び春季休業日については別に定める。

- 2 (削除)

- 3 総長は、必要がある場合、第1項の休業日を臨時に変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。
- 4 休業日の変更又は臨時の休業日については、そのつど公示する。
- 5 第1項の規定にかかわらず、教育上必要がある場合は、休業日に授業等を行うことがある。
- 6 夏季休業、春季休業の期間に特別授業期間を設けることができる。

第5節 入学、転籍、転部、留学、休学、退学、復学、除籍及び復籍

(入学)

第29条 本大学の入学期は、毎学年の初めとする。但し、秋学期に入学した者の入学日は9月10日とする。

- 2 前項の規定による秋学期の入学は、グローバル教養学部及び第14条の2の規定により英語による授業等により学位を取得することが可能な教育課程において実施する。なお、秋学期入学者の取扱については別に定める。
- 3 本大学に入学を志願する者は、所定の手続きを行い入学試験を受けなければならない。
- 4 第30条第1項各号の一に該当し、かつ本大学所定の入学試験に合格した者について、教授会の議を経て、総長が入学を許可する。

(入学資格)

第30条 本大学に入学できる者は、次の資格を有する者とする。

- (1) 高等学校卒業者
- (2) 中等教育学校を卒業した者
- (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (4) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）
- (9) その他本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(転・編入学)

第31条 第2・3学年においては、転・編入学志願者に試験を行い、転・編入学を許可することがある。

- 2 本大学に転・編入学できる者は、次の資格を有する者とする。
 - (1) 学士の学位を有する者
 - (2) 大学において相当年次の課程を修了した者
 - (3) 短期大学及び高等専門学校を卒業した者
 - (4) 外国において相当年次の課程を修了した者
 - (5) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たす課程を修了した者
 - (6) (削除)
 - (7) 高等学校専攻科（修業年限が2年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）を修了した者
- 3 転・編入学の可否は、教授会の議を経て、総長が決定する。

4 転・編入学に関する規程は別に定める。

(転籍)

第32条 本大学の通常課程と通信教育課程の間には、別に定める規程により相互に転籍を願い出ることができる。

2 転籍の可否は、教授会の議を経て、総長が決定する。

第33条 (削除)

(転部・転科)

第34条 本大学の学生で他の学部、学科へ転部、転科を願い出る者は、選考の上許可することができる。

2 転部、転科の可否は、教授会の議を経て、総長が決定する。

3 転部、転科に関する規程は別に定める。

(留学)

第35条 本大学の定めに従って外国の大学で学修を志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した在学期間のうち、1か年に限り本大学における修業年限に含めることができる。但し、文学部英文学科、経済学部、経営学部、社会学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部、理工学部、生命科学部及びスポーツ健康学部については1.5か年（文学部英文学科、経済学部及び経営学部については1.5か年のうち0.5か年はスタディ・アブロード・プログラムに限る）、国際文化学部、現代福祉学部及びグローバル教養学部については2か年に限り本大学における修業年限に含めることができる。

3 許可を得て留学した者が、外国の大学で履修した授業科目について修得した単位は、教授会の議に基づき卒業所要単位として認めることができる。認めることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(休学)

第36条 病気その他止むを得ない事由により休学しようとする者は、保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て、総長の許可を受けなければならない。

2 休学期間は在学年数に算入することはできない。

3 休学は年間休学、春学期休学及び秋学期休学にかかわらず、当該年度限りとする。引き続き休学を要する者は、改めて願い出たうえ、連続して2年に限り許可を受けたうえで休学することができる。但し、外国人留学生が、母国において兵役義務によって休学する場合については別に定める。

4 休学期間は通算して4年を超えることはできない。なお、春学期休学及び秋学期休学は0.5年として計算する。

5 休学者は、学期の始めでなければ復することができない。

第36条の2 (削除)

(休学期間中の学修)

第36条の3 休学期間中は本学での科目履修は認めない。

2 他の大学等もしくは大学以外の教育施設等における学修または外国の大学等での学修を理由とする休学願が、事前に、教授会の議を経て、特段の理由をもって、総長に許可された場合には、第21条の2も

しくは第21条の4または第35条第3項を準用し、本学の単位として認定することがある。但し、当該休学期間は在学年数には算入しない。

3 前項の休学期間中の学修に関する手続き等については別に定める。

(退学)

第37条 病気その他止むを得ない事由で退学しようとする者は、保証人連署の退学願を提出し、教授会の議を経て、総長の許可を受けなければならない。

2 退学の日付は、教授会の議により、総長に許可された退学日とする。但し、死亡による退学は、死亡日をもって退学日とする。

(休学及び退学命令)

第38条 学校医が健康上の理由により修学が不相当と認めた者に対しては、教授会の議を経て、総長が休学、又は退学を命ずることができる。

(除籍)

第39条 次の各号の一つに該当する者は、教授会の議を経て、総長が除籍する。

(1) 授業料等を所定の期日までに納入しない者

(2) 第13条の在学年限を超えた者

(3) 第36条第4項の休学期間を超えた者

(4) (削除)

(5) 新入生で指定された期限までに学生証の未受領、履修届を提出しない等、本大学において修学する意志がないと認められる者

2 授業料等を所定の期日までに納入しない者の除籍の日付については、春学期未納は春学期の始めの日、秋学期未納は秋学期の始めの日とする。

3 在学年限を超えた者の除籍の日付については、満期となった期の最終日とする。但し、教育課程の編成上、やむを得ない場合においては、満期となった年度の最終日とすることができる。

(復学及び復籍)

第40条 退学した者及び第39条第1号により除籍された者が、保証人連署の上復学及び復籍を願い出たときは、教授会の議を経て、総長がこれを許可することができる。

2 復学及び復籍の時期は学年の始め又は秋学期の始めとする。

3 (削除)

第6節 学 費

(学費)

第41条 授業料、入学金、実験実習料、教育充実費、休学在籍料、再入学金及び検定料は別表(9)の通り定める。

2 本大学に入学を許可された者は、入学手続きと同時に授業料、入学金、実験実習料、教育充実費及び諸会費を納入しなければならない。

- 3 当該年度の学費の決定は4月1日をもって行い、当該年度途中での変更は行わない。但し、秋学期に入学した者の1年間の学費の決定は、9月16日をもって行う。
- 4 授業料、実験実習料及び教育充実費は、2期に分け半額宛を4月末日及び9月末日までに納入しなければならない。但し、事情によっては、総長が延納を認めることができる。
- 5 在学中、第19条及びその他の事情により進級できなかった者の授業料、実験実習料及び教育充実費については、原則として該当者の入学年度に定められたものを適用する。但し、諸会費については当該年次として定められたものを納入しなければならない。
- 6 第4年次終了までに卒業所要単位を修得できなかった者については、該当者の入学年度に定められた授業料、実験実習料及び教育充実費を納入しなければならない。また、諸会費については当該年次として定められたものを納入しなければならない。但し、4年次に1年間在学した者で、卒業所要単位における未修得科目24単位以内の者の年間授業料は半額とする。
- 7 第49条第2項及び第6項の規定により学年末に学位を授与された場合は、第2期分の学費は徴収しない。
- 8 第2年次以降の諸会費は、第1期分授業料と同時に納入しなければならない。
- 9 教職課程及び資格課程を履修する者は、別に定める教職課程費、理科実験料及び資格課程費を納入しなければならない。
- 10 休学を許可された者は、別表(9)の休学在籍料を納入するものとし、休学該当期間の授業料、実験実習料及び教育充実費の納入を要しない。また、休学を許可された者についての諸会費の取扱は以下の各号のとおりとする。
 - (1)年間休学を許可された者は、入会金を除き、原則として諸会費の納入を要しない。
 - (2)春学期休学又は秋学期休学を許可された者、あるいは春学期休学に引き続き秋学期休学を許可された者は、原則として諸会費の納入を要する。
- 11 前項の規定にかかわらず、入学（転籍、転・編入学、学士入学、復学及び復籍を含む）した当該学期に休学した場合は、休学該当期間のうち、入学した当該学期における授業料、実験実習料、教育充実費及び諸会費の納入を要する。但し、休学在籍料については、休学該当期間のうち、入学した当該学期の納入は要さない。
- 12 退学者が復学を、又は除籍された者が復籍を許可されたときは、別表(9)の再入学金を納入しなければならない。
- 13 復学・復籍する者の授業料、実験実習料、教育充実費及び諸会費は、該当年次として定められたものを適用する。
- 14 科目等履修生は、別表(9)の登録料及び履修料等を納入しなければならない。
- 15 一旦納入した学費その他は還付しない。
- 16 留学中の本大学の授業料等は納入しなければならない。
- 17 スタディ・アブロードに関する費用等については別に定める。
- 18 諸会費のうち校友会費については、第5項、第6項、第8項及び第10項の規定にかかわらず、4年次に進級した最初の年度の第1期分授業料と同時に納入しなければならない。
- 19 別表(1)のグローバル教育センター設置科目のうち、日本語教育プログラムの科目を履修するにあつ

ての受講料の取扱いについては別表(9)に定める。

(転・編入学及び転籍等に関する学費)

第41条の2 転・編入学及び転籍等に関する授業料、入学金、実験実習料、教育充実費及び検定料は前条の他次の通り定める。

- (1) 転・編入学を許可された者は、当該年度入学金を納入しなければならない。なお、授業料、実験実習料及び教育充実費については、転・編入学した年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用する。また、諸会費については該当年次として定められたものを納入しなければならない。
- (2) 学士入学を許可された者は、当該年度の入学金を納入しなければならない。なお、授業料、実験実習料及び教育充実費については、入学する年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用する。また、諸会費については該当年次として定められたものを納入しなければならない。但し、本学卒業生にして学士入学する者の入学金は、当該年度の半額とする。
- (3) (削除)
- (4) 通信教育の課程から通常の課程への転籍を許可された者は、当該年度の入学金を納入しなければならない。なお、授業料、実験実習料及び教育充実費については、転籍した年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用する。また、諸会費については該当年次として定められたものを納入しなければならない。
- (5) 本大学の学生で他の学部、学科へ転部、転科を許可された者の授業料、実験実習料及び教育充実費については、転部、転科を許可された学部、学科における当該学生の本学への入学年度に定められたものを適用する。

第7節 特別学生

(科目等履修生)

第42条 総長は、科目等履修生の入学を教授会の議を経て許可することがある。但し、科目等履修生の事項については、別に定める。

(特別研修生)

第42条の2 総長は、特別研修生の入学を教授会の議を経て許可することがある。但し、特別研修生の事項については、別に定める。

(特別聴講生)

第42条の3 総長は、特別聴講生の履修を教授会の議を経て許可することがある。但し、特別聴講生の事項については、別に定める。

(交流学生)

第42条の4 総長は、協定に基づく他大学の学生を交流学生とし、その入学を教授会の議を経て許可することがある。但し、交流学生の事項については、別に定める。

(交換留学生)

第42条の5 総長は、外国の大学からの協定に基づく交換留学生の受入れを教授会の議を経て許可するこ

とがある。但し、交換留学生の事項については、別に定める。

(履修証明プログラム生)

第42条の6 総長は、履修証明プログラム生の履修を許可することがある。但し、履修証明プログラム生の事項については、別に定める。

第43条 (削除)

第44条 (削除)

第45条 (削除)

第46条 (削除)

2 (削除)

3 (削除)

(外国人受入れ)

第47条 総長は、本大学に入学資格のある外国人で、本邦所在の外国公館の証明書が履修登録期間までである者は、定員に余裕のある限り、選考の上、入学を許可することができる。履修を許可する科目数については、別に定める。

(学則の準用)

第48条 別段の定めがない限り、本学則は、科目等履修生、特別研修生、特別聴講生、交流学生、交換留学生、履修証明プログラム生に準用する。

第8節 卒業・学位

(学位の授与)

第49条 総長は、4年以上在学し、卒業所要単位を修得した者には、学士の学位を与え学位記を授与する。

2 前項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は学年末に行う。但し、本人の申請により春学期末に行うことができる。

3 前項の規定にかかわらず、秋学期に入学し、第1項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は春学期末に行う。但し、本人の申請により秋学期末に行うことができる。

4 第1項の規定にかかわらず、総長は、3年以上在学し、卒業所要単位を優秀な成績で修得した者には学士の学位を与え、学位記を授与することができる。

5 前項の早期卒業に関する要件は別に定める。

6 前五項における卒業の確定日は、学年末は3月24日とし、春学期末は9月15日とする。

(学位)

第50条 前条の学位は、卒業学部・学科により次の通りとする。

法学部卒業	学士 (法学)
文学部卒業	学士 (文学)
経済学部卒業	学士 (経済学)
社会学部卒業	学士 (社会学)

経営学部卒業	学士（経営学）
国際文化学部卒業	学士（国際文化学）
人間環境学部卒業	学士（人間環境学）
現代福祉学部	
福祉コミュニティ学科卒業	学士（社会福祉学）
臨床心理学科卒業	学士（臨床心理学）
情報科学部卒業	学士（理学）
キャリアデザイン学部卒業	学士（キャリアデザイン）
デザイン工学部卒業	学士（工学）
理工学部卒業	学士（理工学）
生命科学部	
生命機能学科卒業	学士（生命科学）
環境応用化学科卒業	学士（理学）
応用植物科学科卒業	学士（生命科学）
グローバル教養学部卒業	学士（国際教養学）
スポーツ健康学部卒業	学士（スポーツ健康学）

第9節 公開講座及び履修証明プログラム

（公開講座）

第51条 本大学は、学部所在地、又はその他の地区において、適当な時期に公開講座を開講する。但し、公開講座に関する規程は別に定める。

（履修証明プログラム）

第51条の2 本大学は、学校教育法第105条に規定する特別の課程として履修証明プログラムを開設する。

第10節 賞 罰

（授賞）

第52条 人物及び学術が優れた者には授賞することがある。

2 授賞に関する規程は別に定める。

（懲戒）

第53条 学則又は命令に背き、その他学生の本分に悖ると認めたる者は、教授会の議を経て総長がこれを懲戒する。

2 懲戒は、譴責、停学、退学の3種とする。

3 前二項の懲戒に関し、必要な事項は別に定める。

第53条の2 (削除)

第4章 学生心得

(学生心得)

第54条 学生は、本大学創設の目的使命を達成するため、次の事項を守らなければならない。

- (1) 学生は、個人の尊厳を重んじ、知徳を錬磨して人格の完成をめざすこと。
- (2) 学生は、真理と自由を愛すると共に、責任を重んじ謙虚な態度を以て行動すること。
- (3) 学生は、自主的精神を養うと共に、自他の敬愛と協力によって、本大学の学風を振作する。
- (4) 学生は、良識ある公民としての政治的教養を修め、平和的国家及び社会の形成者となること。
- (5) 学生は、諸規則及び命令を守り、醇風良俗を守ること。

第5章 大学評価

(自己点検・評価)

第55条 本大学は、その教育研究水準の向上を図り、第1条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検および評価を行う。

2 前項の点検および評価に関する事項は、別に定める。

(認証評価)

第56条 本大学は、前条に規定する措置に加え、本大学の教育研究活動等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるものとする。

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来のこの精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。

法政大学ダイバーシティ宣言

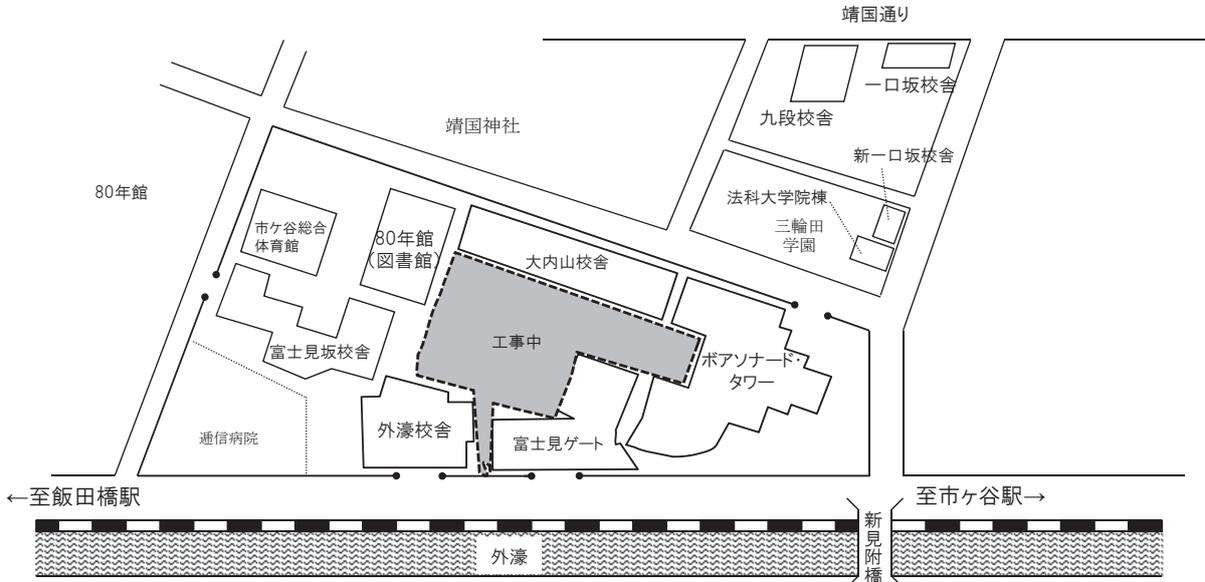
ダイバーシティの実現とは、社会の価値観が多様であることを認識し、自由な市民が有するそれぞれの価値観を個性として尊重することです。

人権の尊重はその第一歩です。性別、年齢、国籍、人種、民族、文化、宗教、障がい、性的少数者であることなどを理由とする差別がないことはもとより、これらの相違を個性として尊重することです。そして、これらの相違を多様性として受容し、互いの立場や生き方、感じ方、考え方に耳を傾け、理解を深め合うことです。少数者であるという理由だけで排斥あるいは差別されることなく、個性ある市民がそれぞれの望む幸福を追求する機会が保障され、誰もがいきいきと生活できる社会を実現することです。

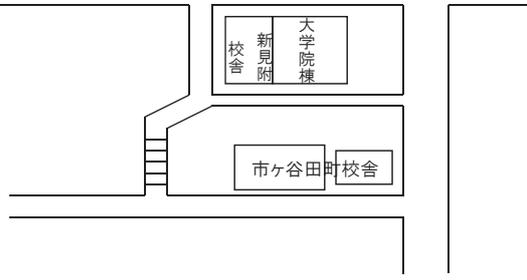
社会とともにある大学は、創造的で革新的な次世代を社会に送り出す教育組織として、また、社会の様々な課題の解決に寄与する研究組織として、ダイバーシティを推進する役割を担っています。多様な価値観を有する市民が助け合い、互いの望む幸福を実現できる社会の構築に向けて、貢献する役割を担っています。そのためには、多様な背景をもつ学生・教職員が、安心して創造的に、学び、働き、それぞれの個性を伸ばせる場である必要があります。

法政大学は、「自由と進歩」を校風とし、「自由を生き抜く実践知」の獲得を社会に約束しています。自由は特定の間人だけでなく、社会の成員すべてに保障されるべきものです。本学は、人権の尊重、多様性の受容、機会の保障を基盤にして、さまざまな国籍と文化的背景を持つ学生、教職員を積極的に受け容れ、自由を生き抜く実践知を世界に広げていくことができるよう、教育と研究を充実させていきます。

法政大学は、ダイバーシティの実現に向けて積極的に取り組んでいきます。



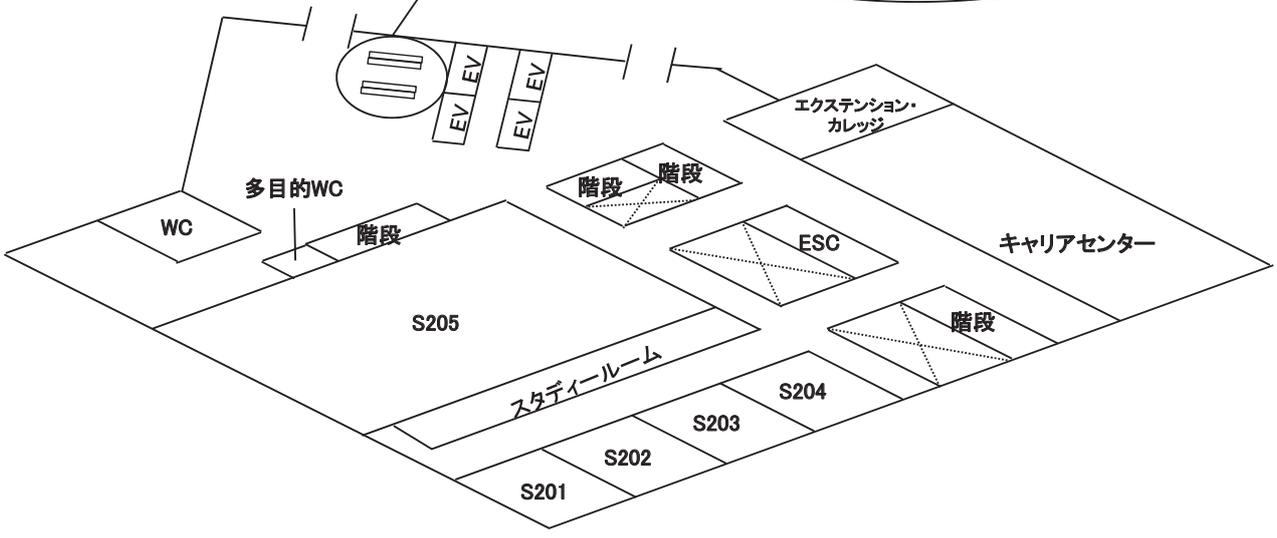
**市ヶ谷キャンパス
校舎案内図**



**学部事務課掲示板
外濠校舎2階**

法学部	国際文化学部	GIS
文学部	教職・資格	キャリアデザイン学部

GBP/SCOPE	人間環境学部	経営学部
学部事務課共通	市ヶ谷リベラルアーツ	



市ヶ谷キャンパス施設一覧

Y 大内山校舎
おおうちやまこうしゃ

G 富士見ゲート
ふじみげーと

S 外濠校舎
そとぼりこうしゃ

	階	施設名	階	施設名	階	施設名
教室・ゼミ教室	4	Y401～Y406	2	G201	2	S201～S205
	5	Y501～Y506	4	G401～G403	3	S301～S307
	6	Y601～Y606	5	G501～G503	4	S401～S407
	7	Y701～Y705	6	G601～G602	5	S501～S507
	8	Y801～Y805			6	S601～S603
特別教室・学習支援施設	2	Gラウンジ			1	メディアラウンジ
	3	キャリア情報ルーム			1	スタディールーム (定員87名)
					2	スタディールーム (定員32名) 学部事務課掲示板
					3	スタディールーム (定員32名)
					4	スタディールーム (定員32名)
					5	スタディールーム (定員34名)
					6	薩埵(さった)ホール
					7	スタディールーム (定員48名)
学生厚生施設			B1	売店、書店、写真店	1	セブンイレブン
			3	食堂「つどひ」	1	郵便局ATM
					6	マイコム学生サービスセンター
学生支援施設・事務室	1	学部窓口 (各学部・教職資格)			1	学生センター (学生生活課・厚生課)
	1	証明書自動発行機			1	ボランティアセンター
	2	グローバル教育センター (GEC)			1	障がい学生支援室
	3	通信教育部事務室			2	キャリアセンター
					2	公務人材育成センター
				2	高度会計人育成センター	
				2	エクステンション カレッジ	

市ヶ谷キャンパス施設一覧

F 富士見坂校舎
ふじみざかこうしゃ

**数字
4桁** ポアソナード・タワー (BT)

教室・ゼミ教室	階	施設名	
	1	遠隔講義室 (F101)	
	3	F301～F311	
	4	F401～F408	
	5	F501～F508	
特別教室・学習支援施設	1	図書館 (※1)	
	1	ラーニング・コモンズ	
	1	オフィスアワーラーム	
	2	学習ステーション	
	2	情報カフェテリア (1) (2)	
	3	教職課程実習室	
	3	スタディールーム (定員13名)	
	4	体育館 (※2)	
	学生厚生施設	B1	食堂
学生支援施設・事務室	3	教職課程センター	
	4	学生相談室	

階	施設名	階	施設名
5	0501～0509	9	0901～0907
6	0601～0609	10	1001～1007
7	0701～0706	11	1101～1103
8	0801～0806	12	1204
3	ピア・ラーニング・スペース	8	サイエンスルーム (物理) (0800)
3	マルチメディアスタ ジオ (0300)	9	サイエンスルーム (生物) (0900) 自然科学センター (0908)
3	フルラボ教室 (0308)	10	サイエンスルーム (化学) (1000)
3	CALL教室 (0309)	11	心理学実験室 (1100)
4	情報実習室D～H D (0400) E (0409) F (0405) G (0401) H (0402)	12	地理学実験室 (2) (1200)
5	情報実習室C (0500) フルラボ小教室 (0508)	13	地理学実験室 (1) (1300)
6	情報実習室B (0600) フルラボ中教室 (0609)	14	資格課程共同研究室
7	情報実習室A (0700)	26	スカイホール
B1	食堂	2	診療所
1	銀行ATM		
1	防災センター	4	総合情報センター 事務室

(※1)
図書館は、80年館地下1階～2階にもあります。

(※2)
体育館は、他に市ヶ谷総合体育館があります。